

令和3年度

埼玉県政世論調査結果の概要

県政世論調査は、県政の重要課題に対する県民の関心、意識、要望などを把握し、施策の立案及び推進の資料として活用するため、昭和43年度から毎年度実施しています。

今年度は、課題調査として「共生社会について」「エスカレーターの利用について」の2つのテーマと、定期調査（時系列項目）として「生活意識」「日常生活」「県政への要望」について調査を行いました。

【目次】

○ 調査のあらまし	3
I 調査結果のポイント	5
II 調査結果（単純集計結果）	15
1 生活意識	17
2 日常生活	36
3 県政への要望	73
4 共生社会について	79
5 エスカレーターの利用について	86
（参考資料）世論調査実施状況	92

<本調査の内容及び結果についてのお問い合わせ先>

埼玉県 県民生活部 県民広聴課 広聴・知事への提案担当

電話 048-830-2850（直通）

○ 調査のあらまし

1 調査の目的

県民の県政に対する要望、意見及び県民の生活意識などを把握し、県政推進のための資料とする。

2 調査の項目

この調査の項目は次のとおりである。

- ア 生活意識（昨年と比べた暮らし向き、生活程度、生活全体の満足度、定住意向、埼玉県に魅力を感じるか）
- イ 日常生活
- ウ 県政への要望
- エ 共生社会について
- オ エスカレータの利用について

3 調査の設計

この調査は次のように設計した。

- ア 調査地域 埼玉県全域
- イ 調査対象 満18歳以上の個人
- ウ 標本数 5,000
- エ 抽出方法 住民基本台帳による層化二段無作為抽出法
- オ 調査方法 郵送法（郵送配布、郵送回収・インターネット回収併用）
（令和元年までは、調査員による個別面接聴取法）
- カ 調査時期 令和3年7月9日～7月30日
- キ 調査実施委託機関 株式会社サーベイリサーチセンター

4 回収結果

- (ア) 有効回収数（率） 2,767（55.3%）
- (イ) 調査不能数（率） 2,233（44.7%）

5 回答者の属性

(1) 性別

総数	男性	女性	無回答
2,767	1,134	1,585	48
100.0	41.0	57.3	1.7

(2) 年代別

総数	18・19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
2,767	53	229	316	481	524	471	650	43
100.0	1.9	8.3	11.4	17.4	18.9	17.0	23.5	1.6

（上段は人：下段は%）

6 調査結果の見方

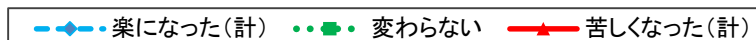
- (1) 結果は、百分率で表示し、小数第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体またはカテゴリーを小計した数値が一致しないことがある。なお、回答者を絞った質問では、質問該当者を100%とするのを原則とした。
- (2) 問1「昨年と比べた暮らし向き」における『苦しくなった（計）』のように、「少し苦しくなった」と「苦しくなった」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢への回答者の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用しているため、内訳となるそれぞれの選択肢の比率の合計と合致しないことがある。

- (3) 図表中の「-」は回答者が皆無のもの、「0.0」は回答者の割合が0.05%未満のため四捨五入の結果0.0%となったものである。
- (4) 一人の対象者に2つ以上の回答を認めた質問では、回答の合計を回答者(n)で割った比率を算出しており、通常その百分率の合計は、100%を超える。また、この回答の合計数をM.T. (Multiple Totalの略)として表示した。
- (5) 調査票上のFはFace Sheetの略で、回答者の基本的属性についての質問である。
- (6) 年代別、性別・年代別の集計に当たっては、18・19歳の標本数が少ないため、20歳代と合わせて10歳代・20歳代として集計したうえで、他の年代と比較している。
- (7) 調査手法として、令和元年度までは「個別面接聴取法」で実施されていたが、令和2年度より「郵送法(郵送配布、郵送返送・インターネット回収併用)」に変更したので、令和元年度以前の結果と比較する場合には留意が必要となる。

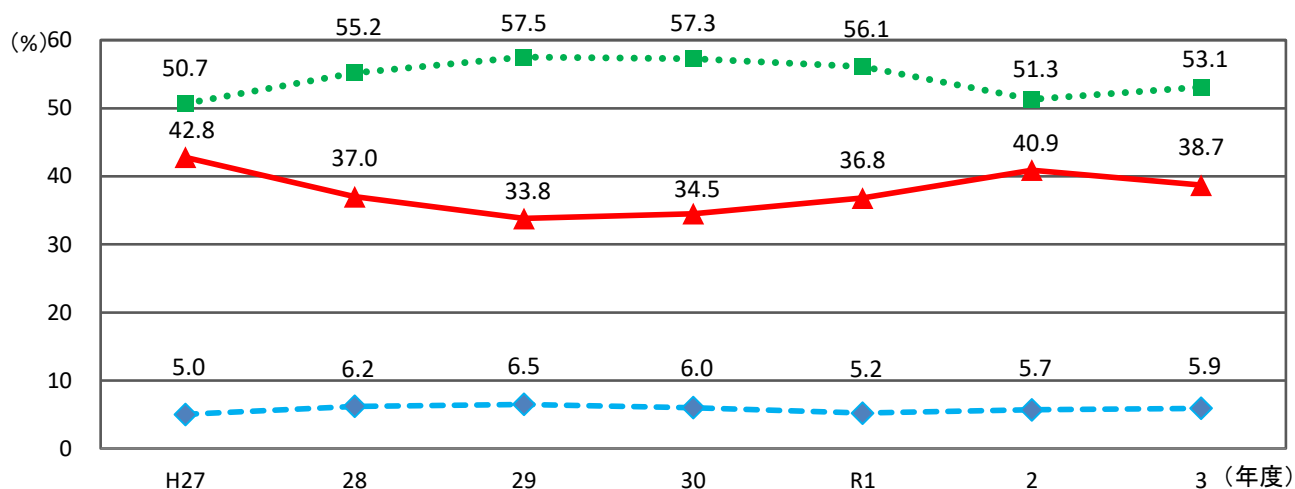
I 調査結果のポイント

1 定期調査（生活意識）

昨年と比べた暮らし向き

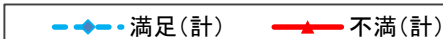


- ・『楽になった(計)』は昨年と比べてほぼ横ばい
- ・『苦しくなった(計)』は2.2p減少し再び3割台
- ・「変わらない」は1.8p増加

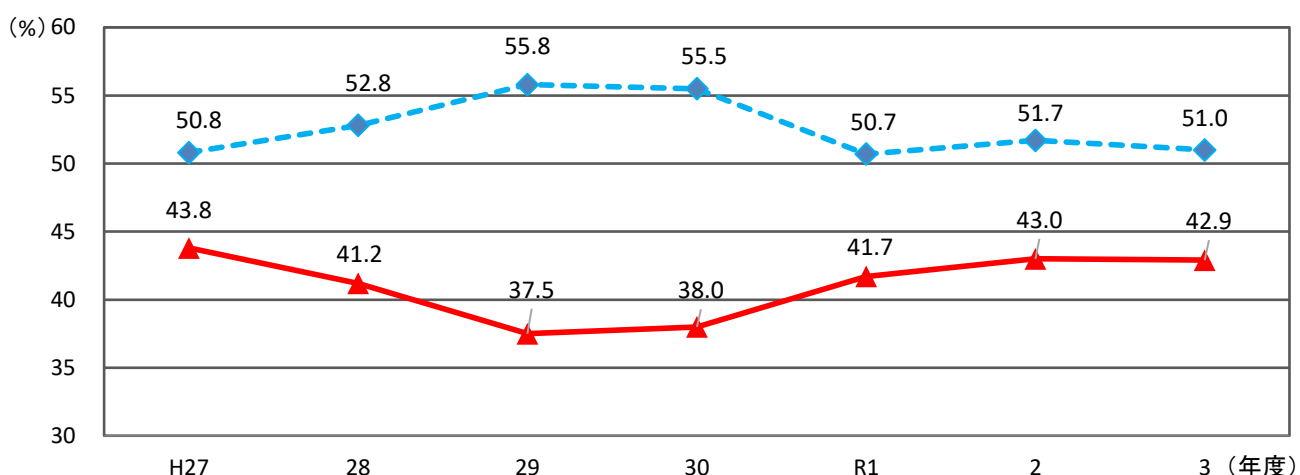


※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

生活全体の満足度



- ・7年連続で『満足(計)』が『不満(計)』を上回っている



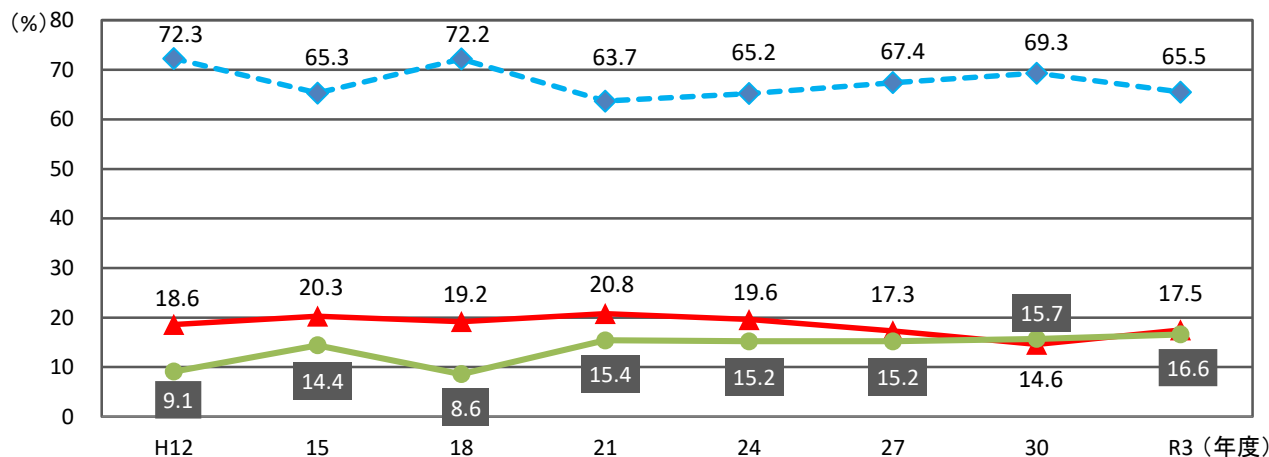
※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

定住意向

—◆— 住み続けたい —▲— よそへ移りたい —●— わからない

1 あなたは、今お住まいの地域に、ずっと住み続けたいと思いますか。それとも、できればよそへ移りたいと思いますか。

- ・「住み続けたい」が前回と比較して3.8p減少
- ・「よそへ移りたい」は前回と比較して2.9p増加
- ・「わからない」はほぼ横ばい



1-1 定住したい理由(前回調査との比較)

- ・「医療施設が身近にあり、病気の時でも安心だから」が前回の8位から4位に上昇

順位	理由	今回	前回(平成30年調査)	増減差
1位	住みなれていて愛着があるから	59.1%	55.6% (1位)	3.5
2位	交通の便がよいから	47.7%	44.5% (2位)	3.2
3位	買い物に便利だから	39.0%	31.8% (3位)	7.2
4位	医療施設が身近にあり、病気の時でも安心だから	33.5%	23.9% (8位)	9.6
5位	自然環境がよいから	32.5%	27.5% (5位)	5.0
6位	通勤や仕事に便利だから	28.5%	28.4% (4位)	0.1
7位	隣近所の人との付き合いがうまくいっているから	27.3%	24.4% (6位)	2.9
7位	親、兄弟や親戚が近くにいるから	27.3%	24.4% (6位)	2.9
9位	治安や風紀がよいから	25.4%	19.5% (9位)	5.9
10位	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っているから	21.2%	15.6% (10位)	5.6

1-2 転出したい理由(前回調査との比較)

- ・「愛着がないから」が前回の4位から2位に上昇

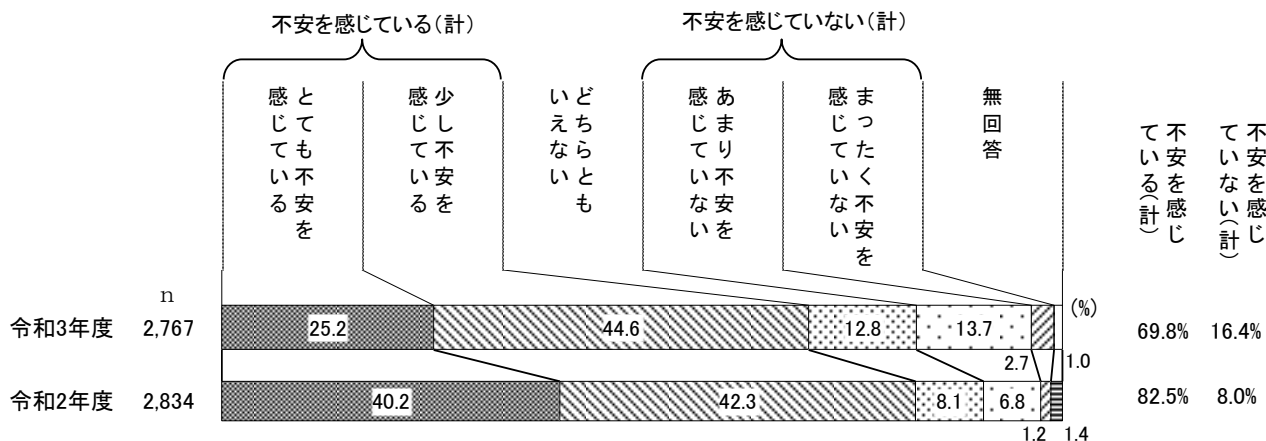
順位	理由	今回	前回(平成30年調査)	増減差
1位	交通の便が悪いから	37.9%	37.9% (1位)	0.0
2位	愛着がないから	27.7%	22.0% (4位)	5.7
3位	買い物に不便だから	26.3%	24.6% (3位)	1.7
4位	通勤や仕事に不便だから	25.5%	28.8% (2位)	△ 3.3
5位	自然環境が悪いから	16.8%	12.0% (8位)	4.8
6位	医療施設が身近になく、病気の時心に心配だから	15.5%	13.6% (5位)	1.9
6位	親、兄弟や親戚の近くに住みたいから	15.5%	13.3% (6位)	2.2
8位	土地柄や人情が自分に合わないから	13.3%	12.3% (7位)	1.0
9位	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから	12.8%	10.0% (9位)	2.8
10位	学校、図書館などの教育・文化施設が整っていないから	10.8%	8.1% (11位)	2.7

2 定期調査（日常生活）

新型コロナウイルス感染症への不安

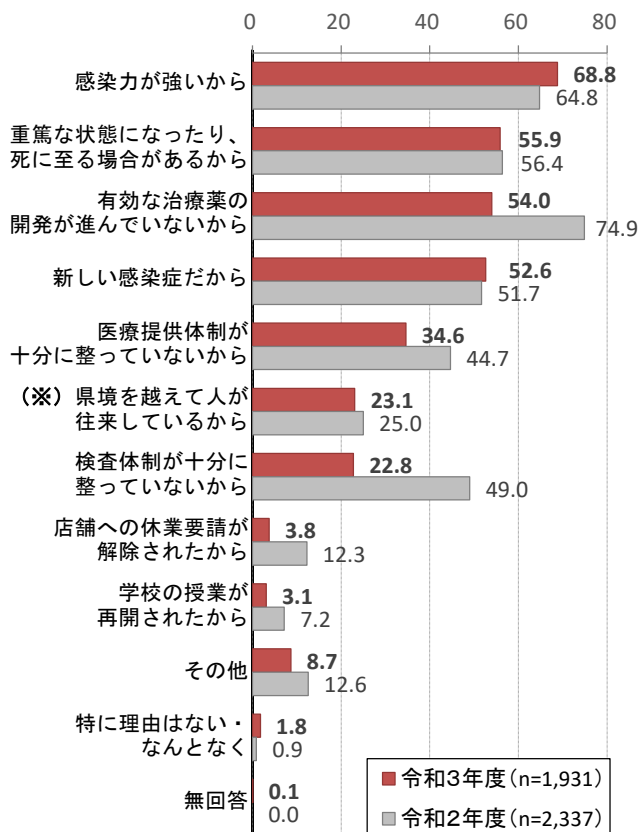
1 あなたは、ご自分が新型コロナウイルス感染症に感染するのではないかと不安を感じていますか。

・『不安を感じている（計）』（69.8%）が約7割で前回調査（82.5%）から12.7p減少



2 あなたは、なぜ不安を感じるのですか。

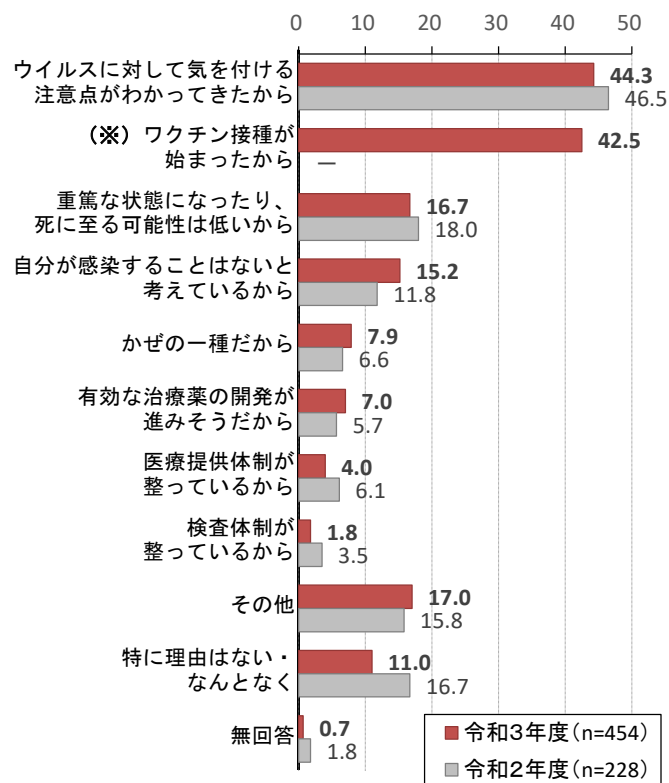
・「感染力が強いから」は増加しているが、その他の項目はおおむね減少



※令和2年度は「県境を越えた人の往来が自由になったから」

3 あなたは、なぜ不安を感じないのですか。

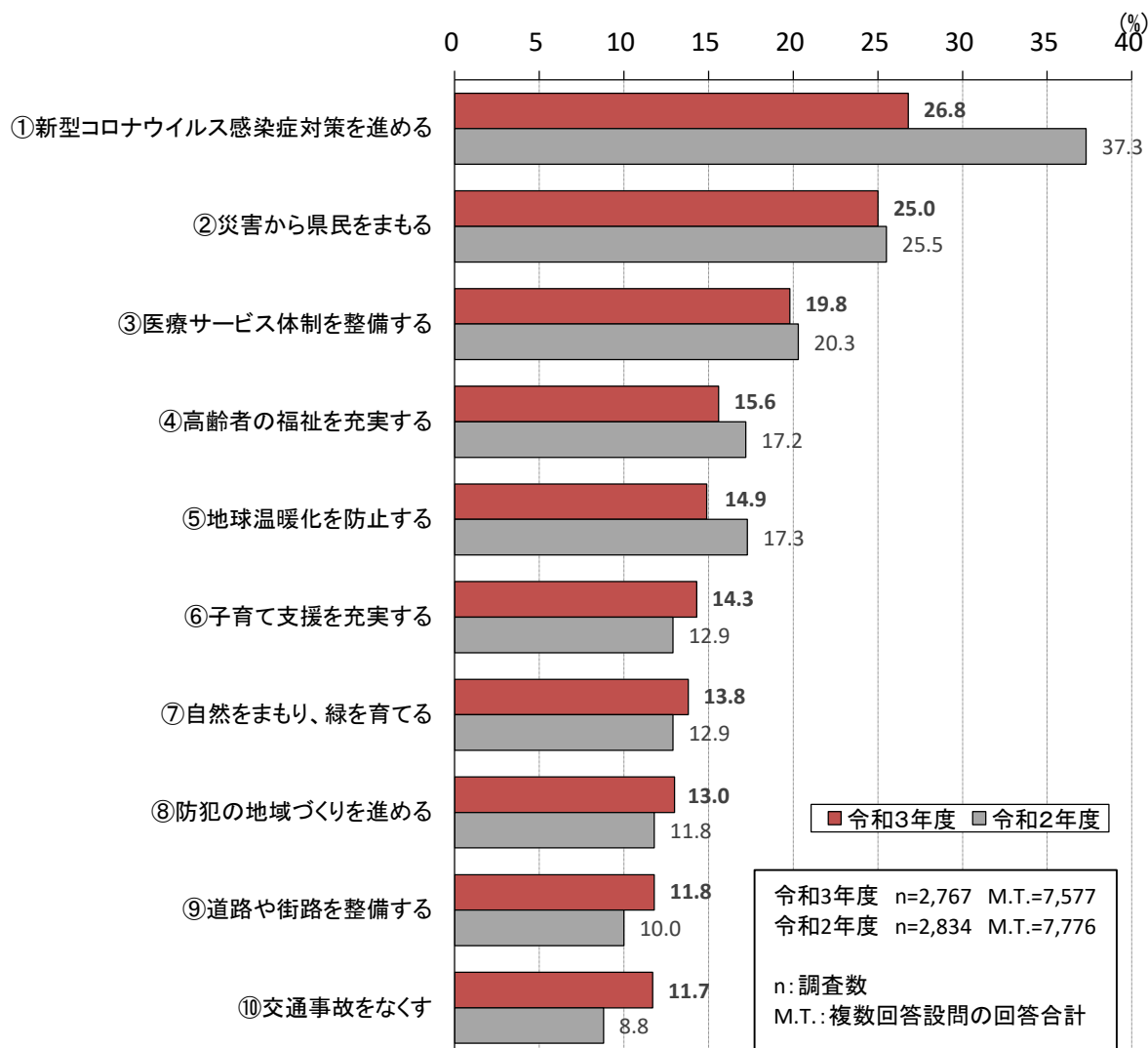
・前回調査になかった「ワクチン接種が始まったから」が第2位（42.5%）



※「ワクチン接種が始まったから」は令和3年度に新設

3 定期調査（県政への要望）

- ・ 下記は、令和3年度の上位10項目を比率順に並べたグラフである
- ・ 前回新設選択肢の「新型コロナウイルス感染症対策を進める」が前回に続いて第1位となったが10.5p減少
- ・ 「交通事故をなくす」が前回の12位から2.9p増加して第10位となった

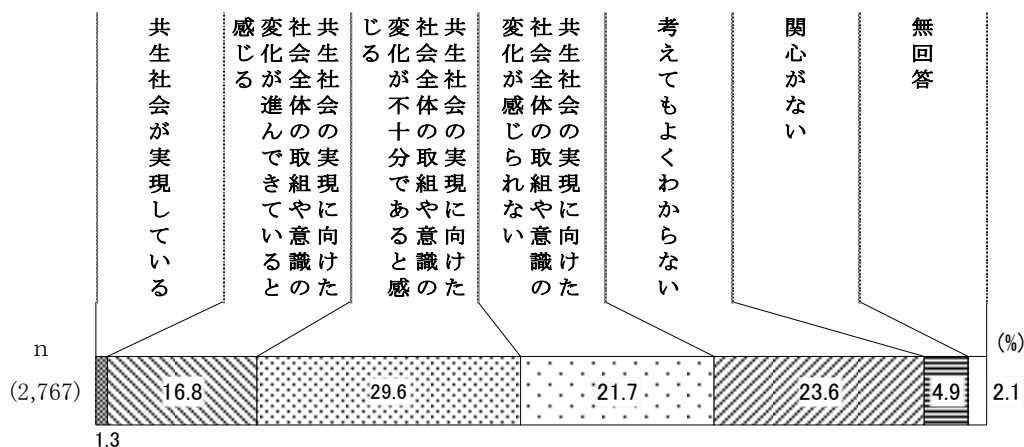


4 課題調査

共生社会について

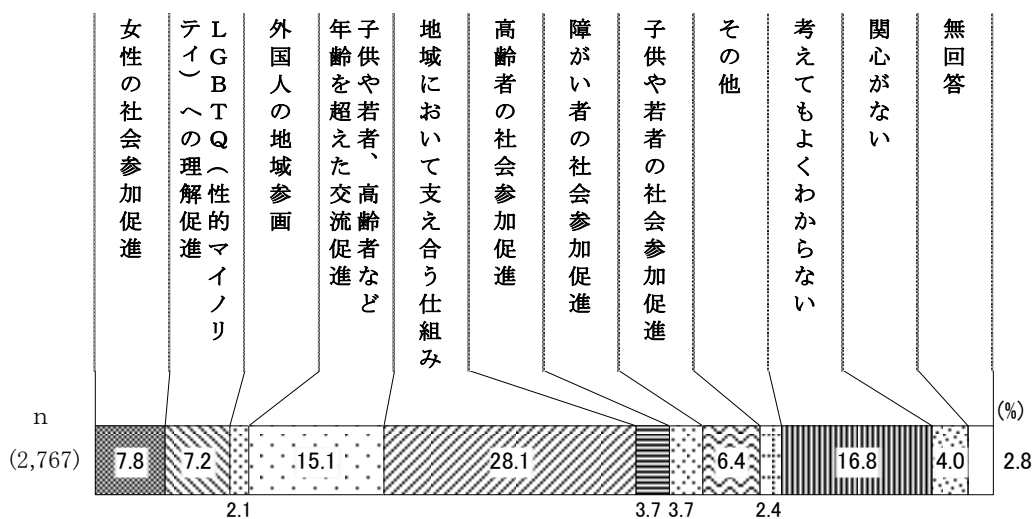
1 埼玉県では、誰もが互いに尊重され、いきいきと活躍できる「共生社会」の実現を目指しています。あなたは、現在の社会についてどのように感じていますか。

- ・「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が不十分であると感じる」(29.6%)が約3割で最も高く、次いで「考えてもよくわからない」(23.6%)となっている。



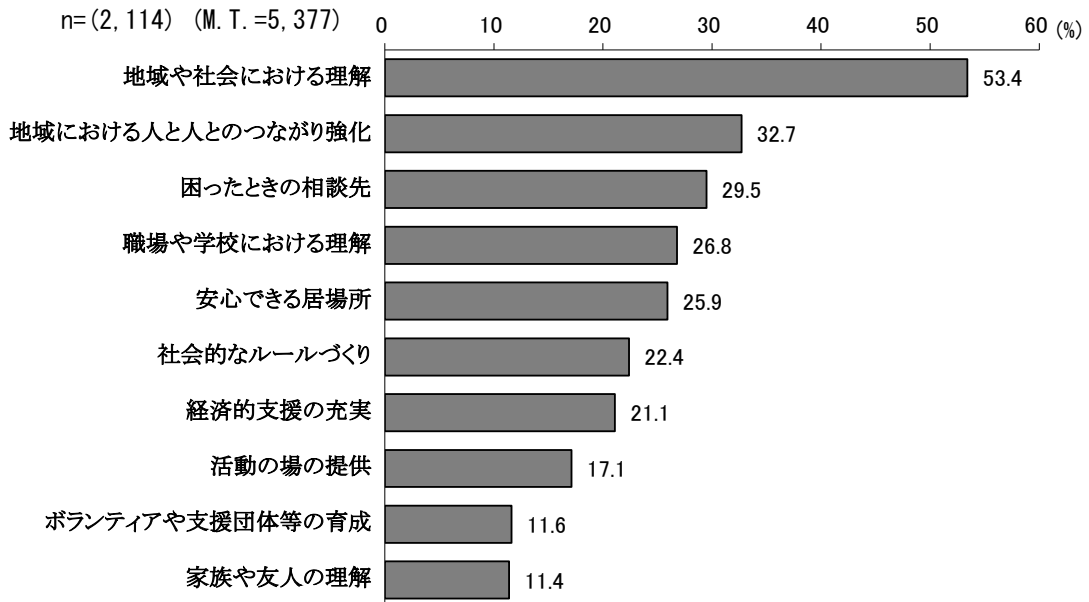
2 共生社会を実現するために、最も重要だと思う取組はどれですか。

- ・「地域において支え合う仕組み」(28.1%)が3割弱で最も高く、次いで「考えてもよくわからない」(16.8%)となっている。



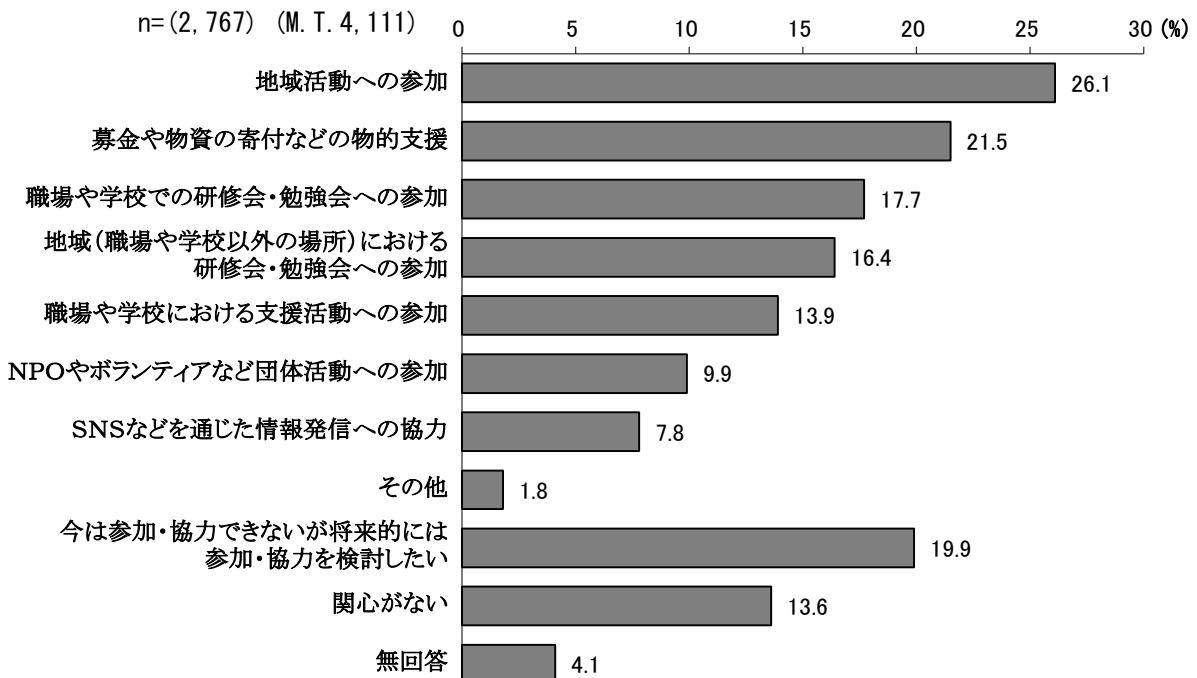
2-1 前問で選択した取組を進める上で、具体的に必要だと思うことはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

- ・「地域や社会における理解」(53.4%)が5割強で最も高く、次いで「地域における人と人とのつながり強化」(32.7%)となっている。



3-1 埼玉県が共生社会づくりの取組を進めて行く中で、あなたが参加・協力できると思うものはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

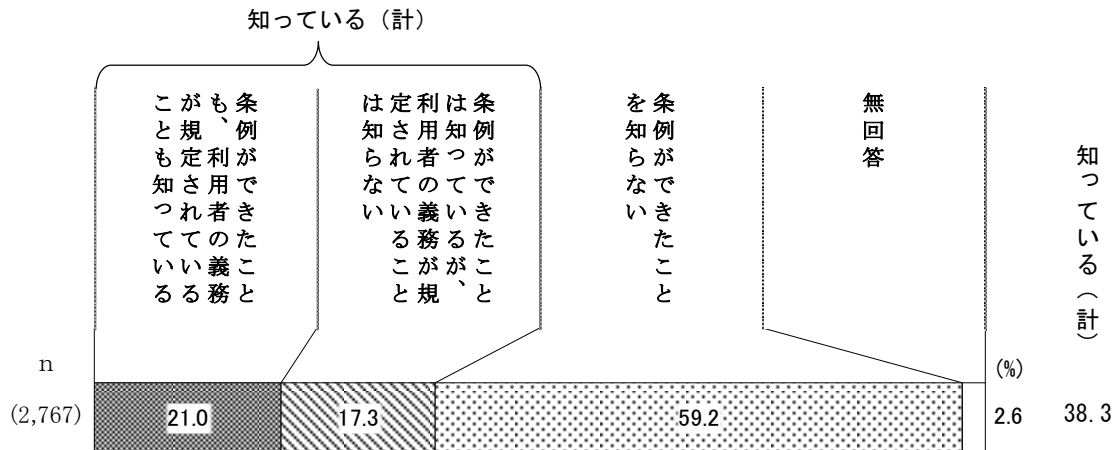
- ・「地域活動への参加」(26.1%)が2割台半ばを超えて最も高く、「募金や物資の寄付などの物的支援」(21.5%)となっている。
- ・一方で、「今は参加・協力できないが将来的には参加・協力を検討したい」(19.9%)が約2割、「関心がない」(13.6%)が1割強となっている。



エスカレーターの利用について

1 あなたは、条例ができたことを知っていますか。

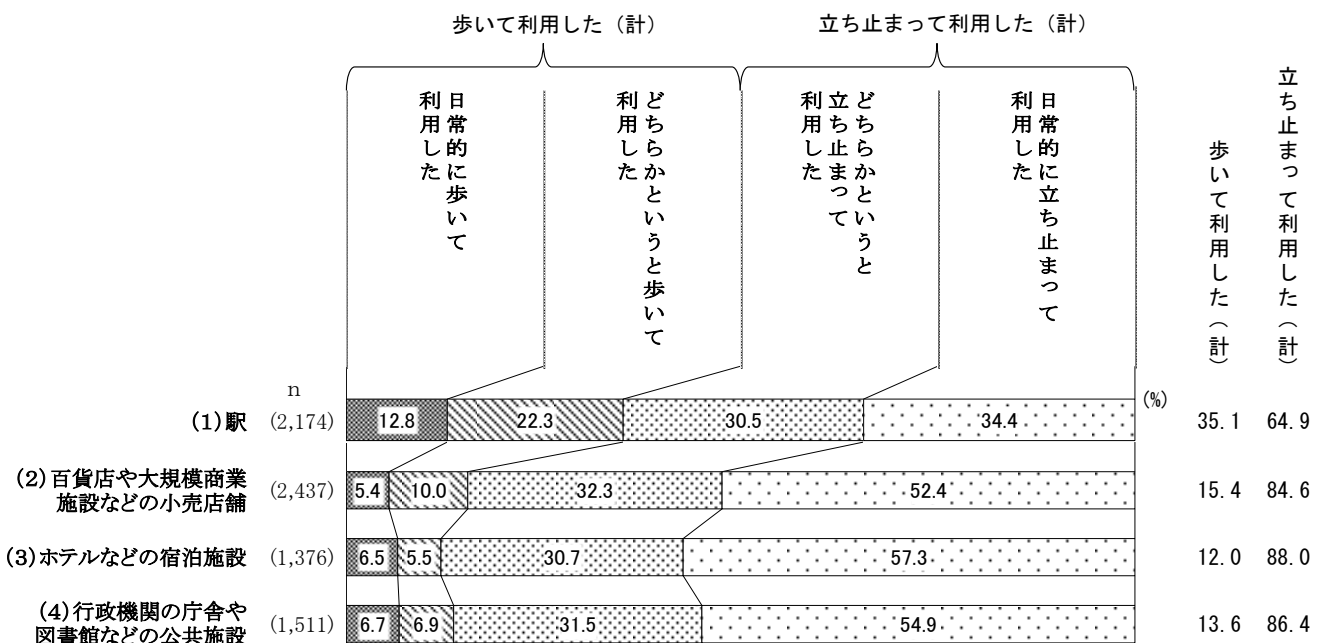
- ・「埼玉県エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例」の認知については、「条例ができたことを知らない」(59.2%)が約6割となっている。
- ・認知程度としては、「条例ができたことも利用者の義務が規定されていることも知っている」(21.0%)が2割強で、「条例ができたことは知っているが、利用者の義務が規定されていることは知らない」(17.3%)を上回っている。



2 あなたは、最近1年間、エスカレーターを利用する際、歩いて利用しましたか。それとも立ち止まって利用しましたか。エスカレーターが設置されている次の(1)から(4)までの施設それぞれについて、近いものを選んでください。

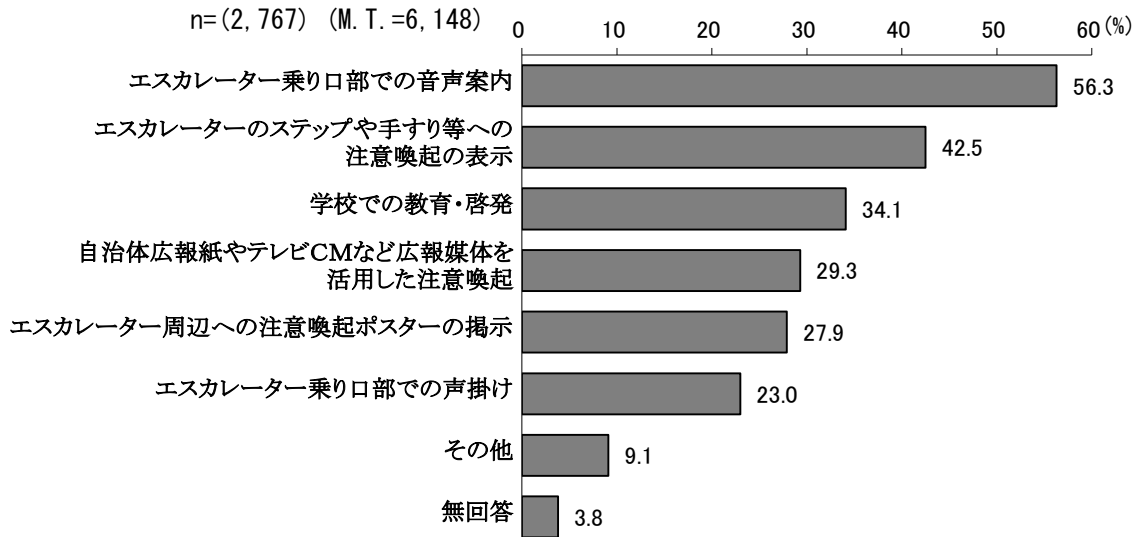
※本設問は任意設問のため、「利用していない」と「無回答」を除いたものをn数(回答者)として、利用形態を比較した。

- ・「立ち止まって利用した(計)」は、駅以外の施設が8割台後半なのに対し、駅(64.9%)は6割台半ばと特に低くなっている。



1 あなたは、エスカレーターの立ち止まった状態での利用を浸透させるために、どのような取組が効果的だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

・「エスカレーター乗り口部での音声案内」(56.3%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「エスカレーターのステップや手すり等への注意喚起の表示」(42.5%)となっている。



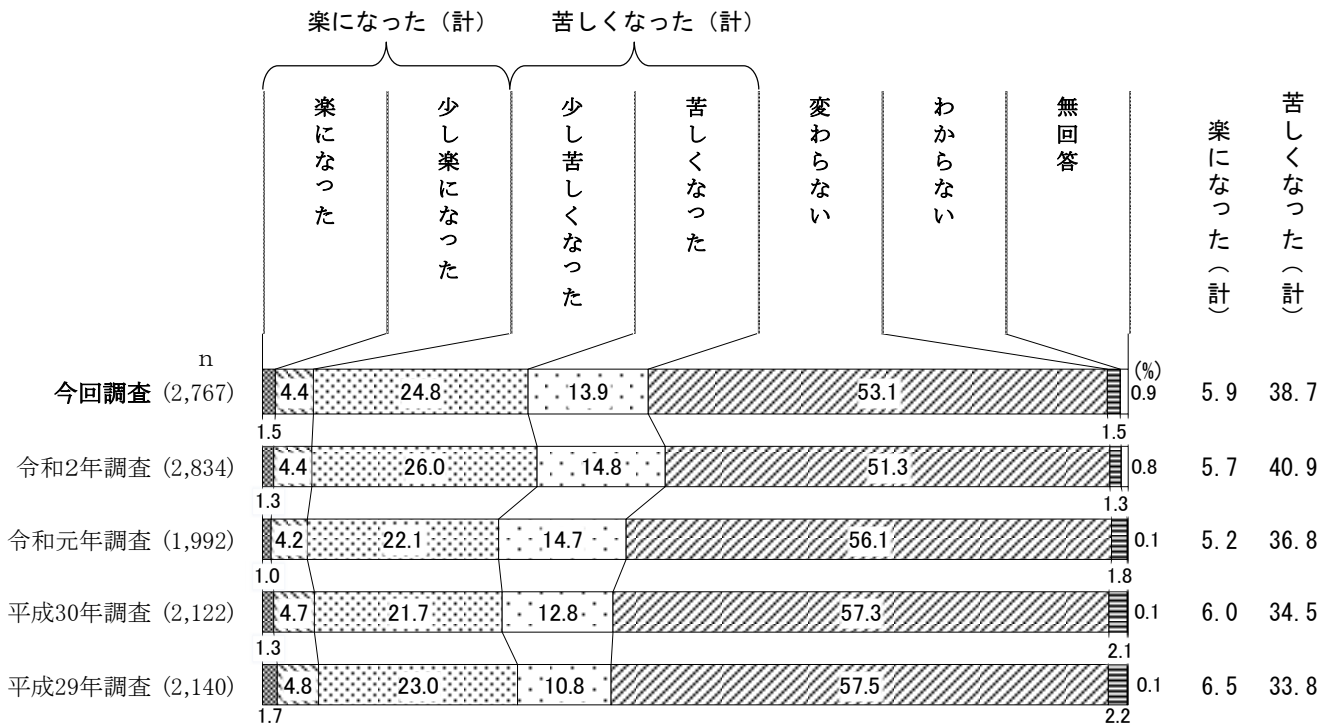
Ⅱ 調査結果（単純集計結果）

1. 生活意識

(1) 昨年と比べた暮らし向き

◇「変わらない」53.1%、『苦しくなった(計)』38.7%、『楽になった(計)』5.9%

問1 最初に、あなたの生活意識についておたずねします。
お宅の暮らし向きは、昨年の今ごろと比べて楽になりましたか、それとも、苦しくなりましたか。(〇は1つだけ)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

暮らし向きが「楽になった」(1.5%)と「少し楽になった」(4.4%)を合わせた『楽になった(計)』は5.9%となっている。一方で、「苦しくなった」(13.9%)と「少し苦しくなった」(24.8%)を合わせた『苦しくなった(計)』(38.7%)は4割弱となっている。「変わらない」(53.1%)は5割強で、『苦しくなった(計)』を14.4ポイント上回っている。

【過去調査との比較】

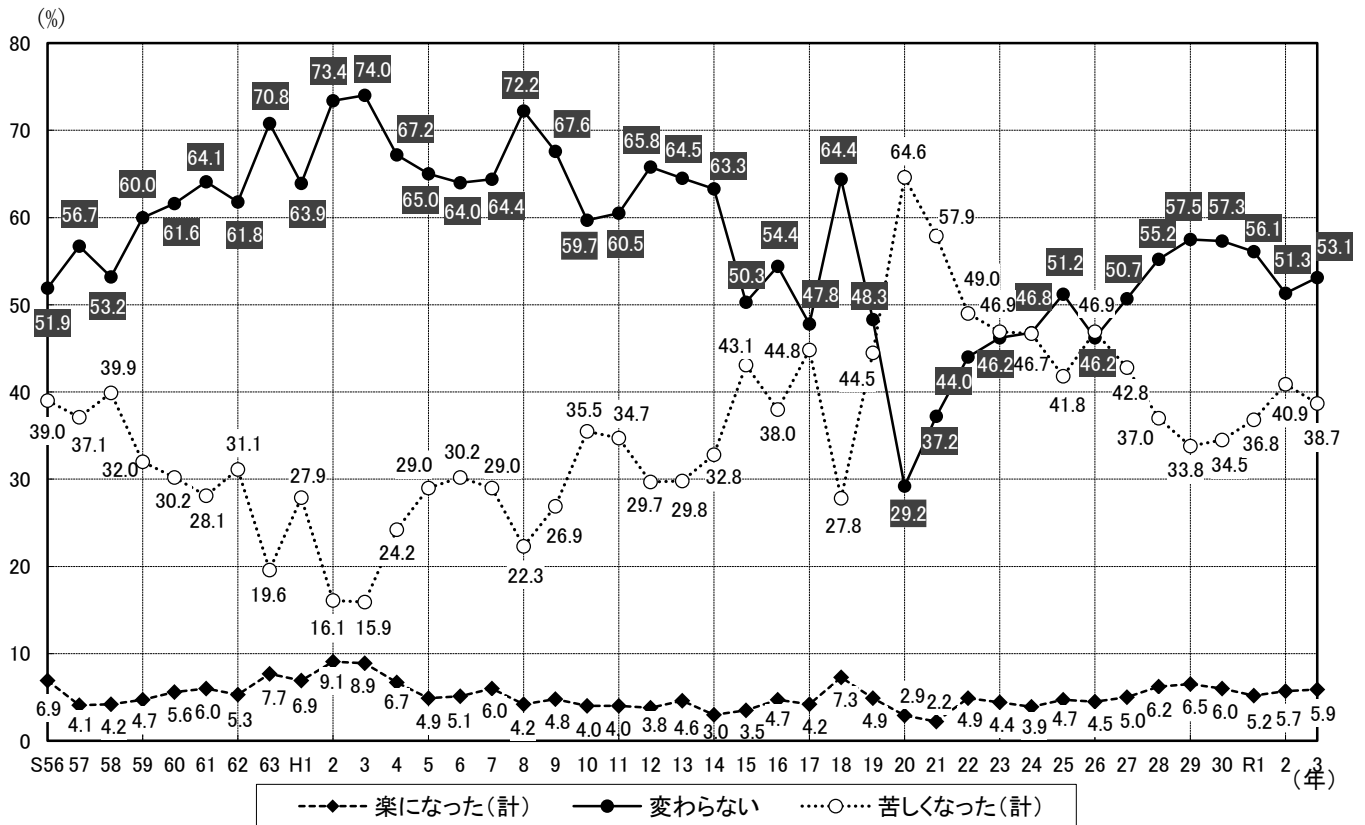
『苦しくなった(計)』は令和元年調査までは3割台で推移しており、令和2年調査で4割を超えたが、今回調査(38.7%)では再び3割台後半に下がった。

【経年比較】

この調査を開始した昭和56年以降の推移をみると、『苦しくなった（計）』は、最も高かった平成20年（64.6%）を境におおむね減少傾向が続き、平成30年調査から再び増加傾向にあったが、今回調査では減少した。「変わらない」と『苦しくなった（計）』を比較すると、『苦しくなった（計）』は平成27年調査から7年連続で「変わらない」を下回っている。

『楽になった（計）』は平成2年が9.1%で最も高く、平成21年が2.2%で最も低くなっており、調査開始から40年間、この範囲内で推移している。

○昨年と比べた暮らし向き・昭和56年以降の推移

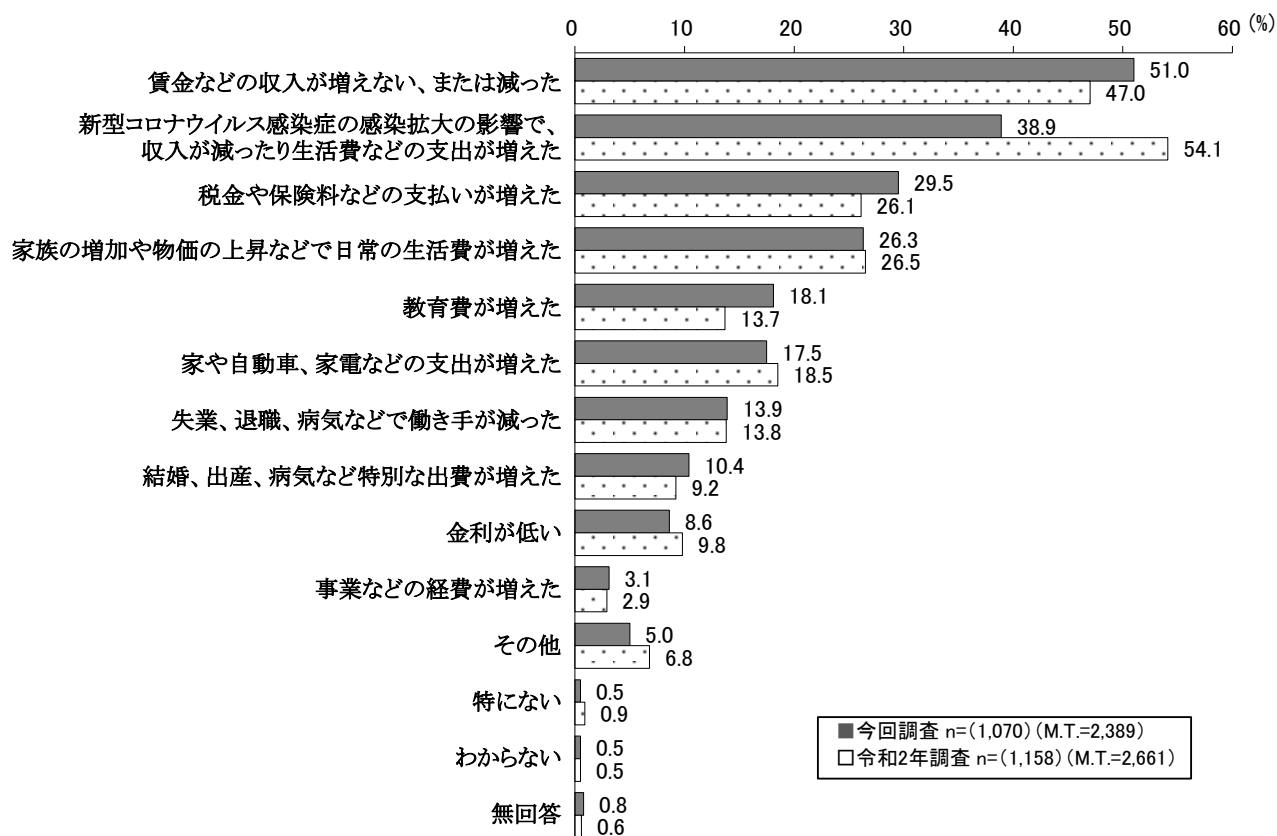


※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

(1-1) 暮らし向きが苦しくなった理由

◇「賃金などの収入が増えない、または減った」が51.0%と最も高い

(問1で「3. 少し苦しくなった」または「4. 苦しくなった」とお答えの方にお伺いします。)
問1-1 その理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)



暮らし向きが苦しくなった理由は、「賃金などの収入が増えない、または減った」(51.0%)が5割強で最も高く、次いで「新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、収入が減ったり生活費などの支出が増えた」(38.9%)が4割弱、「税金や保険料などの支払いが増えた」(29.5%)、「家族の増加や物価の上昇などで日常の生活費が増えた」(26.3%)、「教育費が増えた」(18.1%)などとなっている。

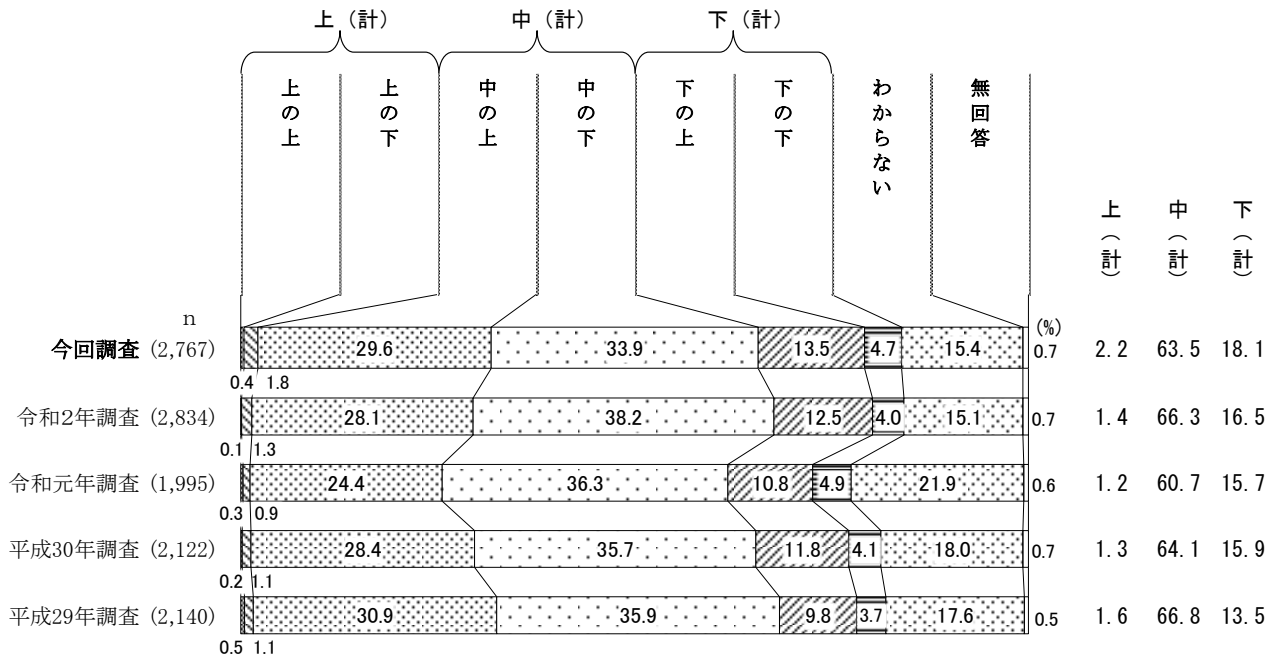
【過去調査との比較】

「新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、収入が減ったり生活費などの支出が増えた」は令和2年調査(54.1%)では5割台半ばで最も高かったが15.2ポイント減少し、「賃金などの収入が増えない、または減った」に次いで2位となった。

(2) 生活程度

◇『中(計)』が63.5%、一方『下(計)』は18.1%

問2 お宅の現在の生活程度は、世間一般からみて、次の中のどれに属すると思いますか。
(○は1つだけ)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

世間一般からみた生活程度は、「中の下」(33.9%)が3割強で最も高く、次いで「中の上」(29.6%)となっている。両者を合わせた『中(計)』(63.5%)は6割強となっている。同様に「下の上」(13.5%)と「下の下」(4.7%)を合わせた『下(計)』(18.1%)は2割弱、「上の上」(0.4%)と「上の下」(1.8%)を合わせた『上(計)』は2.2%となっている。

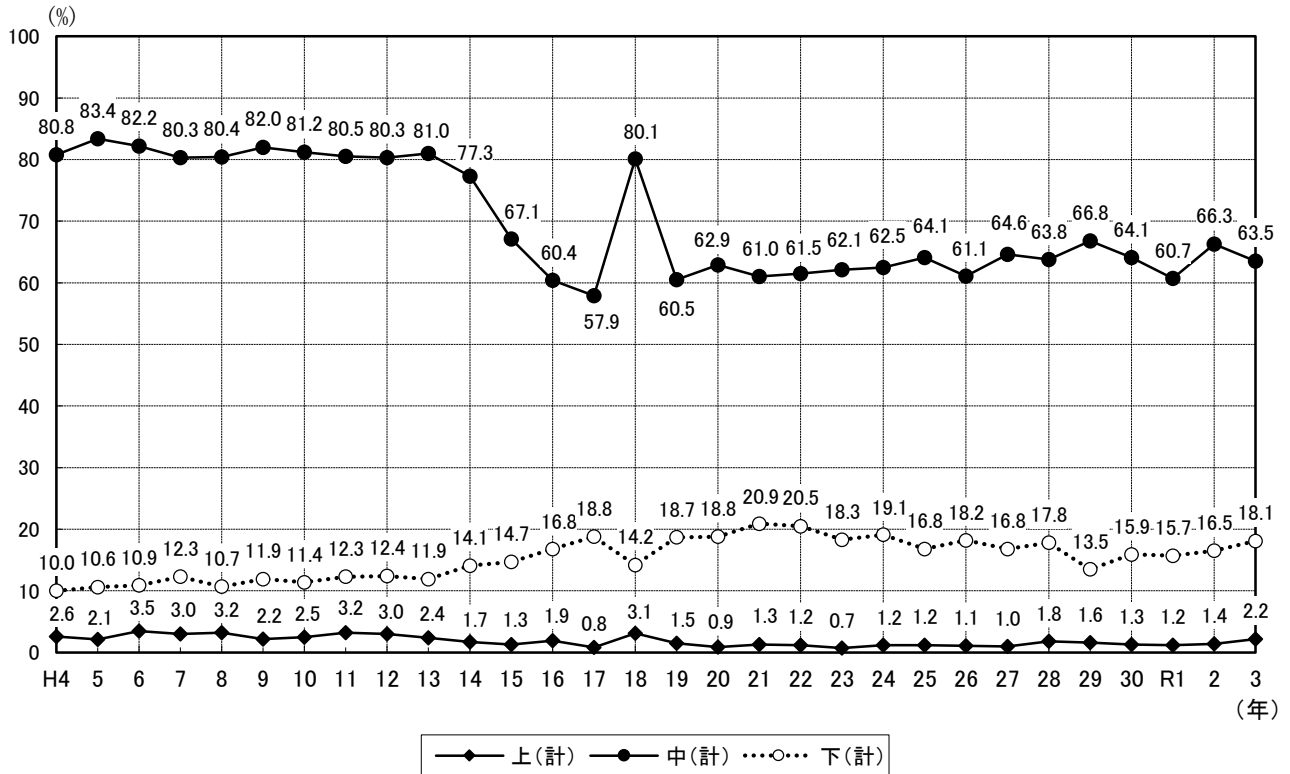
【過去調査との比較】

令和2年調査と比べて、『中(計)』は2.8ポイント減少、『下(計)』は1.6ポイント増加となっている。

【経年比較】

平成19年以降、『中（計）』は6割台で増減しながら推移しており、今回調査では前回調査から減少した。また、『下（計）』は平成29年調査以降、おおむね増加傾向となっている。

○生活程度・平成4年以降の推移

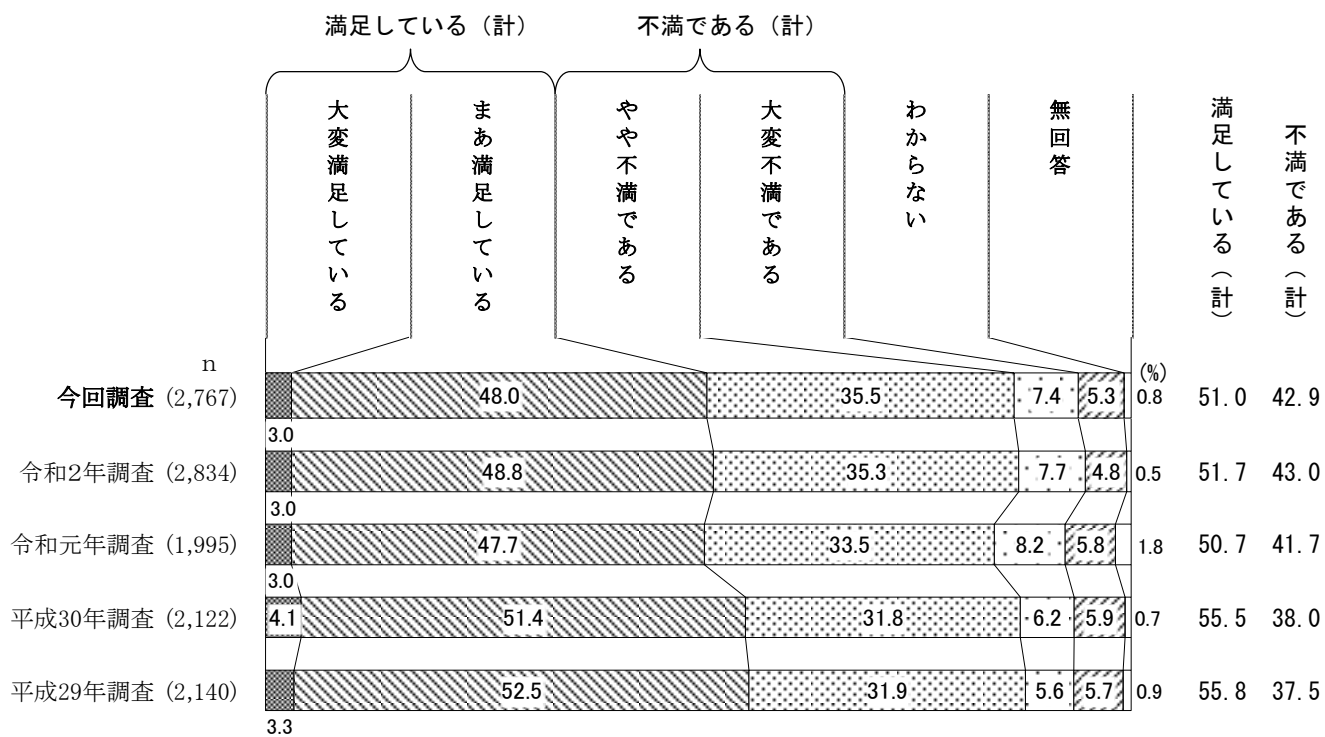


※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

(3) 生活全体の満足度

◇『満足している（計）』は51.0%、『不満である（計）』は42.9%

問3 あなたは、現在の生活について、全体としてどの程度満足していますか。
(○は1つだけ)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

生活全体に対する満足度は、「まあ満足している」（48.0%）が5割弱で最も高く、次いで「やや不満である」（35.5%）となっている。「大変満足している」（3.0%）と「まあ満足している」（48.0%）を合わせた『満足している（計）』（51.0%）は5割強、「大変不満である」（7.4%）と「やや不満である」（35.5%）を合わせた『不満である（計）』（42.9%）は4割強となっている。『満足している（計）』が『不満である（計）』を8.1ポイント上回っている。

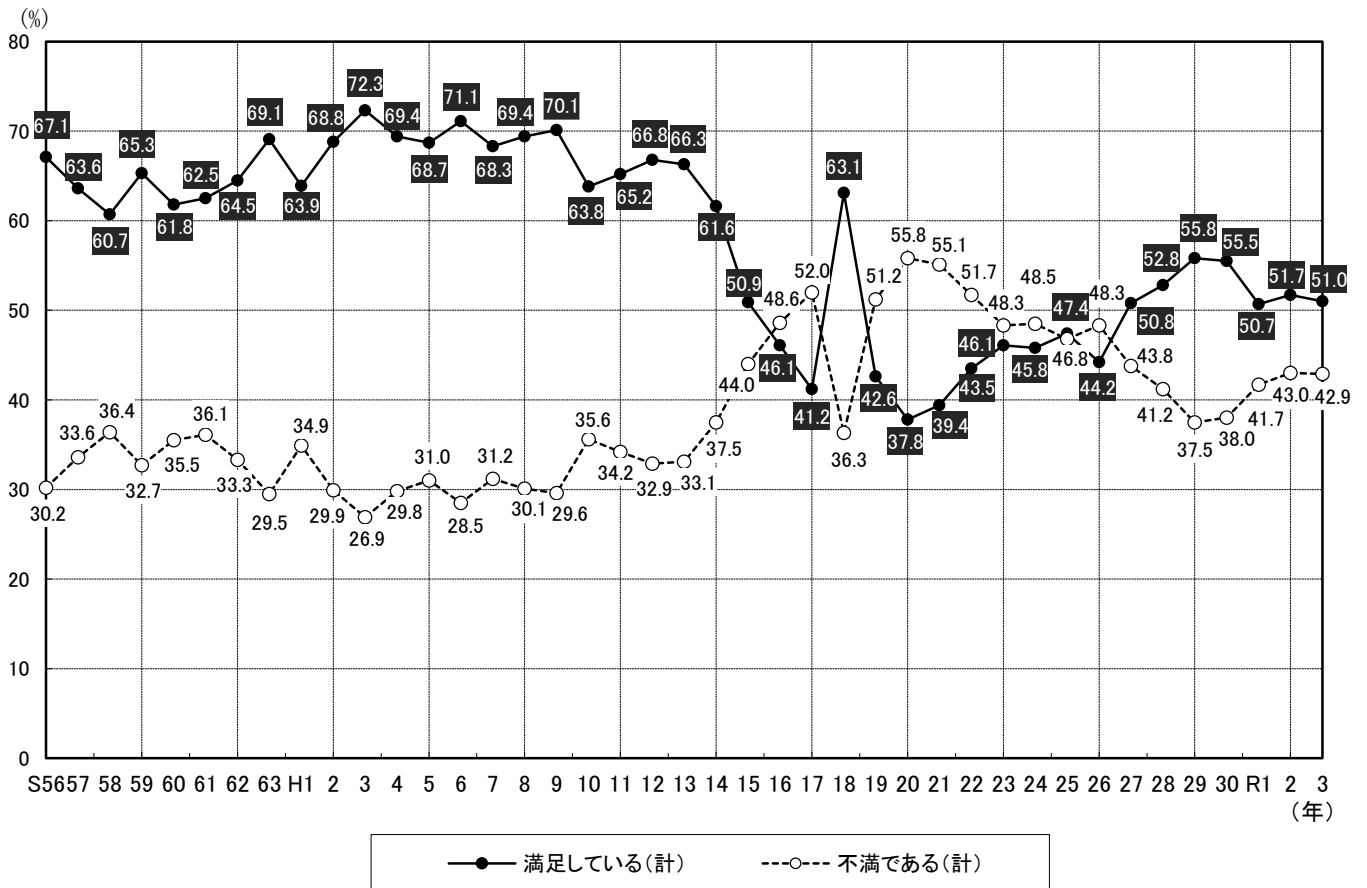
【過去調査との比較】

令和2年調査とほぼ同様の結果となっている。

【経年比較】

昭和56年以降の推移をみると、平成19年以降『満足している（計）』の割合が『満足している（計）』をおおむね上回る傾向にあったが、『満足している（計）』の割合が平成27年調査（50.8%）で5割を超えて逆転した。今回調査でも、『満足している（計）』（51.0%）が『不満である（計）』（42.9%）を7年連続、上回っている。

○生活全体の満足度・昭和56年以降の推移

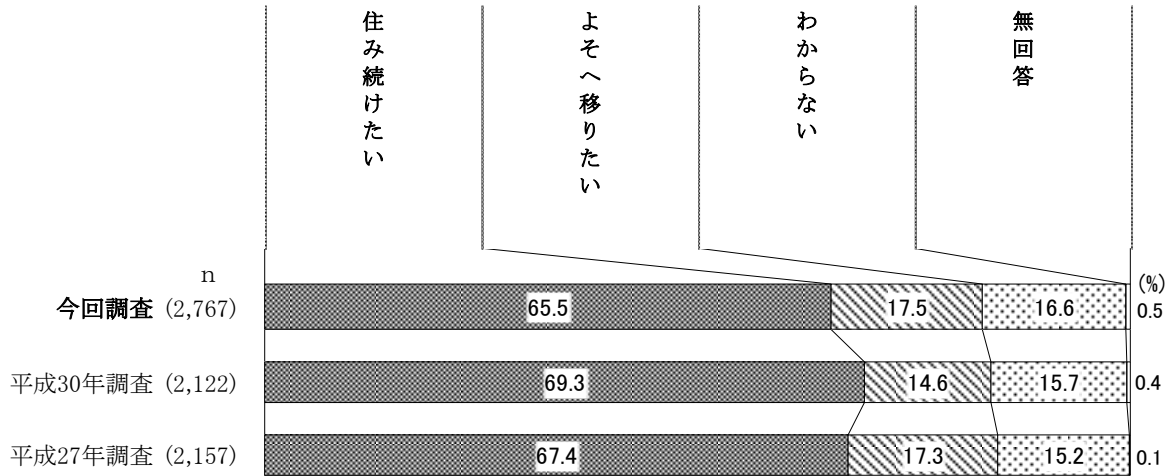


※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

(4) 定住意向

◇「住み続けたい」は65.5%、「よそへ移りたい」は17.5%

問4 あなたは、今お住まいの地域に、ずっと住み続けたいと思いますか。それとも、できればよそへ移りたいと思いますか。(○は1つだけ)



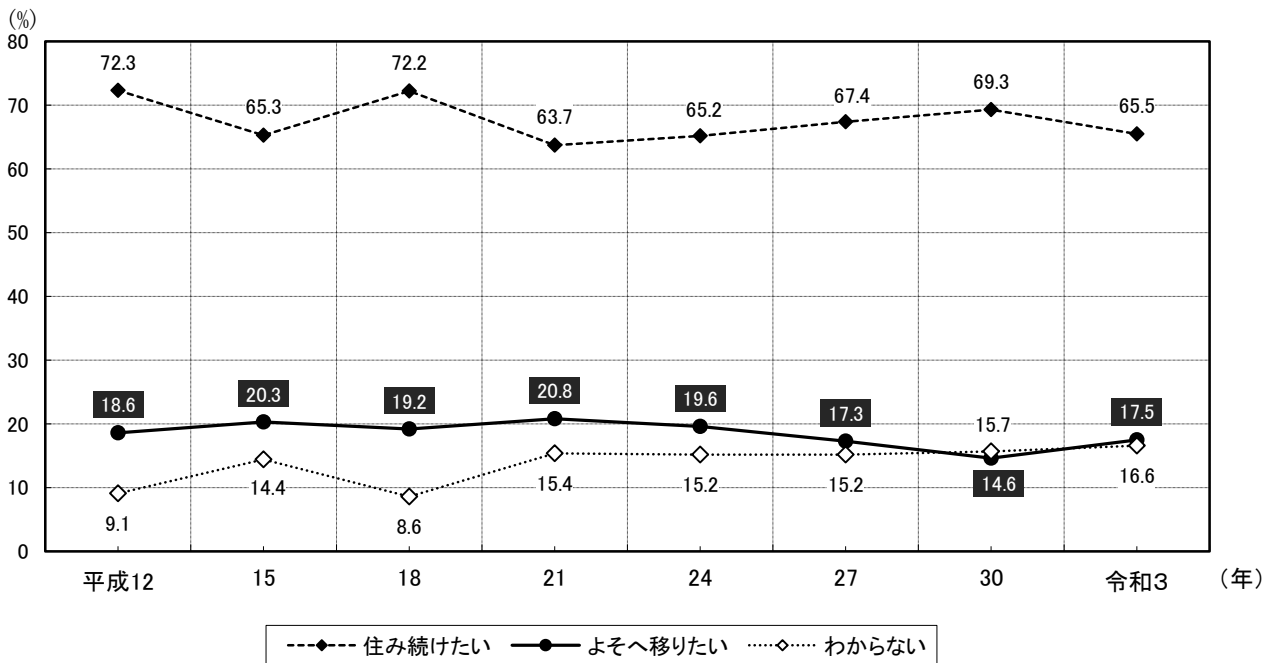
※調査方法の変更により前回調査までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

居住地域に住み続ける意向は、「住み続けたい」(65.5%)が6割台半ばとなっている。

【経年比較】

「住み続けたい」が前回と比較して3.8ポイント減少した。一方で、「よそへ移りたい」は前回と比較して2.9ポイント増加した。

○定住意向・平成12年以降の推移



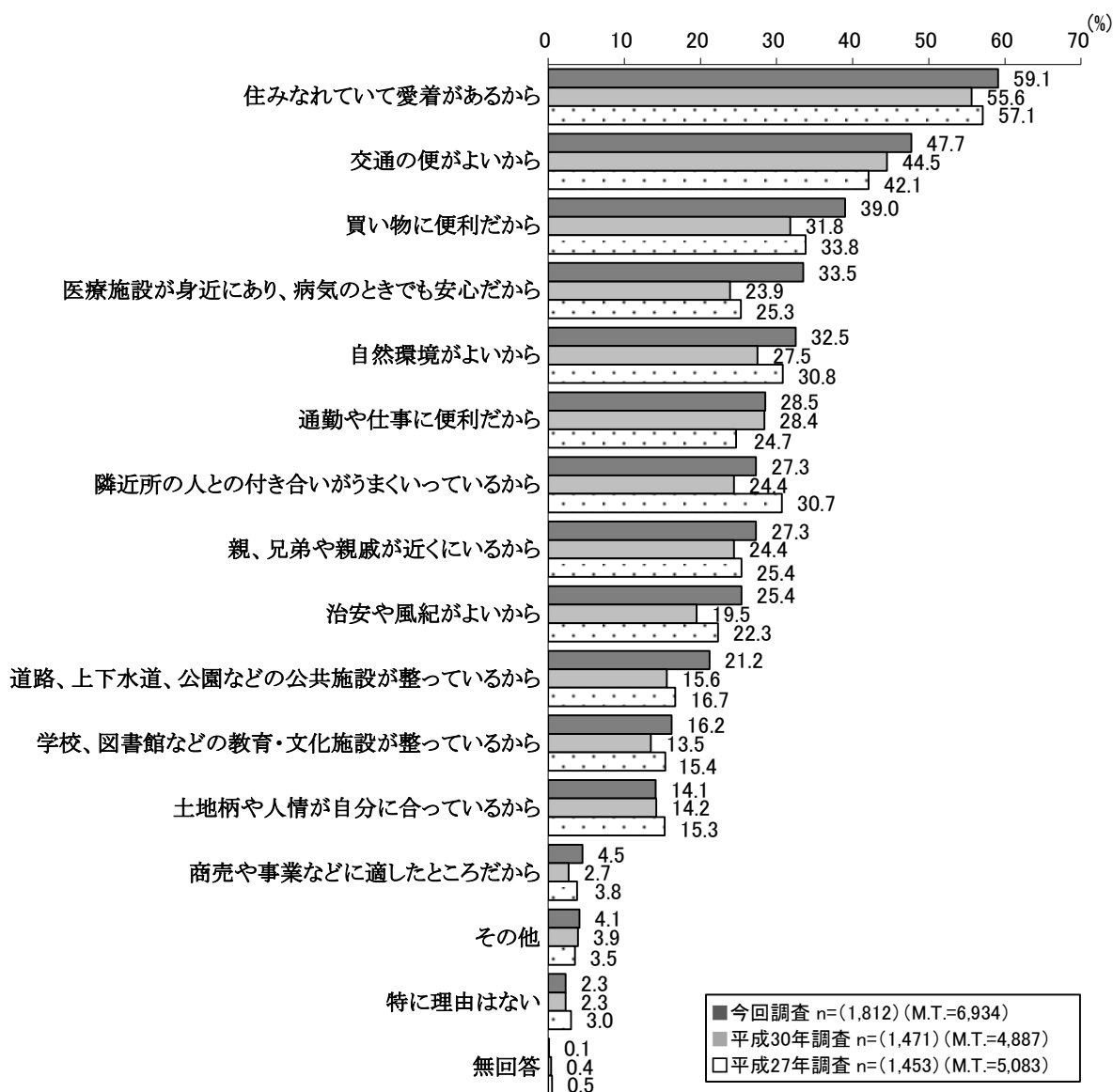
※調査方法の変更により前回調査までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

(4-1) 定住したい理由

◇「住みなれていて愛着があるから」が59.1%

(問4で「1. 住み続けたい」とお答えの方にお伺いします。)

問4-1 今お住まいの地域に住み続けたいと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)



※調査方法の変更により前回調査までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

定住したい理由は、「住みなれていて愛着があるから」(59.1%)が約6割と最も高く、次いで「交通の便がよいから」(47.7%)、「買い物に便利だから」(39.0%)、「医療施設が身近にあり、病気の時でも安心だから」(33.5%)、「自然環境がよいから」(32.5%)、「通勤や仕事に便利だから」(28.5%)、「隣近所の人との付き合いがうまくいっているから」(27.3%)、「親、兄弟や親戚が近くにいるから」(27.3%)、「治安や風紀がよいから」(25.4%)、「道路、上下水道、公園などの公共施設が整っているから」(21.2%)などとなっている。

定住したい理由で高かった回答の上位10位と、前回（平成30年調査）の順位は次のようになっている。

		今 回	前回（平成30年調査）		増減差
1位	住みなれていて愛着があるから	59.1%	55.6%	（1位）	3.5
2位	交通の便がよいから	47.7	44.5	（2位）	3.2
3位	買い物に便利だから	39.0	31.8	（3位）	7.2
4位	医療施設が身近にあり、病気の時 でも安心だから	33.5	23.9	（8位）	9.6
5位	自然環境がよいから	32.5	27.5	（5位）	5.0
6位	通勤や仕事に便利だから	28.5	28.4	（4位）	0.1
7位	隣近所の人との付き合いがうまく いっているから	27.3	24.4	（6位）	2.9
7位	親、兄弟や親戚が近くにいるから	27.3	24.4	（6位）	2.9
9位	治安や風紀がよいから	25.4	19.5	（9位）	5.9
10位	道路、上下水道、公園などの公共施 設が整っているから	21.2	15.6	（10位）	5.6

【平成30年調査との比較】

今回の上位10位を前回の平成30年調査と比較すると、「医療施設が身近にあり、病気の時でも安心だから」は8位から4位に順位を上げている。「通勤や仕事に便利だから」は4位から6位に順位を下げている。

前回との増減をみると、上位10位すべての項目で増加となっており、「医療施設が身近にあり、病気の時でも安心だから」（9.6ポイント増）、「買い物に便利だから」（7.2ポイント増）、「治安や風紀がよいから」（5.9ポイント増）、「道路、上下水道、公園などの公共施設が整っているから」（5.6ポイント増）、「自然環境がよいから」（5.0ポイント増）が5%以上の増加となっている。

【平成21年以降の上位10位の推移】

平成21年以降の5回の調査の上位10位の推移をみると、今回1位の「住みなれていて愛着があるから」と、2位の「交通の便がよいから」はそれぞれ5回連続で1位、2位となっている。3位の「買い物に便利だから」も3回連続3位となっている。今回4位に上昇している「医療施設が身近にあり、病気のときでも安心だから」は前回まで25%前後で推移していたが、今回33.5%と一気に10ポイント程増加している。「通勤や仕事に便利だから」は前回4位から今回6位に下降しているが、割合は28%半ばで大きい変動はない。

順位	平成21年	平成24年	平成27年	平成30年	令和3年
1	住みなれていて愛着があるから 58.8%	住みなれていて愛着があるから 59.3%	住みなれていて愛着があるから 57.1%	住みなれていて愛着があるから 55.6%	住みなれていて愛着があるから 59.1%
2	交通の便がよいから 41.5%	交通の便がよいから 41.7%	交通の便がよいから 42.1%	交通の便がよいから 44.5%	交通の便がよいから 47.7%
3	自然環境がよいから 34.5%	自然環境がよいから 37.1%	買い物に便利だから 33.8%	買い物に便利だから 31.8%	買い物に便利だから 39.0%
4	買い物に便利だから 32.9%	買い物に便利だから 32.4%	自然環境がよいから 30.8%	通勤や仕事に便利だから 28.4%	医療施設が身近にあり、病気のときでも安心だから 33.5%
5	隣近所の人との付き合いがうまくいっているから 28.7%	隣近所の人との付き合いがうまくいっているから 29.1%	隣近所の人との付き合いがうまくいっているから 30.7%	自然環境がよいから 27.5%	自然環境がよいから 32.5%
6	親、兄弟や親戚が近くにいるから 24.6%	親、兄弟や親戚が近くにいるから 26.9%	親、兄弟や親戚が近くにいるから 25.4%	隣近所の人との付き合いがうまくいっているから 24.4%	通勤や仕事に便利だから 28.5%
7	医療施設が身近にあり、病気のときでも安心だから 24.2%	医療施設が身近にあり、病気のときでも安心だから 24.8%	医療施設が身近にあり、病気のときでも安心だから 25.3%	親、兄弟や親戚が近くにいるから 24.4%	隣近所の人との付き合いがうまくいっているから 27.3%
8	通勤や仕事に便利だから 22.7%	通勤や仕事に便利だから 24.3%	通勤や仕事に便利だから 24.7%	医療施設が身近にあり、病気のときでも安心だから 23.9%	親、兄弟や親戚が近くにいるから 27.3%
9	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っているから 16.3%	治安や風紀がよいから 19.0%	治安や風紀がよいから 22.3%	治安や風紀がよいから 19.5%	治安や風紀がよいから 25.4%
10	治安や風紀がよいから 15.9%	土地がらや人情が自分に合っていることから 16.7%	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っているから 16.7%	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っているから 15.6%	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っているから 21.2%

【上位5位の推移】

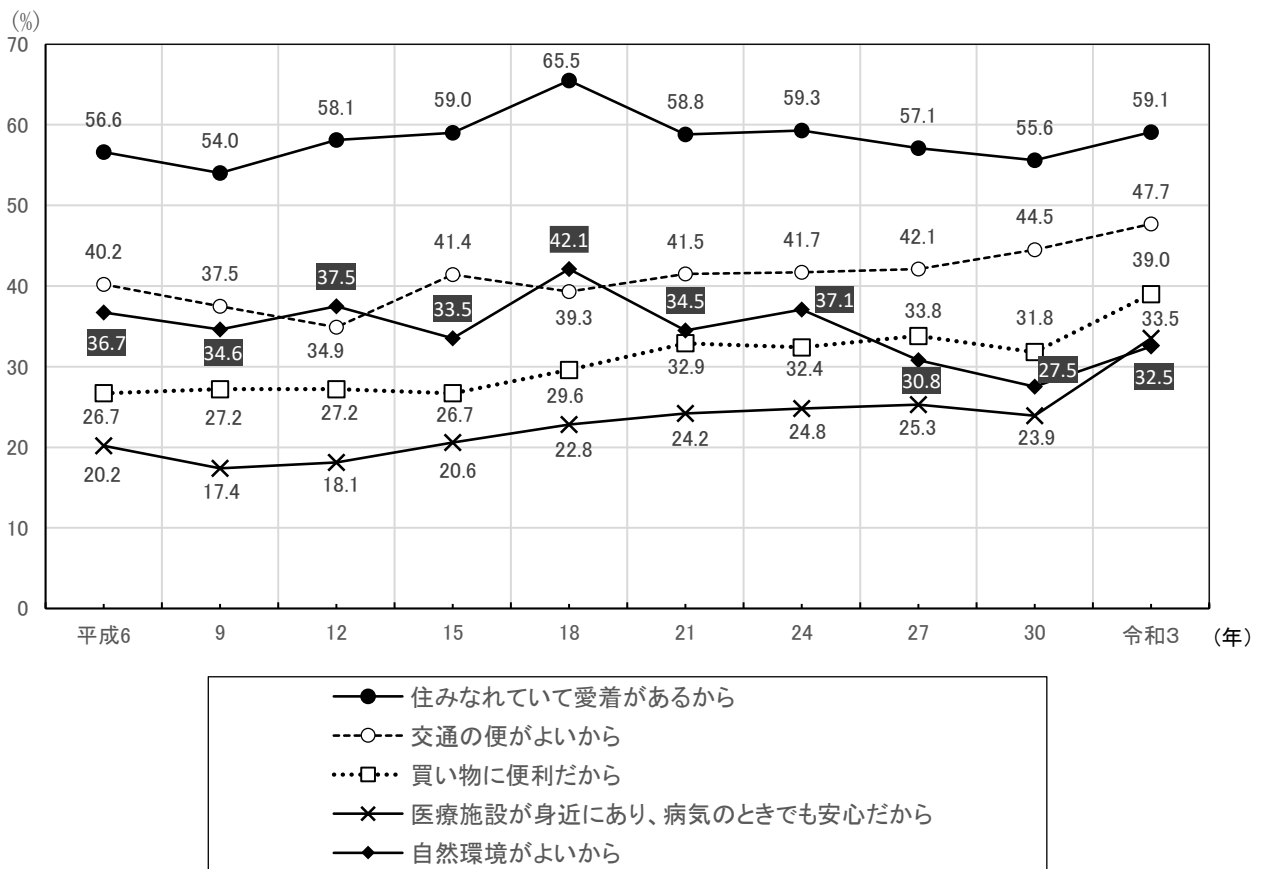
1位の「住みなれていて愛着があるから」は平成6年以降1位を維持している。前は5割台半ばまで下がったが、今回は再び59.1%まで上昇した。

2位の「交通の便がよいから」は平成15年以降、おおむね4割台を維持しており、5回連続で上昇し今回は47.7%まで上がった。

3位の「買い物に便利だから」は平成21年以降3割台で推移していたが、今回は39.0%まで上がった。

4位の「医療施設が身近にあり、病気のと看でも安心だから」は平成9年で17.4%だったが、以降6回連続で上昇を続け、前はやや下がったものの、今回は大きく上昇し33.5%と初めて3割台となった。

5位の「自然環境がよいから」は前回は2割台に下げたが、今回は再び3割台まで上昇した。



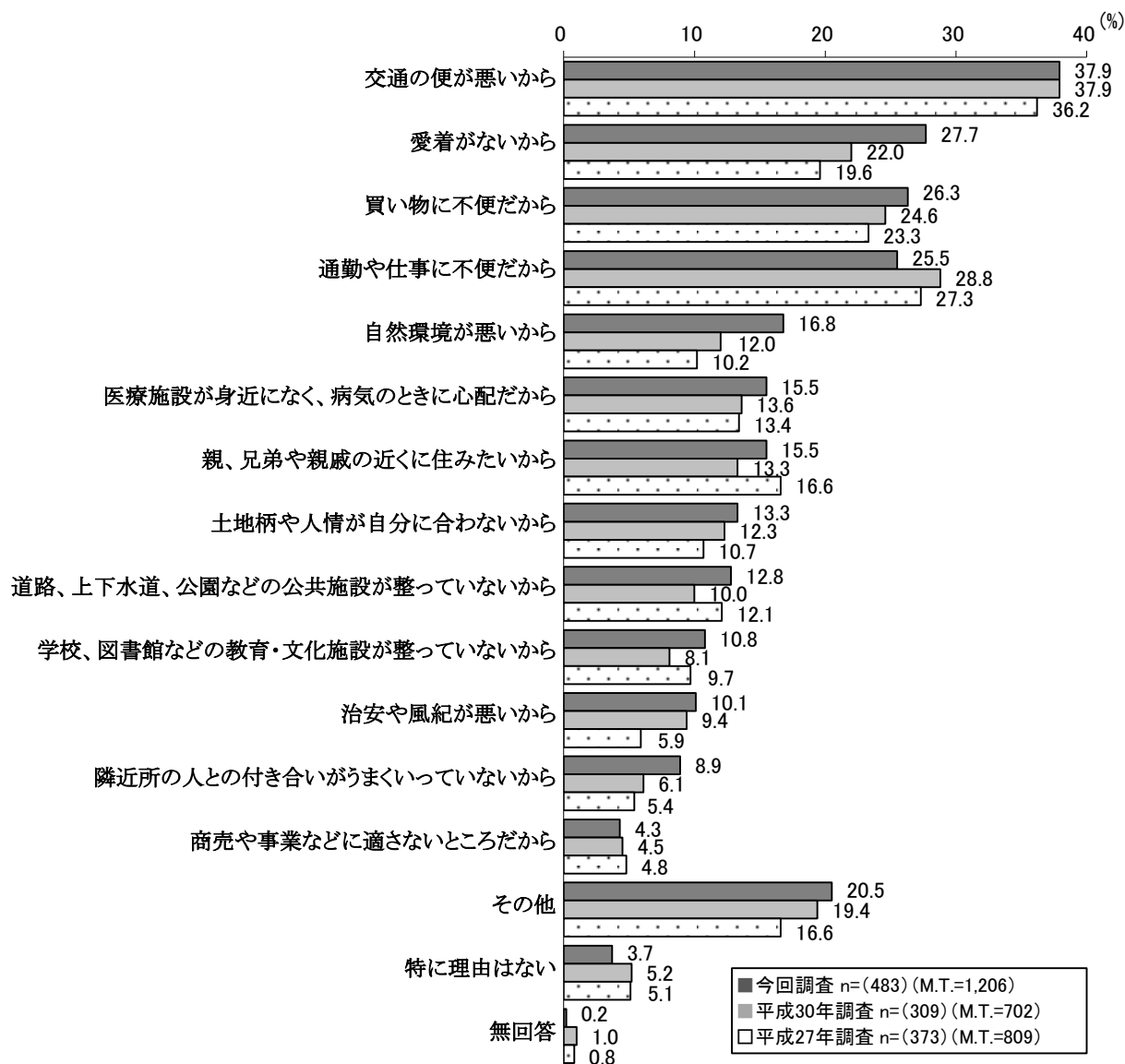
※調査方法の変更により前回調査までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

(4-2) 転出したい理由

◇「交通の便が悪いから」が37.9%

(問4で「2. よそへ移りたい」とお答えの方にお伺いします。)

問4-2 今お住まいの地域からよそへ移りたいと思う理由は何ですか。あてはまるものすべてを選んでください。(〇はいくつでも)



※調査方法の変更により前回調査までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

今の地域からよその地域へ移り住みたいと思う理由は、「交通の便が悪いから」(37.9%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「愛着がないから」(27.7%)、「買い物に不便だから」(26.3%)、「通勤や仕事に不便だから」(25.5%)、「自然環境が悪いから」(16.8%)、「医療施設が身近になく、病気のときに心配だから」、「親、兄弟や親戚の近くに住みたいから」(各15.5%)、「土地柄や人情が自分に合わないから」(13.3%)、「道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから」(12.8%)、「学校、図書館などの教育・文化施設が整っていないから」(10.8%)、「治安や風紀が悪いから」(10.1%)などとなっている。

転出したい理由で高かった回答の上位10位と、前回（平成30年調査）の順位は次のようになっている。

		今 回	前回（平成30年調査）		増減差
1位	交通の便が悪いから	37.9%	37.9%	（1位）	0.0
2位	愛着がないから	27.7	22.0	（4位）	5.7
3位	買い物に不便だから	26.3	24.6	（3位）	1.7
4位	通勤や仕事に不便だから	25.5	28.8	（2位）	△ 3.3
5位	自然環境が悪いから	16.8	12.0	（8位）	4.8
6位	医療施設が身近になく、病気のときに心配だから	15.5	13.6	（5位）	1.9
6位	親、兄弟や親戚の近くに住みたいから	15.5	13.3	（6位）	2.2
8位	土地柄や人情が自分に合わないから	13.3	12.3	（7位）	1.0
9位	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから	12.8	10.0	（9位）	2.8
10位	学校、図書館などの教育・文化施設が整っていないから	10.8	8.1	（11位）	2.7

※調査方法の変更により前回調査までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

【平成30年調査との比較】

今回の上位10位と前回の平成30年調査を比較すると、「愛着がないから」が4位から2位に、「自然環境が悪いから」は8位から5位に順位を上げ、「学校、図書館などの教育、文化施設が整っていないから」が10位に入り込んでいる。一方、「通勤や仕事に不便だから」は2位から4位に順位を下げている。

前回との増減をみると、増加では「愛着がないから」が5.7ポイント増、「自然環境が悪いから」が4.8ポイント増とほとんどの項目で増加しているが、「通勤や仕事に不便だから」（3.3ポイント減）が上位10位のうち唯一減少となっている。

【平成21年以降の上位10位の推移】

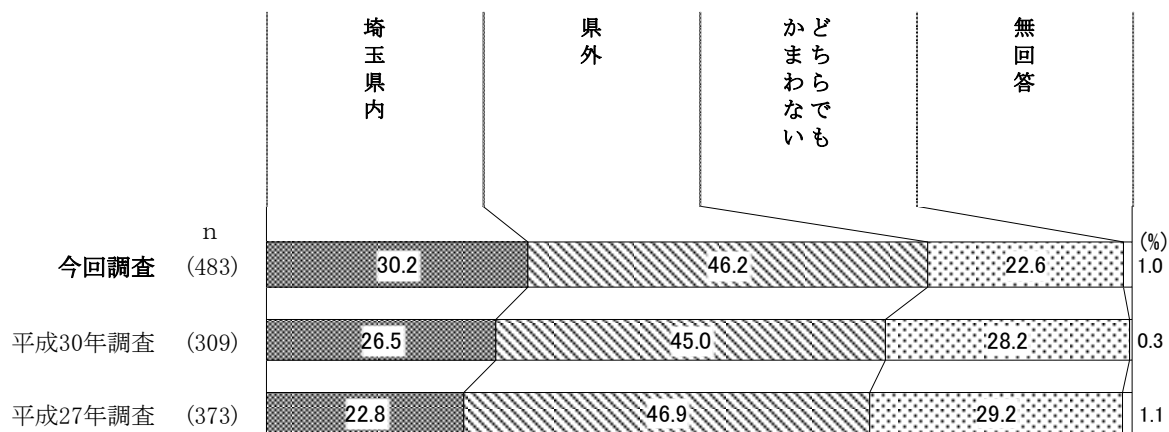
平成21年以降の5回の調査の上位10位の推移をみると、「交通の便が悪いから」が5回連続で転出したい理由の1位となっている。2位の「愛着がないから」、3位の「買い物に不便だから」、4位の「通勤や仕事に不便だから」は順位の上下はあるものの、5回の調査すべてで2位から4位を維持している。「自然環境が悪いから」は平成21年・24年では6位だったが、平成27年9位、平成30年8位と順位を下げていたが今回は5位に上昇している。また、今回6位の「医療施設が身近になく、病気のとくに心配だから」は平成21年9位、平成24年8位だったが、直近3回の調査では6位5位6位と上昇している。

順位	平成21年	平成24年	平成27年	平成30年	令和3年
1	交通の便が悪いから 35.0%	交通の便が悪いから 28.6%	交通の便が悪いから 36.2%	交通の便が悪いから 37.9%	交通の便が悪いから 37.9%
2	通勤や仕事に不便だから 25.9%	愛着がないから 21.6%	通勤や仕事に不便だから 27.3%	通勤や仕事に不便だから 28.8%	愛着がないから 27.7%
3	買い物に不便だから 22.2%	通勤や仕事に不便だから 20.7%	買い物に不便だから 23.3%	買い物に不便だから 24.6%	買い物に不便だから 26.3%
4	愛着がないから 19.7%	買い物に不便だから 15.3%	愛着がないから 19.6%	愛着がないから 22.0%	通勤や仕事に不便だから 25.5%
5	親、兄弟や親戚の近くに住みたいから 15.6%	親、兄弟や親戚の近くに住みたいから 14.9%	親、兄弟や親戚の近くに住みたいから 16.6%	医療施設が身近になく、病気のとくに心配だから 13.6%	自然環境が悪いから 16.8%
6	自然環境が悪いから 15.0%	自然環境が悪いから 12.3%	医療施設が身近になく、病気のとくに心配だから 13.4%	親、兄弟や親戚の近くに住みたいから 13.3%	医療施設が身近になく、病気のとくに心配だから 13.3%
7	土地がらや人情が自分に合わないから 15.0%	土地がらや人情が自分に合わないから 11.4%	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから 12.1%	土地がらや人情が自分に合わないから 12.3%	親、兄弟や親戚の近くに住みたいから 15.5%
8	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから 13.9%	医療施設が身近になく、病気のとくに心配だから 9.8%	土地がらや人情が自分に合わないから 10.7%	自然環境が悪いから 12.0%	土地柄や人情が自分に合わないから 13.3%
9	医療施設が身近になく、病気のとくに心配だから 12.8%	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから 9.1%	自然環境が悪いから 10.2%	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから 10.0%	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから 12.8%
10	隣近所の人との付き合いがうまくいっていないから 9.2%	治安や風紀が悪いから 7.4%	学校、図書館などの教育・文化施設が整っていないから 9.7%	治安や風紀が悪いから 9.4%	学校、図書館などの教育・文化施設が整っていないから 10.8%

(4-3) 転出先

◇「県外」が46.2%

(問4で「2. よそへ移りたい」とお答えの方にお伺いします。)
 問4-3 よそへ移るとしたら、埼玉県内ですか。それとも県外ですか。(○は1つだけ)



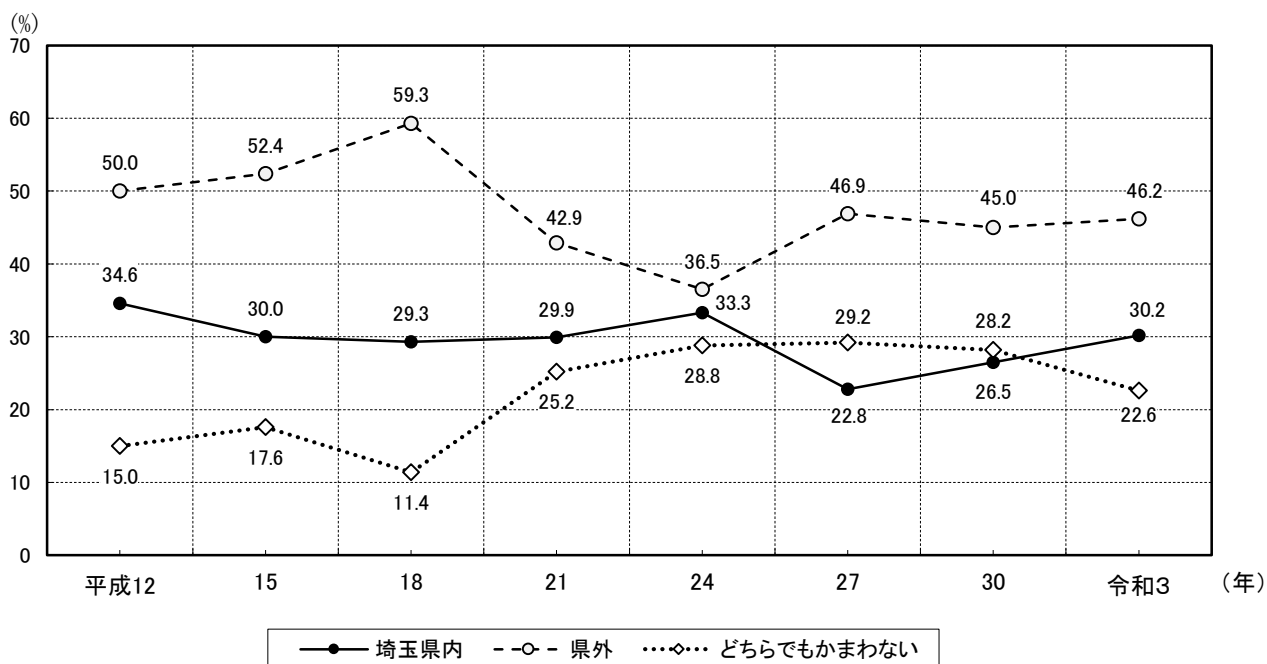
※調査方法の変更により前回調査までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

転出先は、「県外」(46.2%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで「埼玉県内」(30.2%)、「どちらでもかまわない」(22.6%)の順となっている。

【経年比較】

平成12年以降(3年毎)に実施した調査結果の推移をみると、「県外」は平成18年以降減少傾向であったが、平成27年調査以降は4割台半ばで推移している。「埼玉県内」は平成27年、平成30年調査で2割台に下がったが、今回の調査で再び3割台となった。

○転出先・平成12年以降の推移



(4-3-1) 移り住みたい都道府県

◇「東京都」が37.2%

(問4-3で「2. 県外」とお答えの方にお伺いします。)

問4-3-1 県外へ移るとしたら、どの都道府県へ移りたいですか。(○は1つだけ)

都道府県	今回調査	平成30年調査	増減差
東京都	37.2	54.0	-16.8
神奈川県	11.2	6.5	4.7
沖縄県	5.8	2.2	3.6
北海道	4.5	5.8	-1.3
群馬県	3.6	2.2	1.4
千葉県	3.6	5.0	-1.4
長野県	3.6	2.2	1.4
静岡県	3.1	0.7	2.4
秋田県	2.2	2.2	0
茨城県	2.2	0.7	1.5
福島県	1.8	-	1.8
愛知県	1.8	1.4	0.4
京都府	1.8	-	1.8
福岡県	1.8	-	1.8
栃木県	1.3	2.9	-1.6
兵庫県	1.3	0.7	0.6
奈良県	1.3	-	1.3
愛媛県	1.3	-	1.3
岩手県	0.9	0.7	0.2
山形県	0.9	0.7	0.2

都道府県	今回調査	平成30年調査	増減差
富山県	0.9	-	0.9
山梨県	0.9	1.4	-0.5
大阪府	0.9	-	0.9
香川県	0.9	-	0.9
宮城県	0.4	-	0.4
新潟県	0.4	0.7	-0.3
石川県	0.4	-	0.4
和歌山県	0.4	-	0.4
島根県	0.4	-	0.4
岡山県	0.4	-	0.4
佐賀県	0.4	-	0.4
宮崎県	0.4	-	0.4
青森県	-	0.7	-0.7
鳥取県	-	0.7	-0.7
長崎県	-	0.7	-0.7
熊本県	-	0.7	-0.7
海外*	-	1.4	-1.4
不明*	-	2.2	-2.2
無回答	1.3	3.6	-2.3

n=223 n=139

* 前回、聞き取り調査で回答のあった「海外」、「不明」は今回の選択肢には設けていない。

* 「福井県」、「岐阜県」、「三重県」、「滋賀県」、「広島県」、「山口県」、「徳島県」、「高知県」、「大分県」、「鹿児島県」は今回、前回ともに回答がないため表示していない。

※調査方法の変更により前回の結果と単純に時系列比較はできないことに留意

移りたい都道府県は、「東京都」(37.2%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「神奈川県」(11.2%)、「沖縄県」(5.8%)、「北海道」(4.5%) などとなっている。

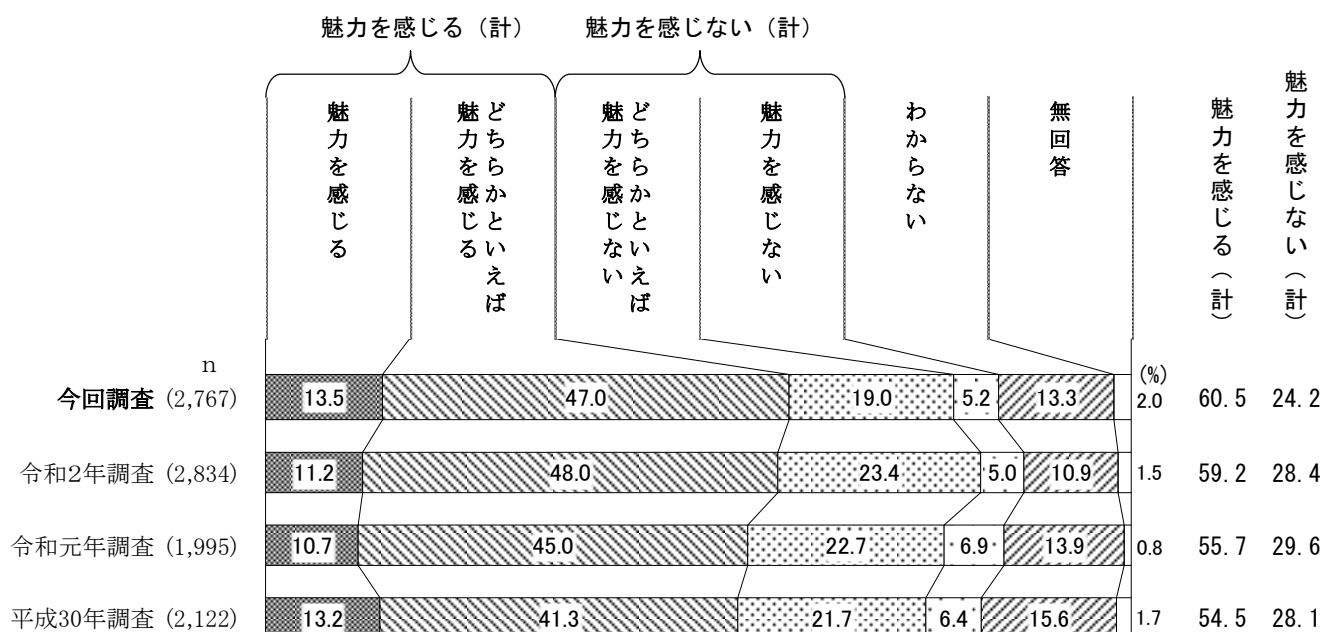
【過去調査との比較】

平成30年調査と比べると、東京都が16.8ポイント減少しているが、神奈川県(4.7ポイント増)、沖縄県(3.6ポイント増)、静岡県(2.4ポイント増)などで増加となっている。

(5) 埼玉県に魅力を感じるか

◇『魅力を感じる（計）』は60.5%、『魅力を感じない（計）』は24.2%

問5 あなたは、埼玉県に魅力を感じますか。（○は1つだけ）



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

埼玉県に魅力を感じるかについては、「どちらかといえば魅力を感じる」（47.0%）が4割台半ばを超えて最も多く、「魅力を感じる」（13.5%）と合わせた『魅力を感じる（計）』（60.5%）は6割を超えている。一方で、「魅力を感じない」（5.2%）と「どちらかといえば魅力を感じない」（19.0%）を合わせた『魅力を感じない（計）』（24.2%）は2割台半ばとなっており、『魅力を感じる（計）』が『魅力を感じない（計）』を36.3ポイント上回っている。

【過去調査との比較】

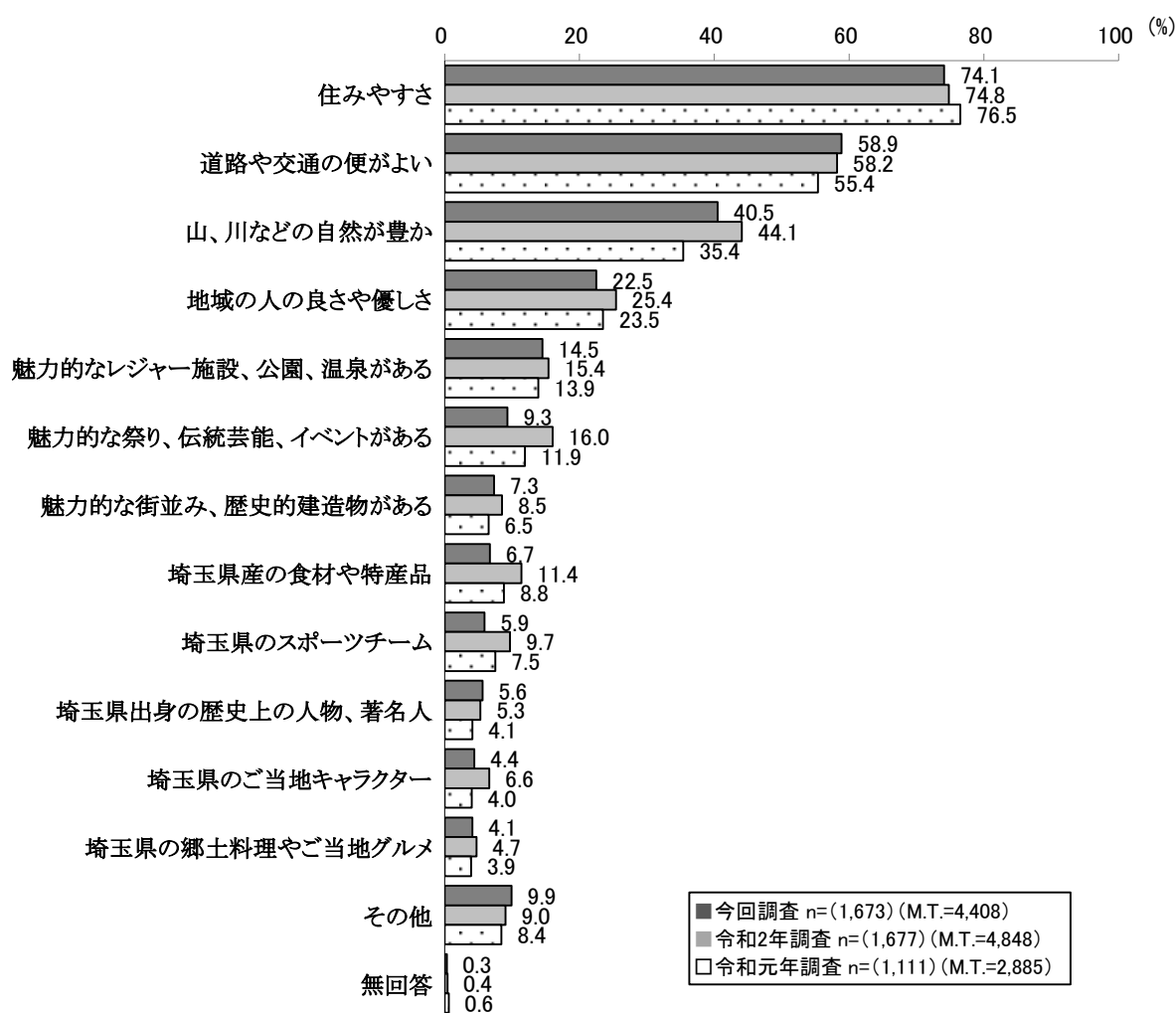
『魅力を感じる（計）』は平成30年調査（54.5%）から増加傾向にあり、今回調査（60.5%）で6割台となった。

(5-1) 埼玉県で魅力を感じるもの

◇「住みやすさ」が74.1%で第1位、次いで「道路や交通の便がよい」が58.9%

(問5で「1. 魅力を感じる」または「2. どちらかといえば魅力を感じる」とお答えの方にお伺いします。)

問5-1 あなたが埼玉県で魅力を感じるものは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

埼玉県で魅力を感じるものは、「住みやすさ」(74.1%)が7割台半ばと最も高く、次いで「道路や交通の便がよい」(58.9%)、「山、川などの自然が豊か」(40.5%)、「地域の人の良さや優しさ」(22.5%)、「魅力的なレジャー施設、公園、温泉がある」(14.5%)、「魅力的な祭り、伝統芸能、イベントがある」(9.3%)などとなっている。

【過去調査との比較】

令和2年調査と比べて、ほとんどの項目で割合が減少しており、「魅力的な祭り、伝統芸能、イベントがある」が6.7ポイント、「埼玉県産の食材や特産品」が4.7ポイントそれぞれ減少している。

2. 日常生活

(1) 地域社会活動への参加経験

◇参加経験が「ある」32.1%、「ない」65.1%

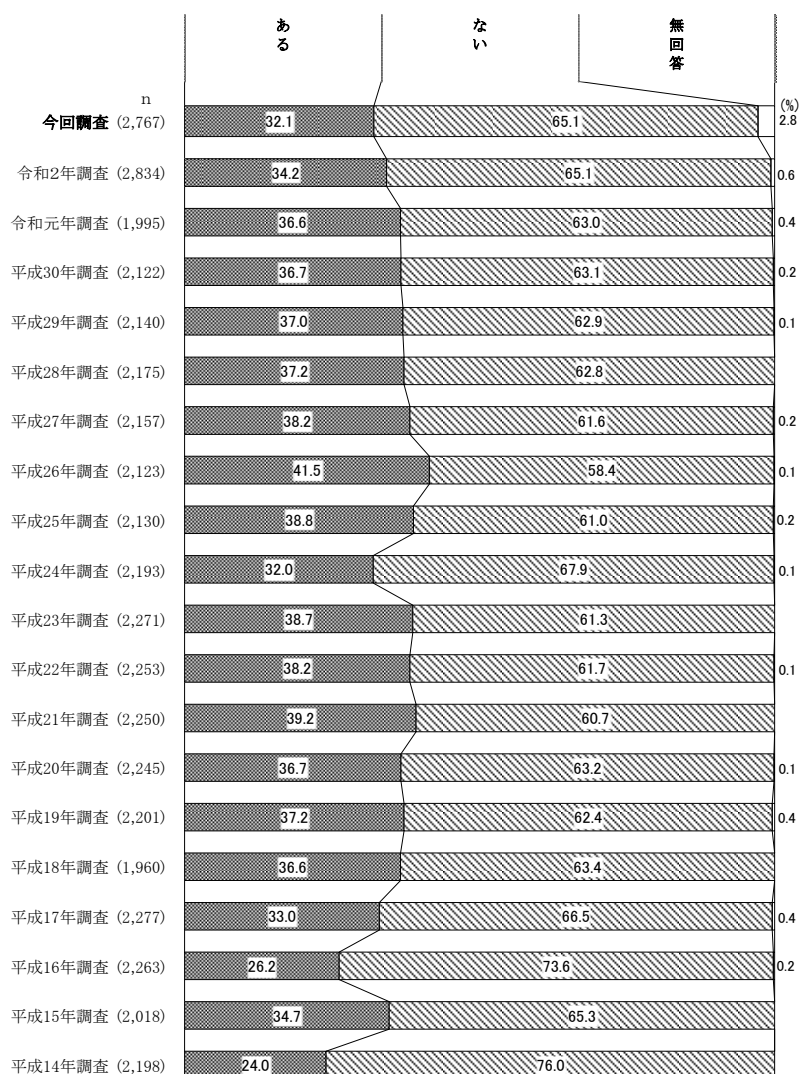
問6 次に、あなたの日常生活に関連することについておたずねします。

(1) あなたは、過去1年間に、地域社会活動(※)に参加したことがありますか。

(○は1つだけ)

※地域社会活動とは、例えば以下のような活動です。SNSやWeb会議システムを活用したオンラインでの参加も含まれます。

- 防犯パトロールや清掃活動等、町内会や自治会の活動
- 地域のイベント・祭事等への参加
- P T A活動や子供会の活動
- 障がい者や高齢者のための活動
- 青少年健全育成のための活動
- みどりと川の再生活動など環境保全の活動
- SNSや地域新聞、掲示板等を活用した地域情報の発信活動
- 子育てサロンや高齢者サロン等、地域サロンへの参加
- 趣味や経験を通じた地域のクラブ・サークル活動への参加
- 生涯学習や市(町)民大学への参加
- その他、地域活動やボランティア・N P O・寄付活動、地域とつながり交流する活動



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

過去1年間に地域活動社会活動に参加したことが「ある」(32.1%)は3割強となっている。

【過去調査との比較】

「ある」は平成26年調査以降減少傾向にあり、平成26年調査(41.5%)に比べて、今回調査(32.1%)は9.4ポイントの減少となっている。

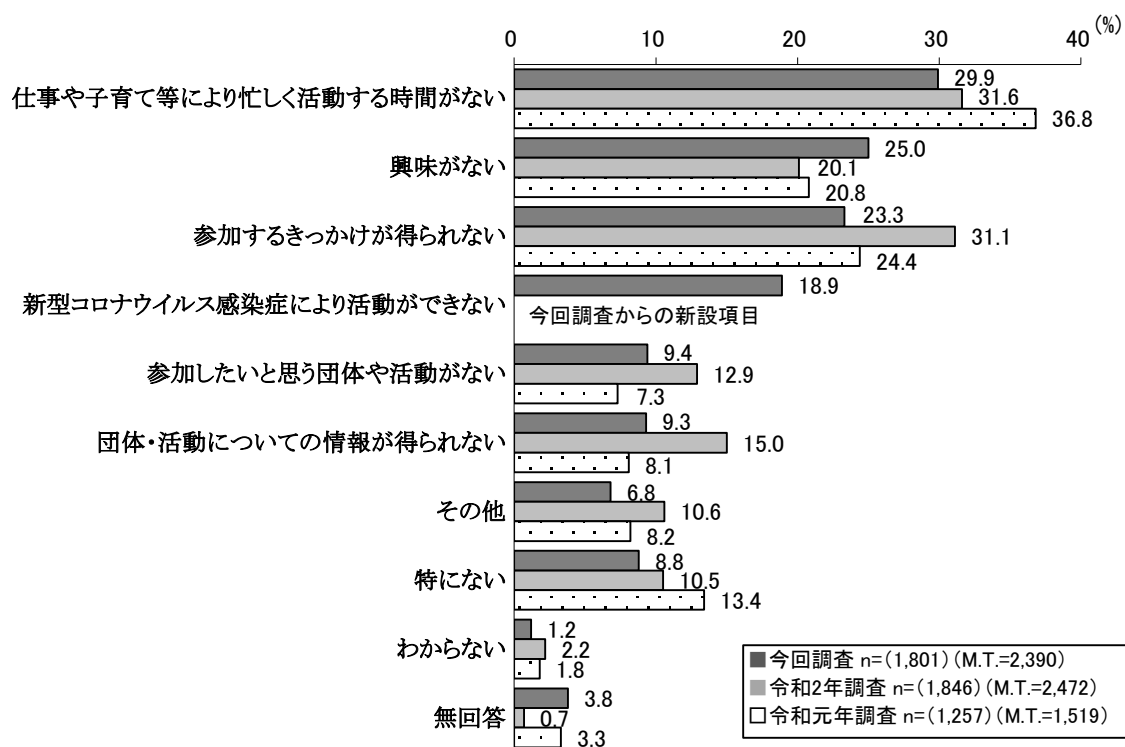
(1-1) 地域社会活動への不参加の理由

◇「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」が29.9%

(問6(1)で「2. ない」とお答えの方にお伺いします。)

問6(1)-1 その理由は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

(〇は2つまで)



地域社会活動への不参加の理由は、「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」(29.9%)が約3割で最も高く、次いで「興味がない」(25.0%)、「参加するきっかけが得られない」(23.3%)、「新型コロナウイルス感染症により活動できない」(18.9%)、「参加したいと思う団体や活動がない」(9.4%)などとなっている。

【過去調査との比較】

今回調査から追加された項目の「新型コロナウイルス感染症により活動できない」が18.9%であったため、令和2年調査と比べて、ほとんどの項目で減少となった。特に「参加するきっかけが得られない」は7.8ポイント、「団体・活動についての情報が得られない」が5.7ポイント減少しているが、「興味がない」は4.9ポイント増加している。

(2) 文化芸術活動の経験

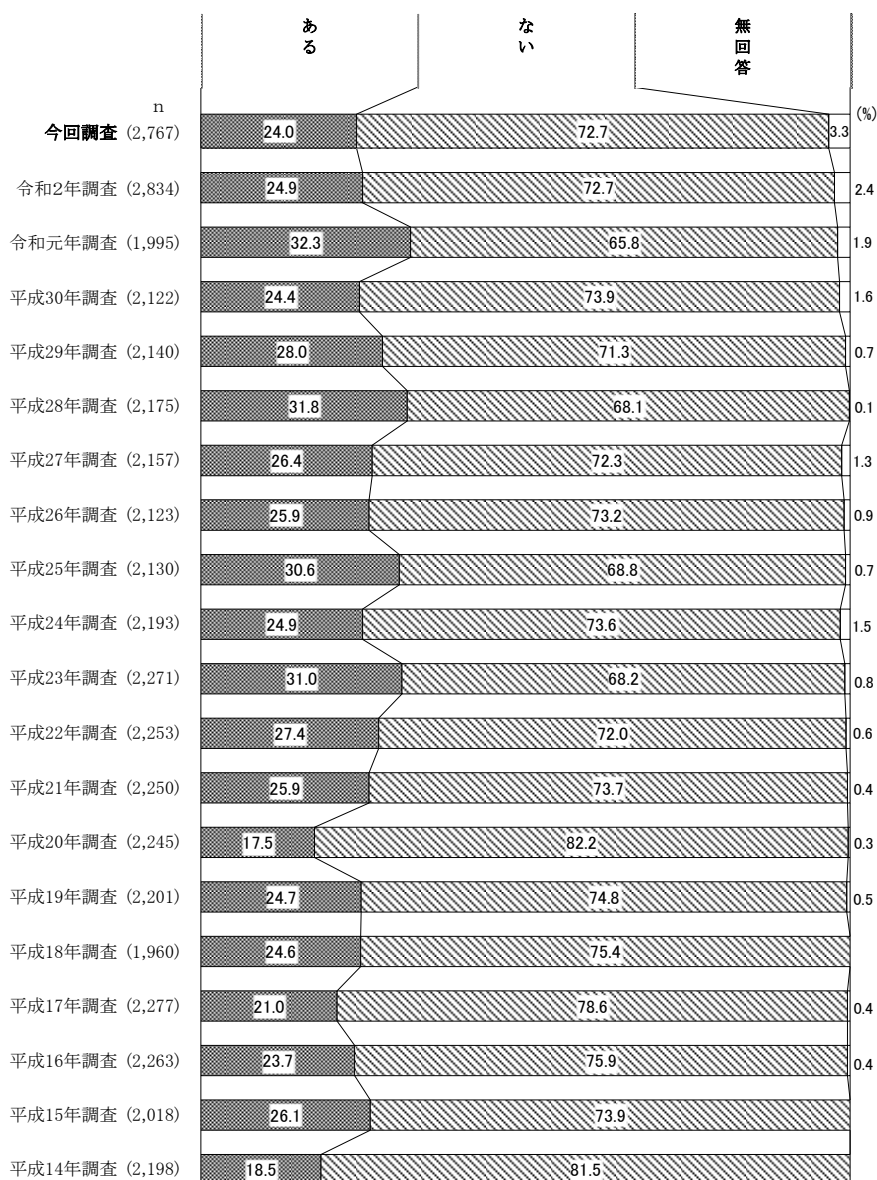
◇文化芸術活動の経験が「ある」24.0%、「ない」72.7%

問6(2) あなたは、この1年間に、文化芸術活動(※)を行ったことがありますか。
(〇は1つだけ)

(趣味、クラブ・サークル活動、体験教室、習い事などで行う活動も含みます。)

※文化芸術活動とは、例えば以下のような分野での活動です。インターネット上で行う活動も対象です。

- ・音楽(ポップス、ロック、ジャズ、演歌、クラシック、楽器演奏など)
- ・美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸など)
- ・写真(風景、人物写真など)
- ・文芸(小説、詩、俳句、短歌など)
- ・生活文化(書道、茶道、華道、盆栽など)
- ・国民娯楽(囲碁、将棋など)
- ・舞踊(バレエ、ダンス、よさこいなど)
- ・伝統芸能(和太鼓、民謡、民舞、日本舞踊、獅子舞、歌舞伎、地域のお祭りなど)
- ・演劇(現代劇、ミュージカルなど)
- ・演芸(落語、漫談、漫才など)
- ・伝統工芸、文化財の継承・保存
- ・映画・漫画・アニメ・CGなどのメディア芸術



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

この1年間に文化芸術活動を行ったことが「ある」(24.0%)は2割台半ばとなっている。

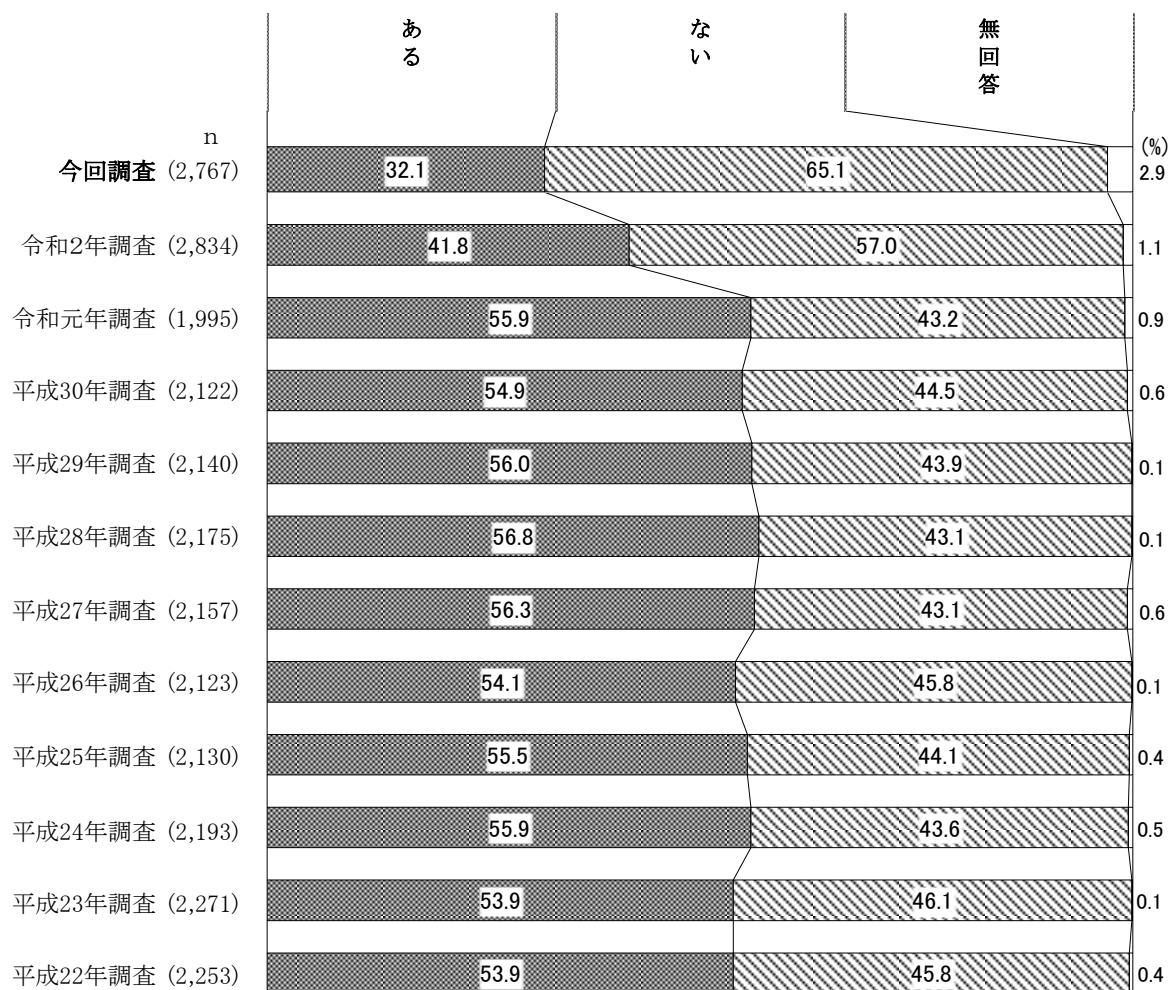
【過去調査との比較】

「ある」は令和2年調査と比べると0.9ポイントの減少にとどまっているが、2年前の令和元年調査(32.3%)と比べると8.3ポイントの減少となっている。

(3) 文化芸術活動の鑑賞

◇文化芸術活動の鑑賞は「ある」32.1%、「ない」65.1%

問6 (3) あなたは、この1年間に、文化芸術活動を鑑賞したことがありますか。
 (〇は1つだけ)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

この1年間で、文化芸術活動を鑑賞したことが「ある」(32.1%)は3割強となっており、「ない」(65.1%)を33.0ポイント下回っている。

【過去調査との比較】

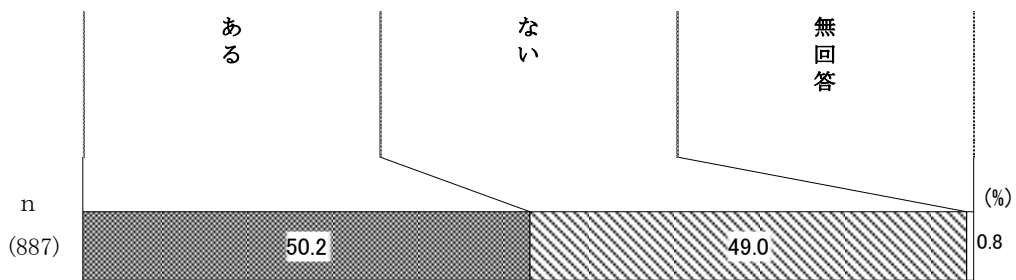
令和2年調査と比べると、「ある」は9.7ポイント減少しており、2年前の令和元年調査(55.9%)から大きく減少しており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるイベントの中止や外出自粛の影響を強く受けた結果となっている。

(3-1) インターネット配信による文化芸術活動の鑑賞

◇「ある」が50.2%、「ない」が49.0%

(問6(3)で「1. ある」とお答えの方にお伺いします。)

問6(3)-1 あなたは、この1年間に、インターネット配信による文化芸術活動の鑑賞を行ったことがありますか。(〇は1つだけ)

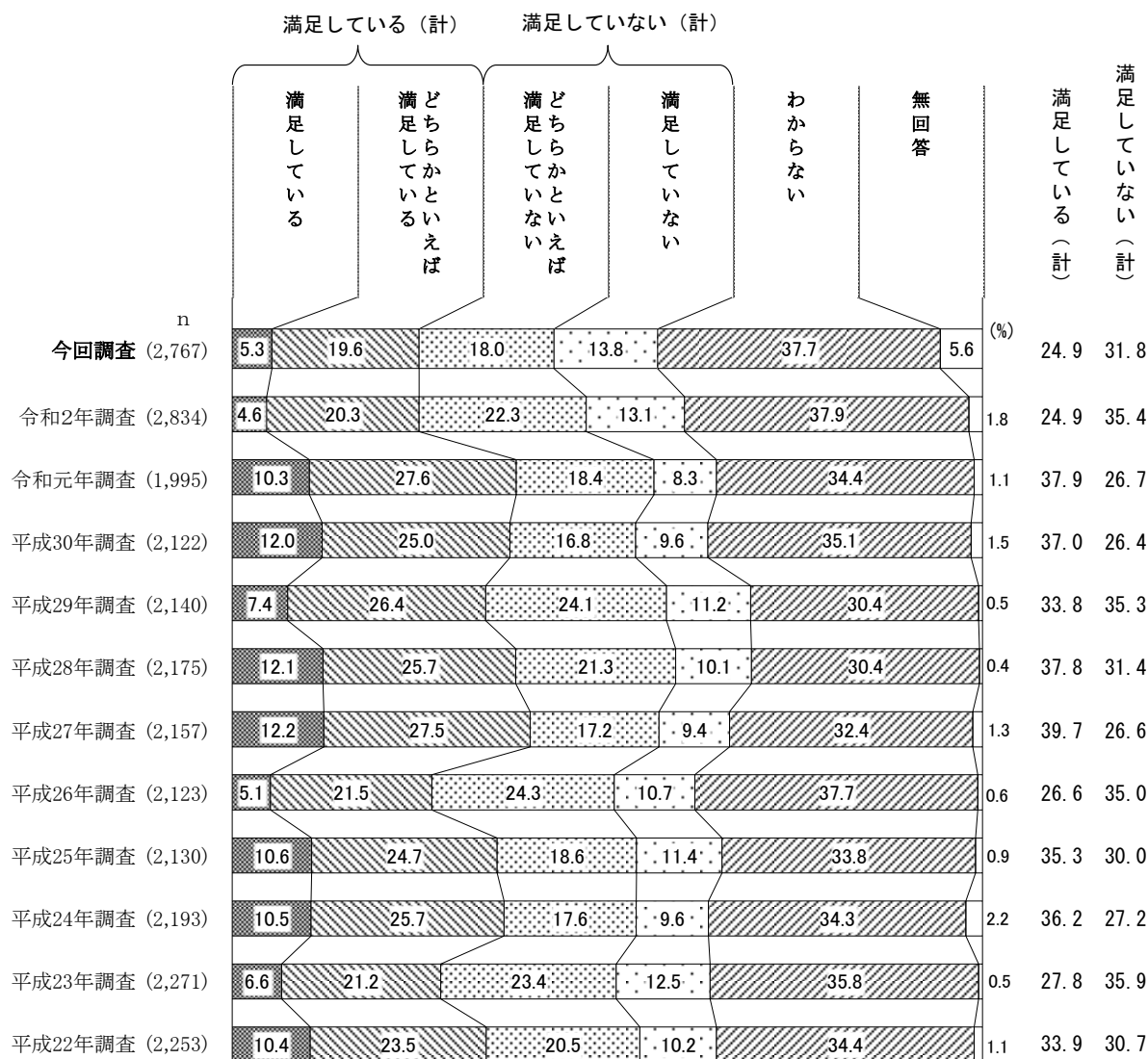


この1年間で、インターネット配信による文化芸術活動を鑑賞したことが「ある」は50.2%で、「ない」(49.0%)をわずかに上回っている。

(4) 文化芸術活動の機会や環境の満足度

◇『満足している（計）』は24.9%、『満足していない（計）』は31.8%

問6（4） あなたは、日常生活の中で文化芸術活動を鑑賞したり、文化芸術活動を行ったりする機会や環境について、満足していますか。（○は1つだけ）



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

日常生活の中での文化芸術活動の機会や環境の満足度は、「わからない」（37.7%）が3割台半ばを超えて最も高くなっている。次いで「どちらかといえば満足している」（19.6%）となっており、これに「満足している」（5.3%）を合わせた『満足している（計）』（24.9%）が2割台半ばとなっている。一方で「満足していない」（13.8%）と「どちらかといえば満足していない」（18.0%）を合わせた『満足していない（計）』（31.8%）は3割強となり、『満足している（計）』を6.9ポイント上回っている。

【過去調査との比較】

令和2年調査に引き続き、『満足している（計）』（24.9%）が2割台半ばと低い割合で推移している。一方で『満足していない（計）』（31.8%）は前回（35.4%）に比べて3.6ポイント減少している。

(5) スポーツ・レクリエーション活動の実施とその頻度

◇『週に1回程度以上(計)』は全体の56.3%

問7 埼玉県では、週に1回以上スポーツをすることを推奨しています。

あなたは、過去1年間に、散歩やウォーキング、軽い体操や日常生活の中で意識的に体を動かすことなどをはじめ、スポーツ・レクリエーション活動(※)をしましたか。

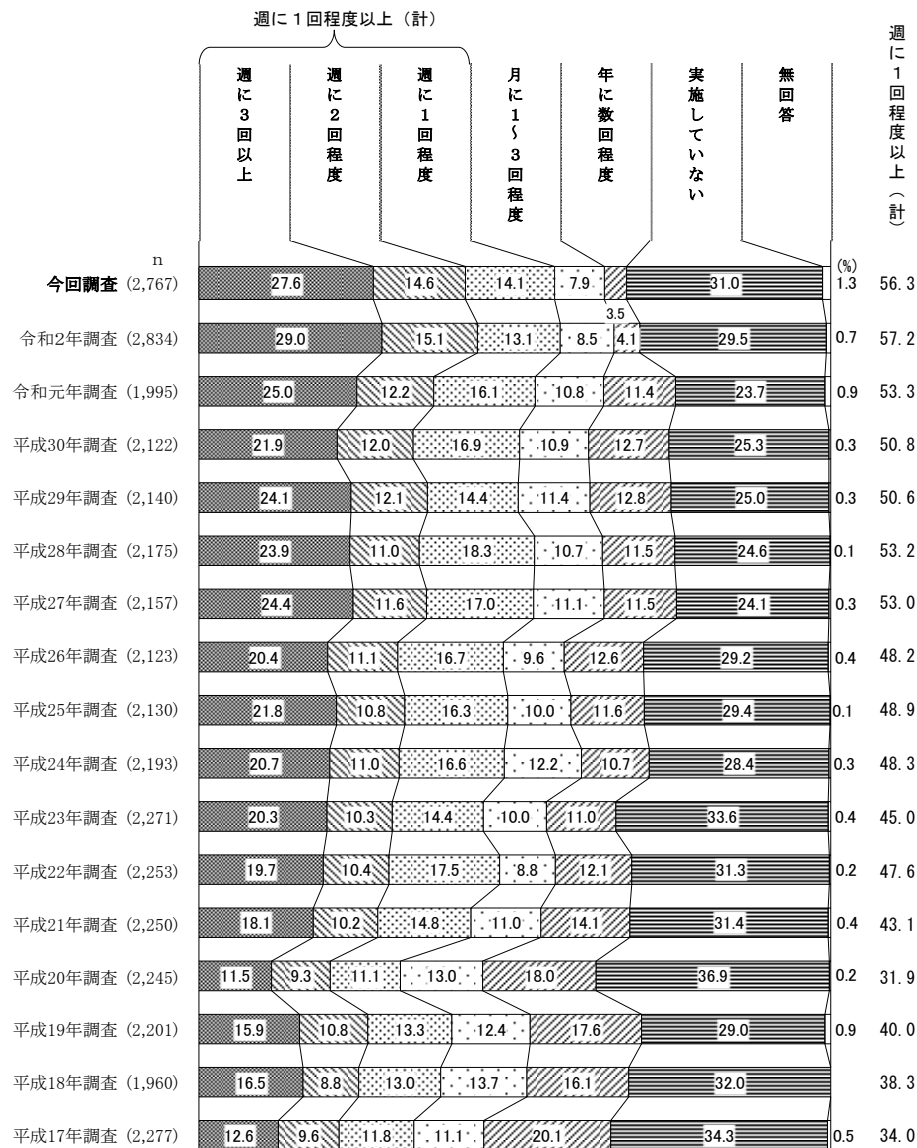
(〇は1つだけ)

問7-1 (問7で「1. した」場合に)それはどのくらいの頻度でしましたか。

(〇は1つだけ)

※スポーツ・レクリエーション活動には、以下のような活動も含めます。

散歩・ウォーキング(ぶらぶら歩き、一駅歩きを含む)、子供との体を使った遊び、通勤や家事などの日常生活の中で意識的に体を動かすこと、階段昇降、ジョギング・ランニング、水泳、体操(軽い体操・ラジオ体操を含む)、ヨガ・バレエ、登山(トレッキングを含む)、ハイキング、ボウリング、ゴルフ、トレーニング(筋力・その他運動器具を使った運動)、釣り、自転車・サイクリング、ゲートボール、ダンス(フォークダンス、民謡踊りを含む)、バーチャルスポーツ(体の動きを伴うコンピューターゲーム) など



※選択肢「月に1〜3回程度」は、平成22年から平成26年調査までは「月に1〜2回程度」としていた。
 平成24年調査までの選択肢「ない」は、「ない」と「わからない」の合計である。
 令和2年調査からは「実施していない」は問7の「していない」を問7-1に組み込んだものである。
 ※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

過去1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施機会は、「実施していない」(31.0%)が3割強で最も高くなっている。次いで「週に3回以上」(27.6%)となっており、「週に2回程度」(14.6%)、「週に1回程度」(14.1%)を合わせた『週に1回程度以上(計)』(56.3%)は5割台半ばを超えている。

【過去調査との比較】

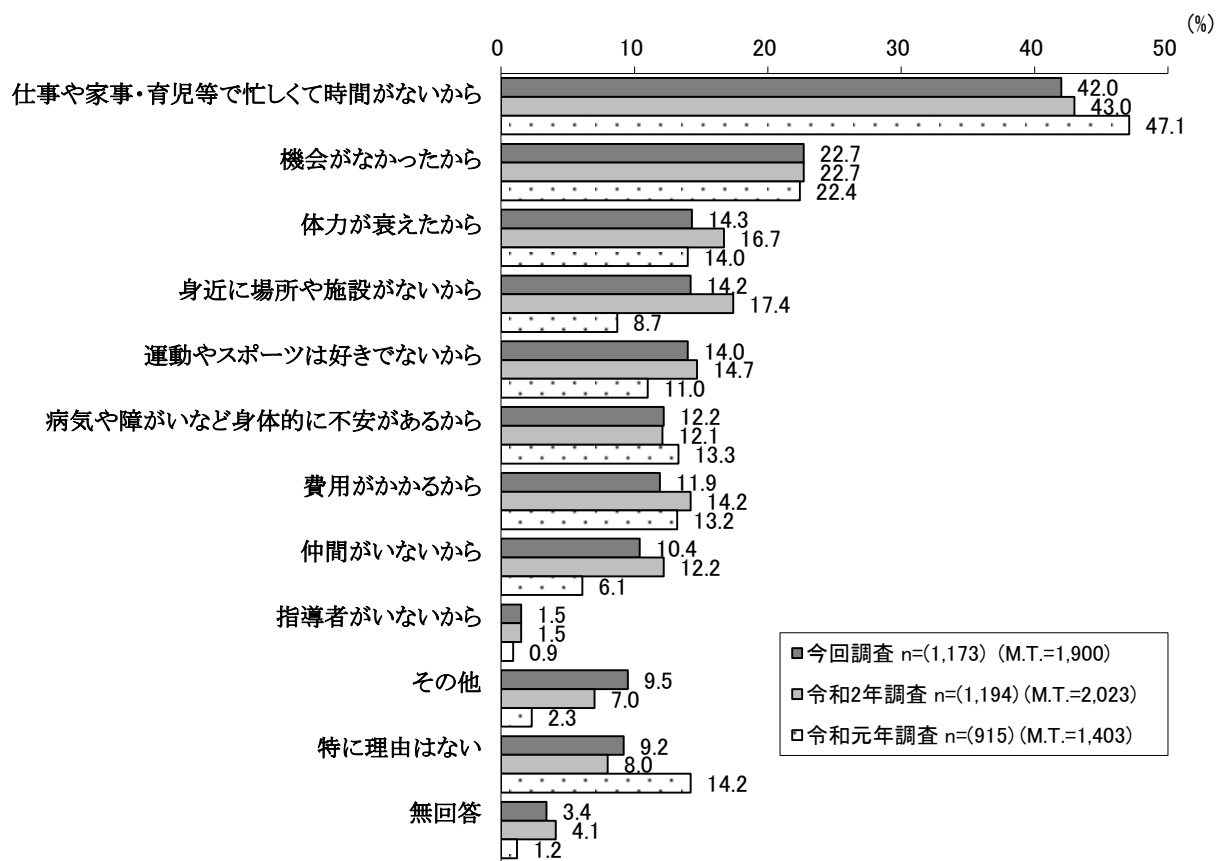
『週に1回程度以上(計)』の割合を、令和2年調査と比べると特に大きな差は見られないが、令和元年調査(53.3%)と比べると3.0ポイント増加している。一方で「実施していない」を令和元年調査(23.7%)と比べると7.3ポイント増加している。

(5-1) スポーツ・レクリエーション活動をする機会がなかった理由

◇「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」が42.0%

(問7で「2. していない」とお答えの方、または問7-1で「4. 月に1~3回程度」もしくは「5. 年に数回程度」とお答えの方にお伺いします。)

問7-2 週に1回以上活動する機会がなかった理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)



週に1回以上スポーツ・レクリエーション活動をする機会がなかった理由は、「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」(42.0%)が4割強で最も高く、次いで「機会がなかったから」(22.7%)が2割強で続き、以下「体力が衰えたから」(14.3%)、「身近に場所や施設がないから」(14.2%)、「運動やスポーツは好きではないから」(14.0%)、「病気や障がいなど身体的に不安があるから」(12.2%)などとなっている。

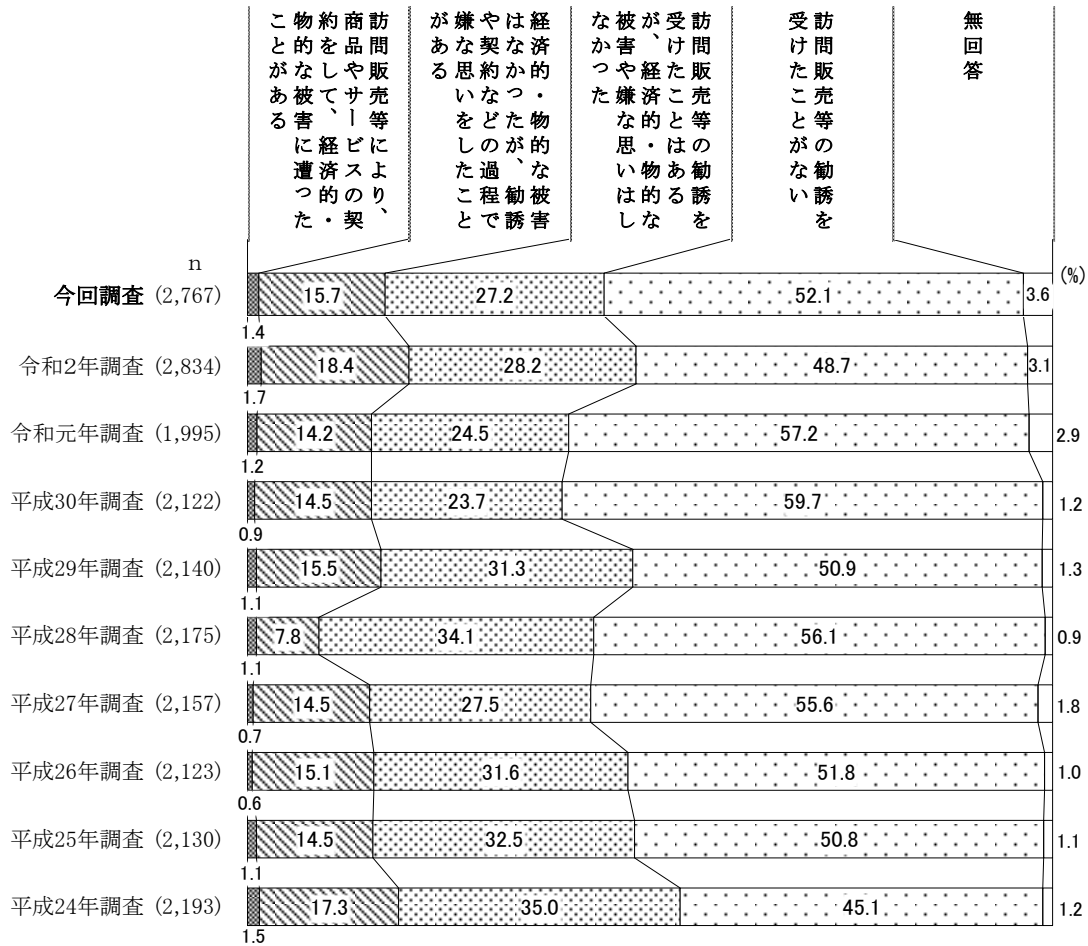
【過去調査との比較】

令和2年調査と比べると、特に大きな差はみられないが、ほとんどの項目で割合がわずかに減少している。

(6-1) 訪問販売、電話勧誘販売、通信販売による経済的・物的な被害

◇「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」が52.1%

問8 消費生活についておたずねします。
 (1) あなたは、ここ1年以内に、訪問販売、電話勧誘販売、通信販売などによって、経済的・物的な被害に遭った、または嫌な思いをしたことがありますか。(〇は1つだけ)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

訪問販売、電話勧誘販売、通信販売などによる経済的・物的な被害は、「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」(52.1%)が5割強で最も高くなっている。訪問販売等を受けたことがある中では、「訪問販売等の勧誘を受けたことはあるが、経済的・物的な被害や嫌な思いはしなかった」(27.2%)が2割台半ばを超えて最も高くなっており、次いで、「経済的・物的な被害はなかったが、勧誘や契約などの過程で嫌な思いをしたことがある」(15.7%)、「訪問販売等により、商品やサービスの契約をして、経済的・物的な被害に遭ったことがある」(1.4%)となっている。

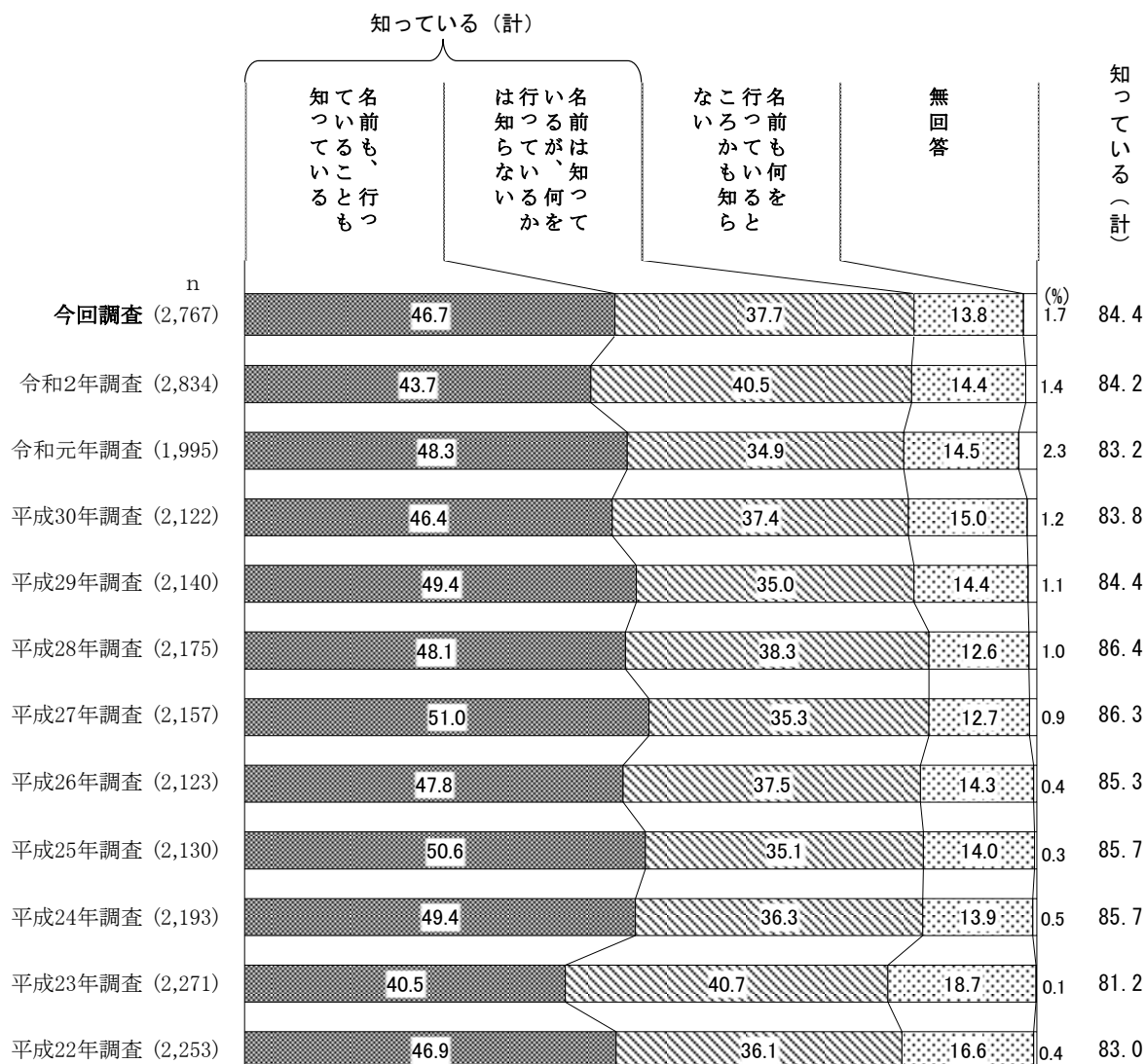
【過去調査との比較】

「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」は令和元年調査(57.2%)に比べて、令和2年調査(48.7%)で8.5ポイント減少したが、今回調査では再び3.4ポイント増加となっている。

(6-2) 消費生活センターの認知度

◇『知っている（計）』が84.4%

問8(2) あなたは、契約トラブルの相談・助言や商品テストを行っている消費生活センター（または、消費生活相談窓口）を知っていますか。（〇は1つだけ）



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

消費生活センター（または消費生活相談窓口）の認知度は、「名前も、行っていることも知っている」（46.7%）が4割台半ばを超えて最も高くなっている。次いで「名前は知っているが、何を行っているかは知らない」（37.7%）となっており、これらを合わせた『知っている（計）』（84.4%）は8割台半ばを占めている。一方で、「名前も何を行っているところかも知らない」（13.8%）は1割強となっている。

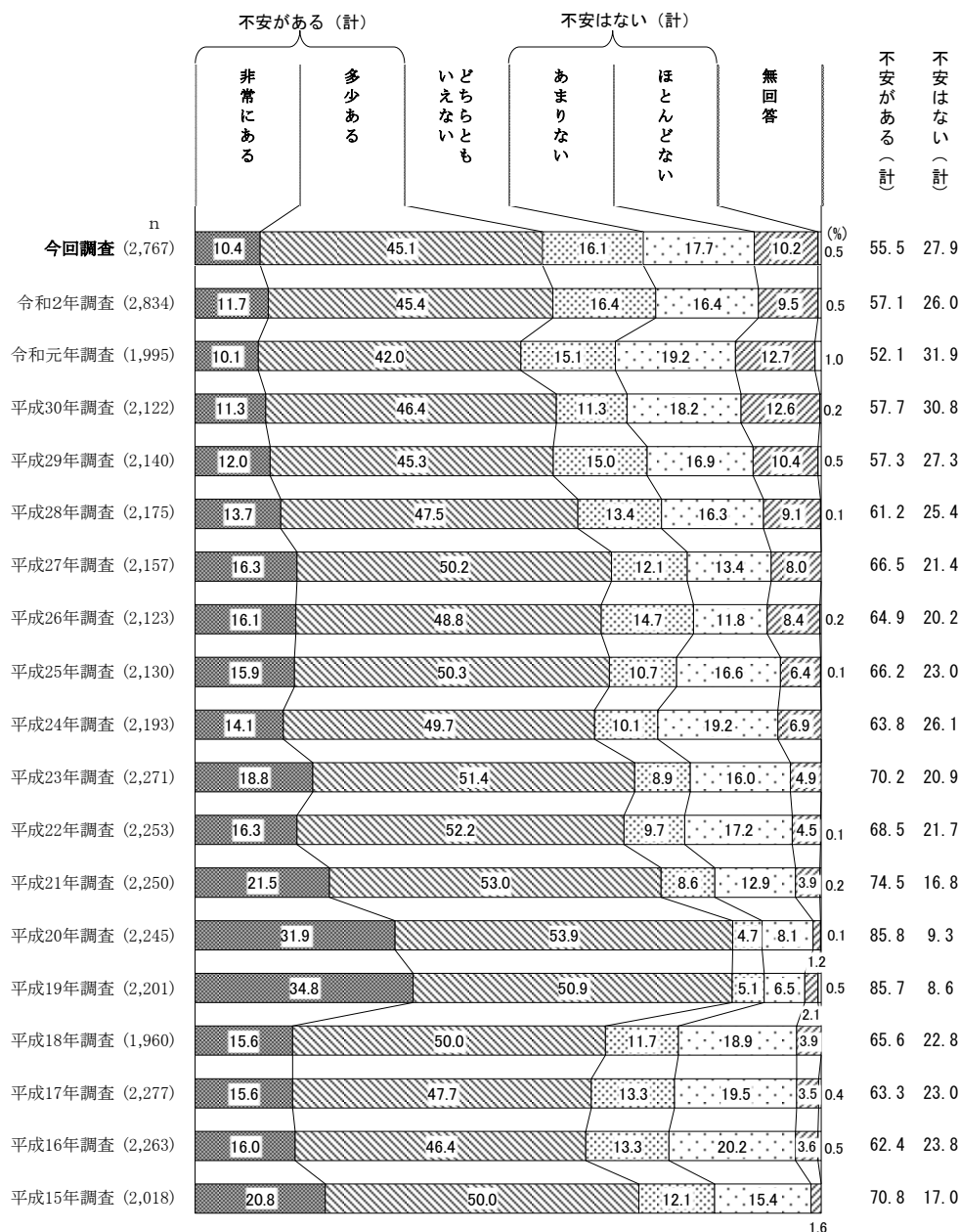
【過去調査との比較】

令和2年調査と比べて『知っている（計）』の割合に大きな差はないが、「名前も、行っていることも知っている」は3.0ポイント増加した。

(7) 食品の安全性に対する意識

◇『不安がある（計）』が55.5%

問9 食品の安全性についておたずねします。
あなたは、食品の安全性に不安がありますか。（○は1つだけ）



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

食品の安全性について、不安が「多少ある」（45.1%）が4割台半ばと最も高く、これに「非常にある」（10.4%）を合わせた『不安がある（計）』（55.5%）は5割台半ばとなっている。一方で、不安が「ほとんどない」（10.2%）と「あまりない」（17.7%）を合わせた『不安はない（計）』（27.9%）は2割台半ばを超えている。

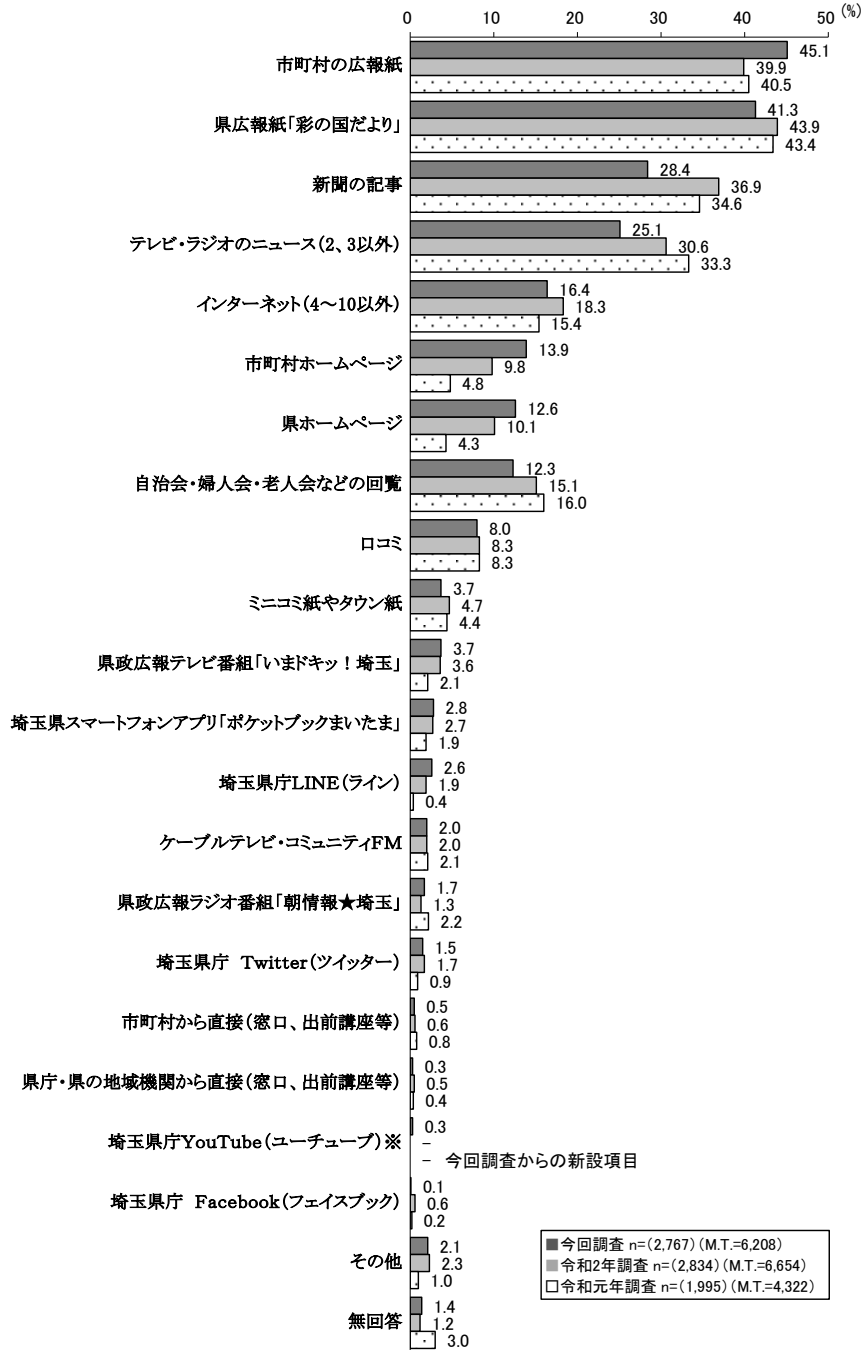
【過去調査との比較】

『不安がある（計）』の割合は、令和2年調査と比べて1.6ポイント減少している。

(8) 埼玉県に関する情報の入手先

◇市町村の広報紙が45.1%

問10 あなたは、埼玉県に関する情報を主にどこから入手していますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



※テレビ・ラジオのニュース(2、3以外)は、「2. 県政広報テレビ番組『いまドキッ! 埼玉』(テレビ埼玉/土曜朝8:30~9:00)」、「3. 県政広報ラジオ番組『朝情報★埼玉』(FM NACK5/月~金曜朝8:15~8:25)」を除くテレビ・ラジオのニュースを指す。
 ※インターネット(4~10以外)は、「4. 県ホームページ」、「5. 埼玉県庁 YouTube(ユーチューブ)」、「6. 埼玉県庁 Facebook(フェイスブック)」、「7. 埼玉県庁 Twitter(ツイッター)」、「8. 埼玉県庁 LINE(ライン)」、「9. 埼玉県スマートフォンアプリ『ポケットブックまいたま』」、「10. 市町村ホームページ」を除くインターネットを指す。
 ※番組変更に伴い、令和2年度から「県政広報ラジオ番組『FM NACK5 モーニングスクエア』」を「県政広報ラジオ番組『朝情報★埼玉』」へ変更した
 ※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

埼玉県に関する情報の入手先は、「市町村の広報紙」（45.1%）が4割台半ばと最も高く、次いで「県広報紙『彩の国だより』」（41.3%）、「新聞の記事」（28.4%）、「テレビ・ラジオのニュース（2、3以外）」（25.1%）、「インターネット（4～10以外）」（16.4%）、「市町村ホームページ」（13.9%）、「県ホームページ」（12.6%）などとなっている。

【過去調査との比較】

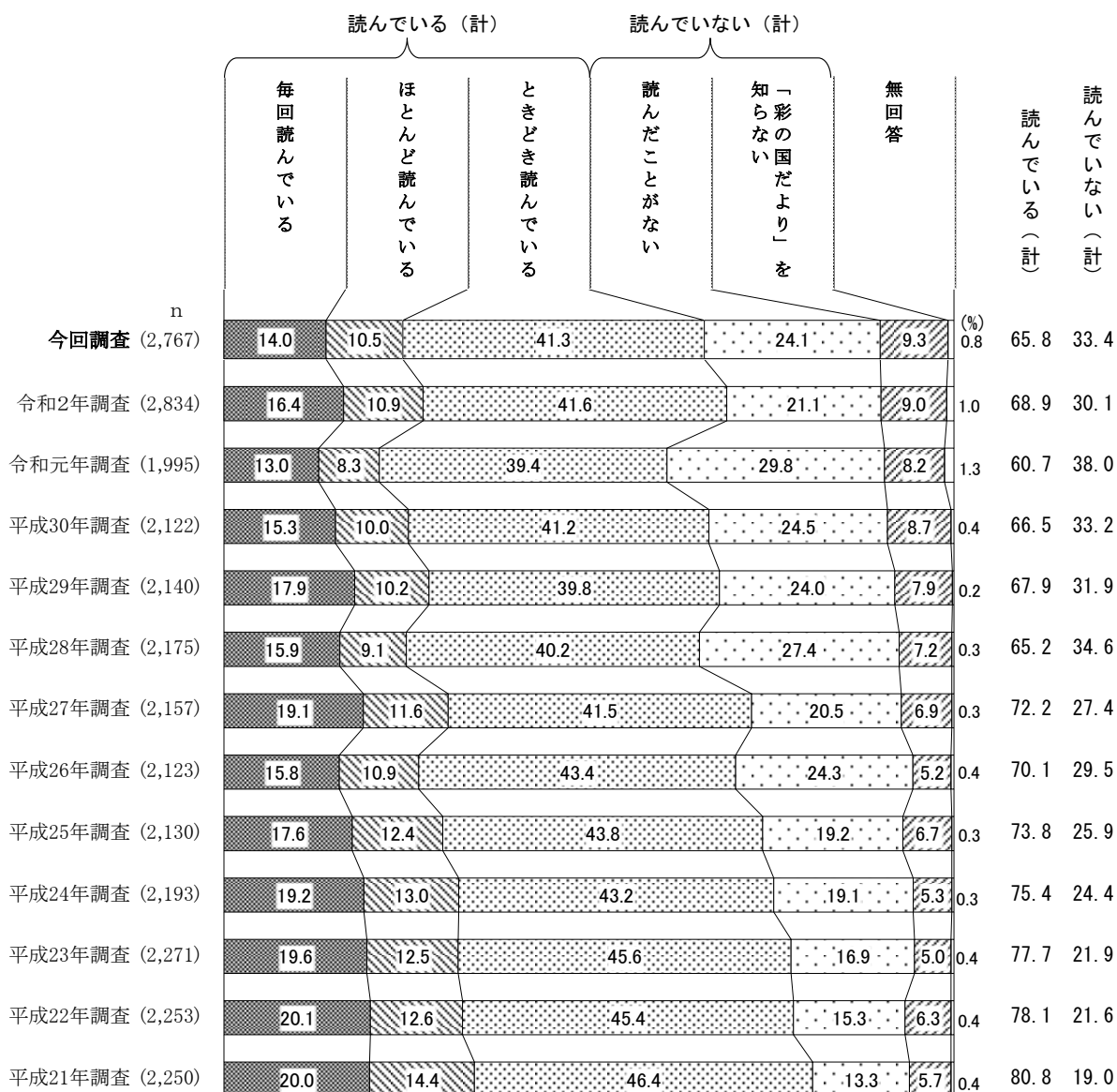
令和2年調査と比べて、「市町村の広報紙」が5.2ポイント、「市町村ホームページ」が4.1ポイント、「県ホームページ」が2.5ポイント増加している。一方、「新聞の記事」が8.5ポイント、「テレビ・ラジオのニュース（2、3以外）」が5.5ポイント減少している。

(9-1) 県広報紙「彩の国だより」の閲読状況

◇『読んでいる(計)』が65.8%

問11 県の広報紙、広報テレビ番組やラジオ番組についておたずねします。

(1) あなたは、県広報紙「彩の国だより」を読んだことがありますか。(○は1つだけ)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

県広報紙「彩の国だより」の閲読状況は、「ときどき読んでいる」(41.3%)が4割強と最も高く、これに「毎回読んでいる」(14.0%)と「ほとんど読んでいる」(10.5%)を合わせた『読んでいる(計)』(65.8%)は6割台半ばと高くなっている。一方で、「読んだことがない」(24.1%)と『「彩の国だより」を知らない』(9.3%)を合わせた『読んでいない(計)』(33.4%)は3割強となっている。

【過去調査との比較】

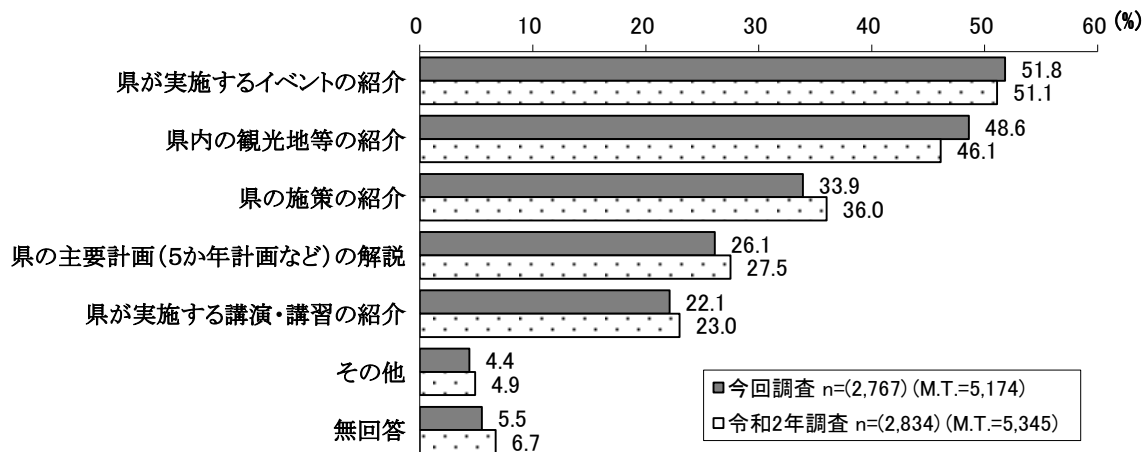
『読んでいる(計)』は、令和2年調査より3.1ポイント減少している。

(9-2) 県広報紙「彩の国だより」に期待する記事

◇「県が実施するイベントの紹介」が51.8%と最も高い

問11(2) あなたは、「彩の国だより」にどのような記事を期待しますか。

(〇はいくつでも)



県広報紙「彩の国だより」に期待する記事は、「県が実施するイベントの紹介」(51.8%)が5割強で最も高く、次いで「県内の観光地等の紹介」(48.6%)が5割弱と続き、以下「県の施策の紹介」(33.9%)、「県の主要計画(5か年計画など)の解説」(26.1%)、「県が実施する講演・講習の紹介」(22.1%)の順となっている。

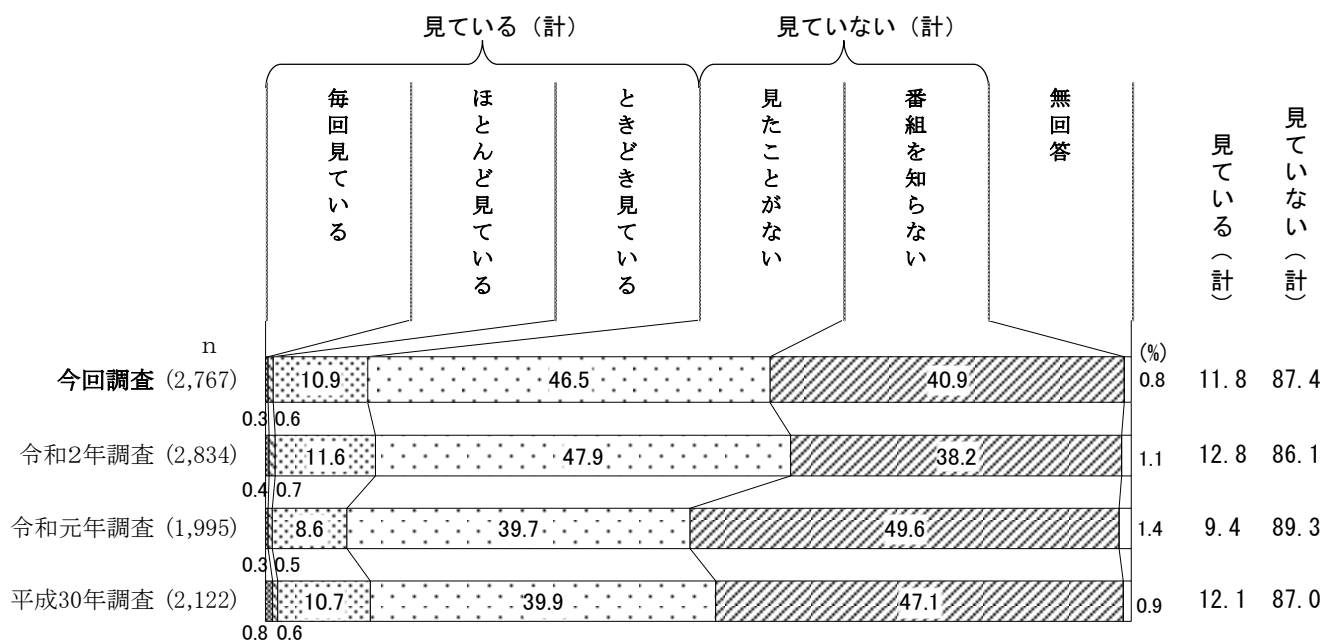
【過去調査との比較】

令和2年調査と比べて、「県内の観光地等の紹介」は2.5ポイント増加したが、「県の施策の紹介」は2.1ポイント減少した。

(9-3) 県政広報テレビ番組「いまドキッ！埼玉」の視聴状況

◇『見ている（計）』は11.8%、『見ていない（計）』は87.4%

問11(3) あなたは、県政広報テレビ番組「いまドキッ！埼玉（テレビ埼玉/土曜朝8:30～9:00）」を見たことがありますか。（○は1つだけ）



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

県政広報テレビ番組「いまドキッ！埼玉」の視聴状況は、「見たことがない」（46.5%）が4割台半ばを超えて最も高く、これに「番組を知らない」（40.9%）を合わせた『見ていない（計）』（87.4%）は8割台半ばを超えている。一方で、「毎回見ている」（0.3%）、「ほとんど見ている」（0.6%）、「ときどき見ている」（10.9%）を合わせた『見ている（計）』（11.8%）は1割強となっている。

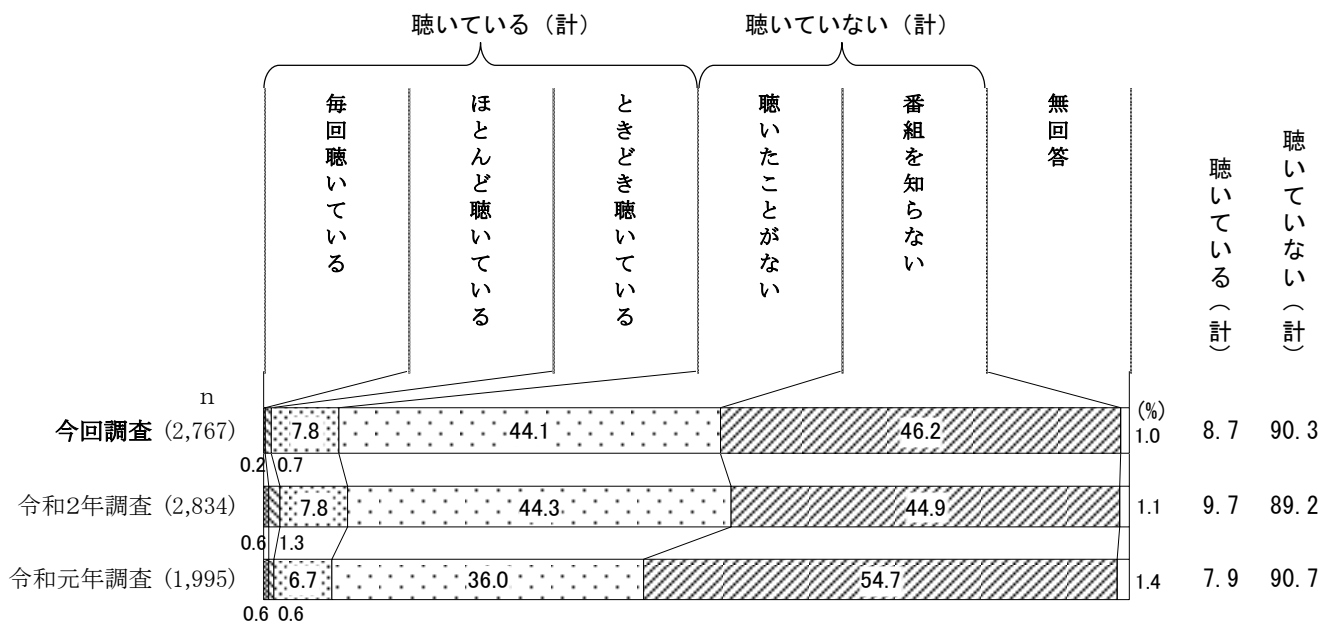
【過去調査との比較】

令和2年調査と比べて回答分布に大きな差はみられないが、『見ている（計）』は1.0ポイント減少している。

(9-4) 県政広報ラジオ番組「朝情報★埼玉」の聴取状況

◇『聴いている(計)』は8.7%で『聴いていない(計)』が90.3%

問11(4) あなたは、県政広報ラジオ番組「朝情報★埼玉 (FM NACK5/月～金曜朝8:15～8:25)」を聴いたことがありますか。(〇は1つだけ)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

県政広報ラジオ番組「朝情報★埼玉」の聴取状況は、「番組を知らない」(46.2%)が最も高く、これに「聴いたことがない」(44.1%)を合わせた『聴いていない(計)』(90.3%)は9割を超えている。一方で、「毎回聴いている」(0.2%)、「ほとんど聴いている」(0.7%)、「ときどき聴いている」(7.8%)を合わせた『聴いている(計)』(8.7%)は1割弱となっている。

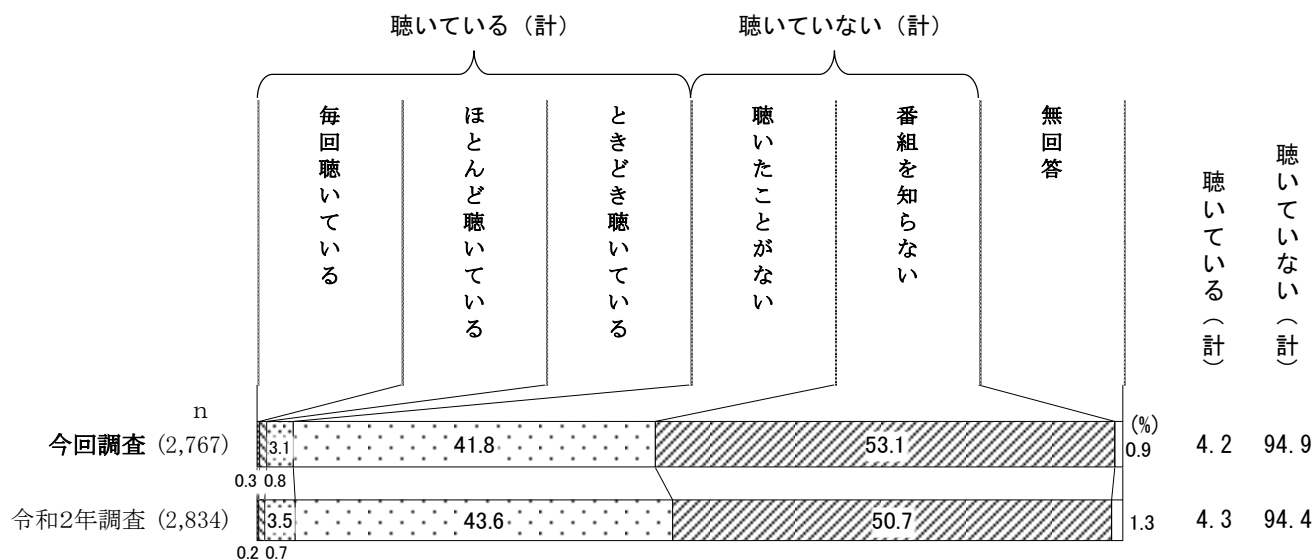
【過去調査との比較】

令和2年調査の聴取状況と比べると、『聴いている(計)』は1.0ポイント減少し、『聴いていない(計)』が1.1ポイント増加している。

(9-5) ラジオ番組「まとめて！埼玉応援団」の聴取状況

◇『聴いている（計）』は4.2%で『聴いていない（計）』が94.9%

問11(5) あなたは、ラジオ番組「まとめて！埼玉応援団（TBS/土曜 朝8:34～8:39）」（「蓮見孝之 まとめて！土曜日」コーナーの一つ）を聴いたことがありますか。
 (○は1つだけ)

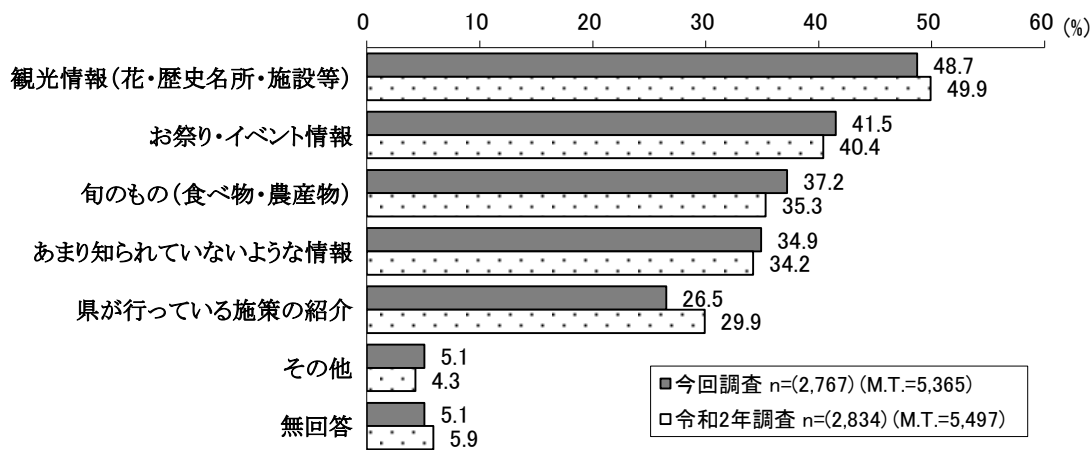


ラジオ番組「まとめて！埼玉応援団」の聴取状況は、「番組を知らない」（53.1%）が5割強と最も高く、これに「聴いたことがない」（41.8%）を合わせた『聴いていない（計）』（94.9%）は9割台半ばとなっている。一方で、「毎回聴いている」（0.3%）、「ほとんど聴いている」（0.8%）、「ときどき聴いている」（3.1%）を合わせた『聴いている（計）』は4.2%となっている。

(9-6) 県の広報テレビ・ラジオ番組の内容への要望

◇「観光情報」が48.7%でトップ、「お祭り・イベント情報」が41.5%で続く

問11(6) あなたは、県の広報テレビ・ラジオ番組で、どのような内容を見たり聴いたりしたいと思いますか。(〇はいくつでも)

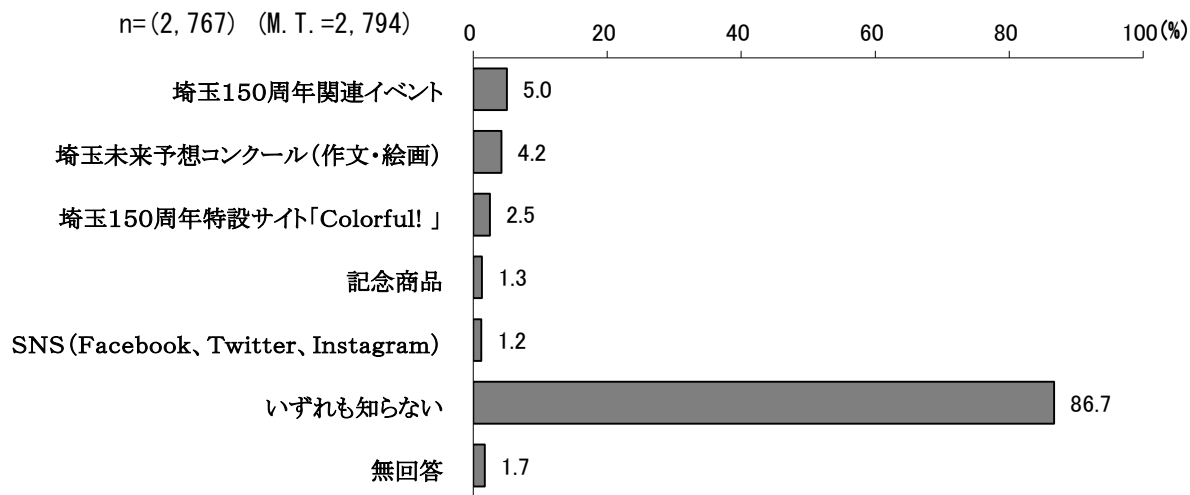


県の広報テレビ・ラジオ番組に求める内容では、「観光情報（花・歴史名所・施設等）」（48.7%）が5割弱で最も高く、以下、「お祭り・イベント情報」（41.5%）、「旬のもの（食べ物・農産物）」（37.2%）、「あまり知られていないような情報」（34.9%）、「県が行っている施策の紹介」（26.5%）の順となっている。

(9-7) 埼玉150周年記念事業について知っている内容

◇「いずれも知らない」が86.7%

問11(7) あなたは、2020年から2021年にかけて県が実施している埼玉150周年記念事業について、どのような内容を知っていますか。(〇はいくつでも)

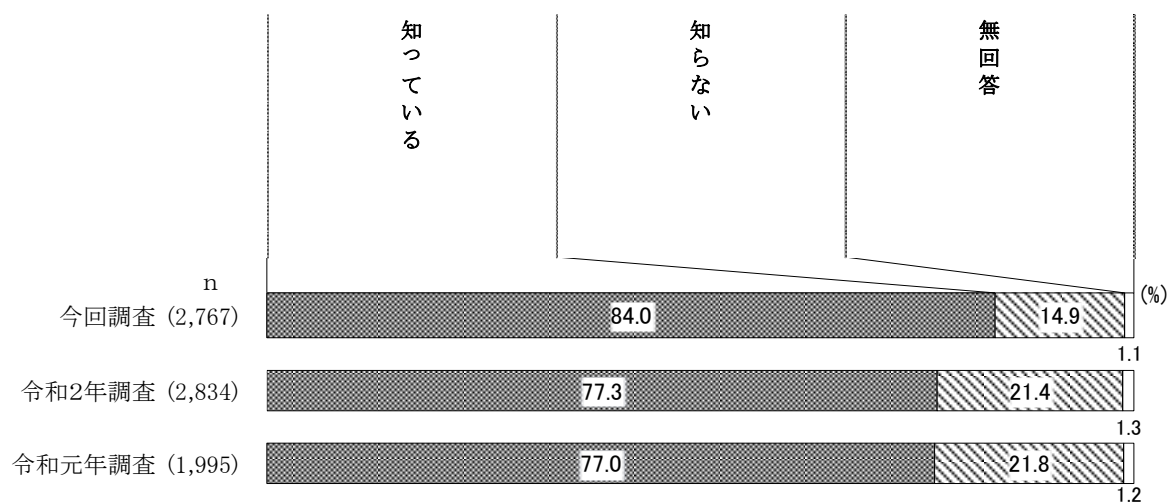


埼玉150周年記念事業については「いずれも知らない」(86.7%)が8割台半ばを超えており、知っている事業では「埼玉150周年関連イベント」が5.0%で最も高くなっている。

(10) 東京2020オリンピック・パラリンピックの埼玉県内開催の認知度

◇「知っている」が84.0%、「知らない」が14.9%

問12 あなたは、「東京2020オリンピック・パラリンピック」が埼玉県内で開催されることを知っていますか。(〇は1つだけ)



東京2020オリンピック・パラリンピックの埼玉県内での開催については、「知っている」(84.0%)が8割台半ばを占めており、「知らない」(14.9%)は1割台半ばとなっている。

【過去調査との比較】

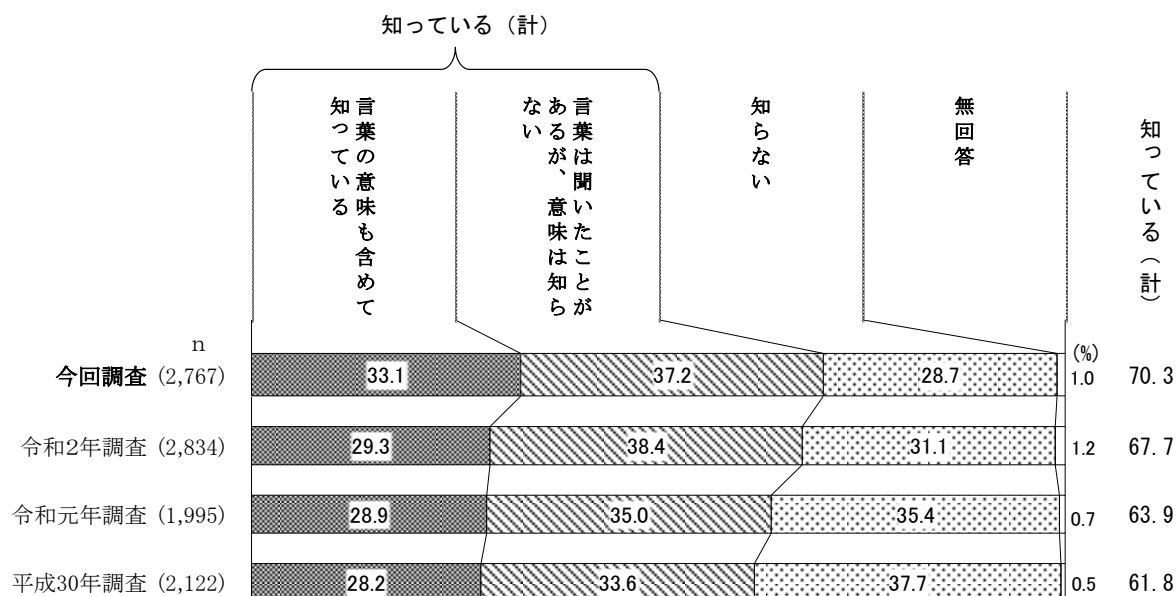
令和2年調査と比べて、「知っている」が6.7ポイント増加している。

(11-1) 生物多様性の認知度

◇『知っている（計）』が70.3%

問13 現在、「生物多様性」の保全という、地球上のさまざまな生物やそれらが生息・生育できる環境を守る取組が進められています。また、もともとその地域にいなかったのに、人間によって他の地域から入ってきたアライグマやカミツキガメなど種々の「外来生物」により、地域固有の生物の生態系や自然環境に影響を与える問題が起きています。

(1) あなたは、「生物多様性」という言葉を知っていますか。(〇は1つだけ)



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

「生物多様性」という言葉の認知度は、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」(37.2%)が3割台半ばを超えて最も高く、これに「言葉の意味も含めて知っている」(33.1%)を合わせた『知っている（計）』(70.3%)は7割を超えている。一方で、「知らない」(28.7%)は3割弱となっている。

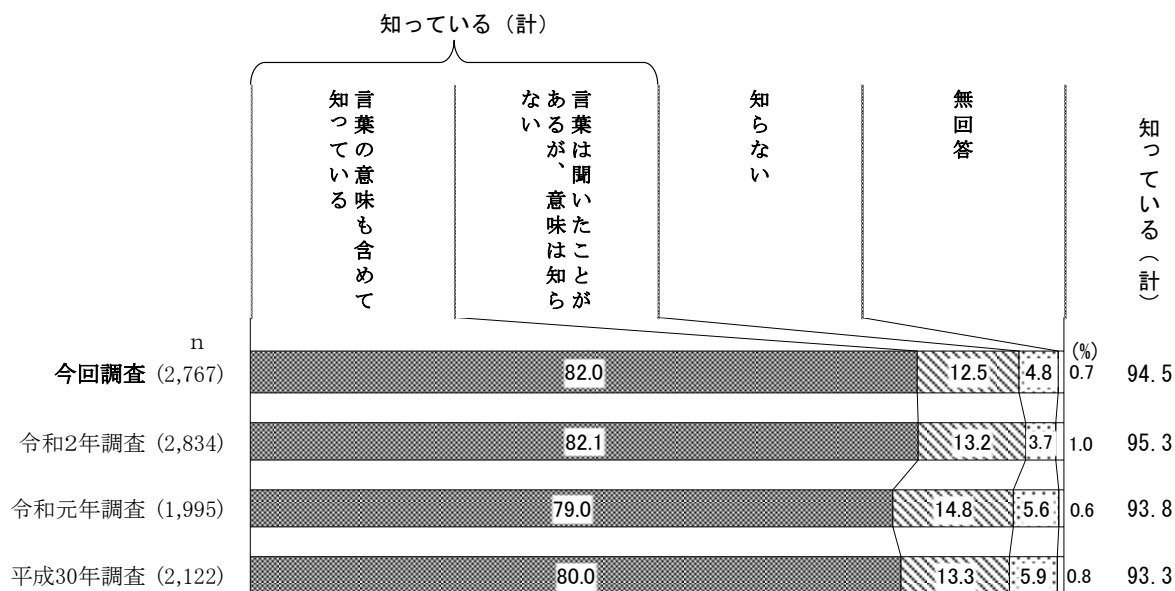
【過去調査との比較】

令和2年調査と比べて、『知っている（計）』が2.6ポイント増加している。平成30年度以降増加傾向となっており、今回調査で7割を超えた。

(11-2) 外来生物の認知度

◇『知っている（計）』が94.5%

問13（2） あなたは、「外来生物」という言葉を知っていますか。（○は1つだけ）



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

「外来生物」という言葉の認知度は、「言葉の意味も含めて知っている」（82.0%）が8割強と最も高く、これに「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」（12.5%）を合わせた『知っている（計）』（94.5%）は9割台半ばを占めている。

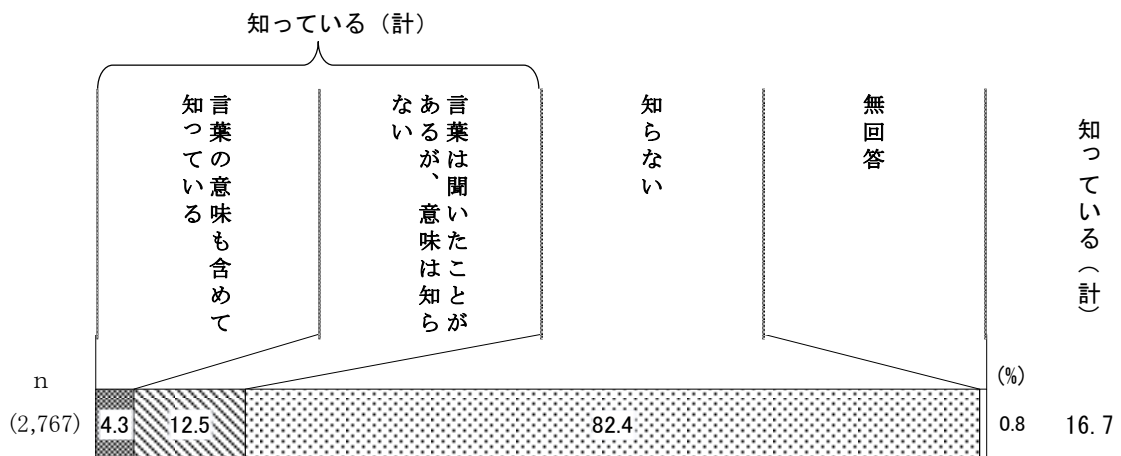
【過去調査との比較】

令和2年調査と比べて回答分布に大きな差はみられない。

(12-1) アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度

◇「知っている（計）」が16.7%、「知らない」が82.4%

問14 「アドバンス・ケア・プランニング」（ACP）についておたずねします。
（1） あなたは、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）について、知っていますか。
（○は1つだけ）

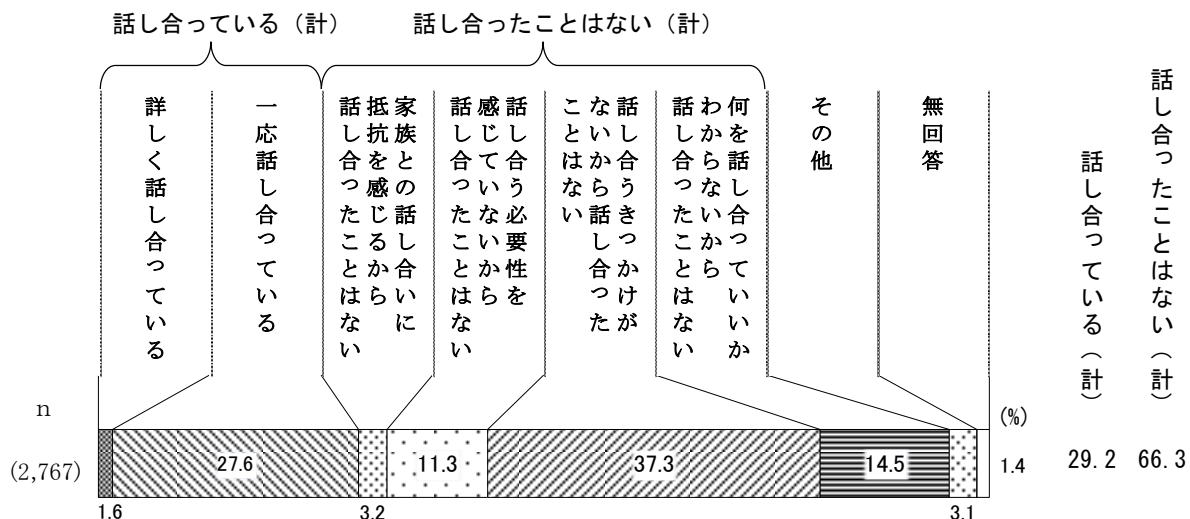


アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度は、「言葉の意味も含めて知っている」が4.3%で、これに「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」（12.5%）を合わせた『知っている（計）』（16.7%）は1割台後半となっている。一方、「知らない」（82.4%）は8割強となっている。

(12-2) 人生の最終段階において受けた医療・療養について家族や医療介護関係者と話し合った経験

◇『話し合っている (計)』は29.2%

問14 (2) あなたは人生の最終段階において、受けた医療・療養や受けたくない医療・療養について、御家族や医療介護関係者と話し合ったことがありますか。
 (○は1つだけ)

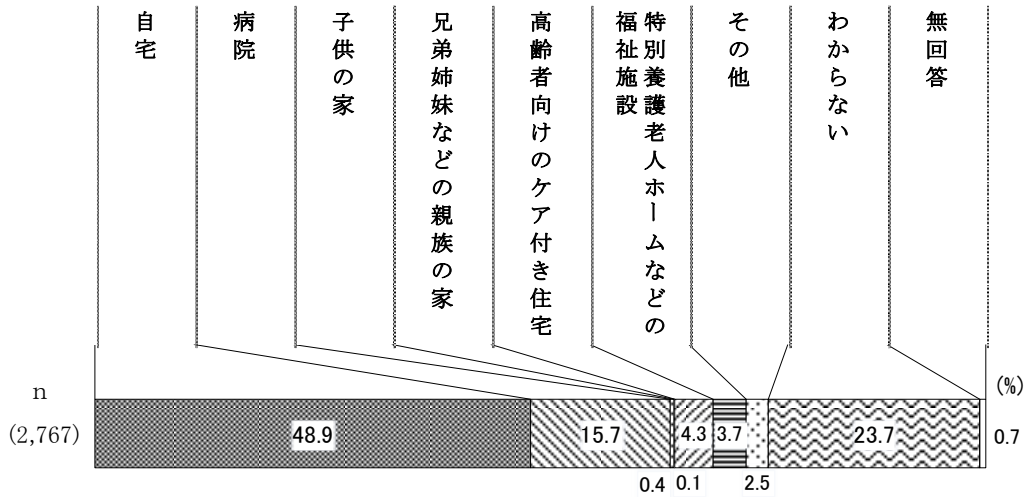


人生の最終段階において受けた医療・療養や受けたくない医療・療養について、御家族や医療介護関係者と話し合った経験は、「詳しく話し合っている」が1.6%となっており、「一応話し合っている」(27.6%)を合わせた『話し合っている (計)』(29.2%)は約3割となっている。一方で、『話し合ったことはない (計)』(66.3%)は6割台半ばを超えており、そのうち、「話し合おうきっかけがないから話し合ったことはない」(37.3%)が3割台半ばを超えて最も高くなっている。

(12-3) 人生の最期を迎えたい場所

◇「自宅」が48.9%

問14 (3) あなたが人生の最期を迎えたい場所はどこですか。(〇は1つだけ)



人生の最期を迎えたい場所は、「自宅」(48.9%)が5割弱と最も高く、次いで「病院」(15.7%)が1割台半ばとなっている。一方で、「わからない」(23.7%)が2割強となっている。

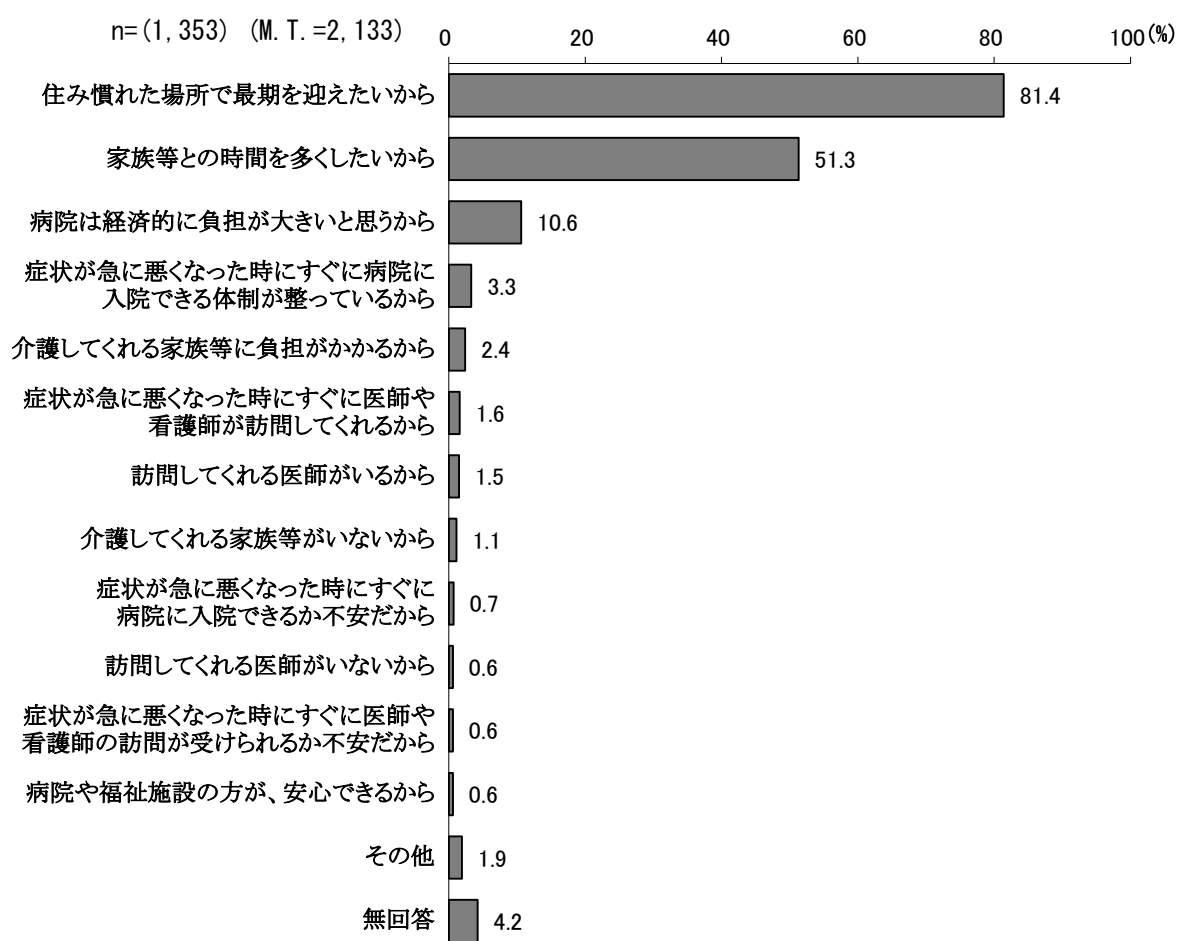
(12-4) 人生の最期を迎えたい場所として選んだ理由

◇自宅は「住み慣れた場所で最期を迎えたいから」で81.4%、病院は「病院や福祉施設の方が、安心できるから」で47.1%、高齢者向けのケア付き住宅は「介護してくれる家族等に負担がかかるから」で57.5%となっている。

問14(4) 問14(3)について、その場所を選んだ理由は何ですか。お考えに近いものをお選びください。(〇はいくつでも)

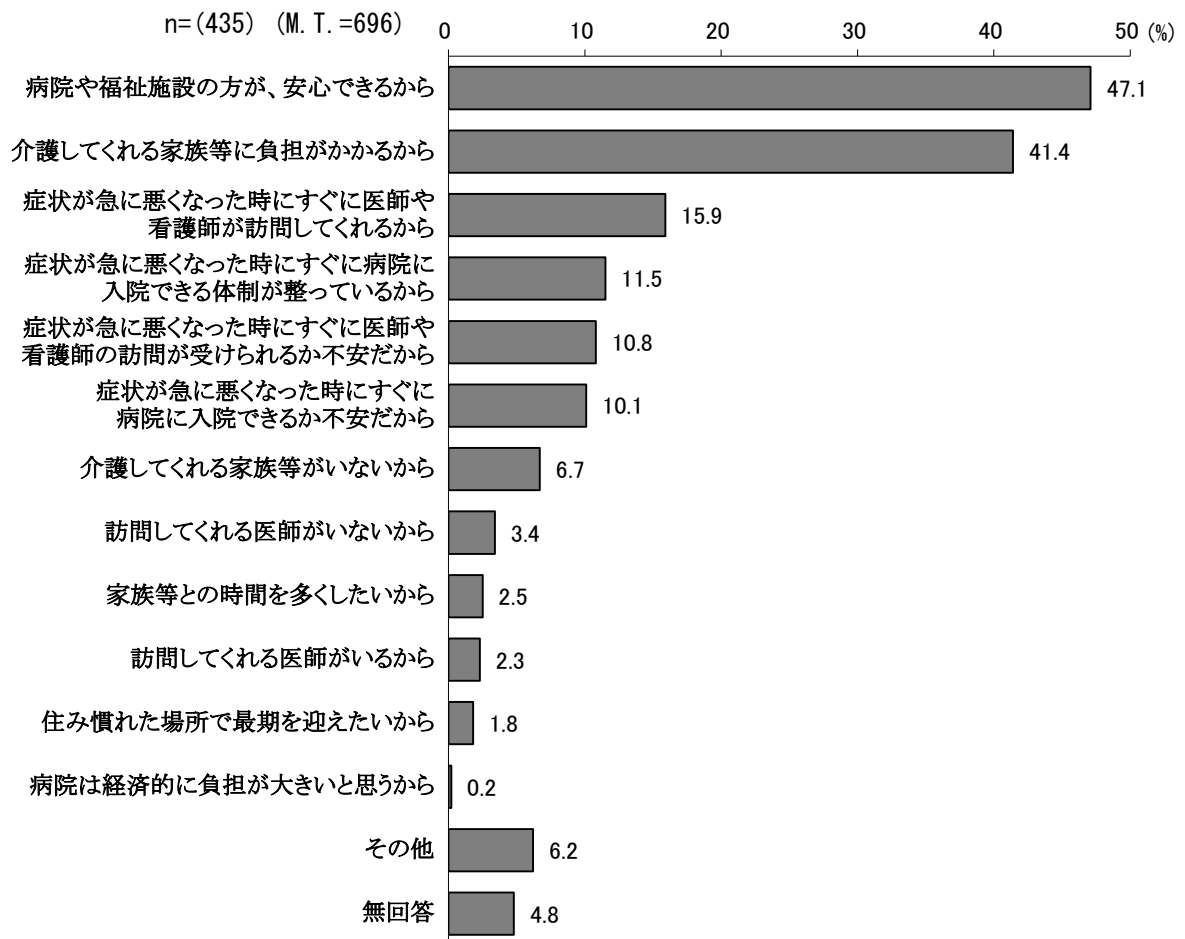
※本設問は、実際には、問14(3)で回答いただいた場所について、その場所を選ばれた理由を伺っている。したがって、回答割合の多かった「自宅」、「病院」、「高齢者向けのケア付き住宅」の3つのそれぞれの場所ごとに選ばれた理由をまとめた。

① 自宅



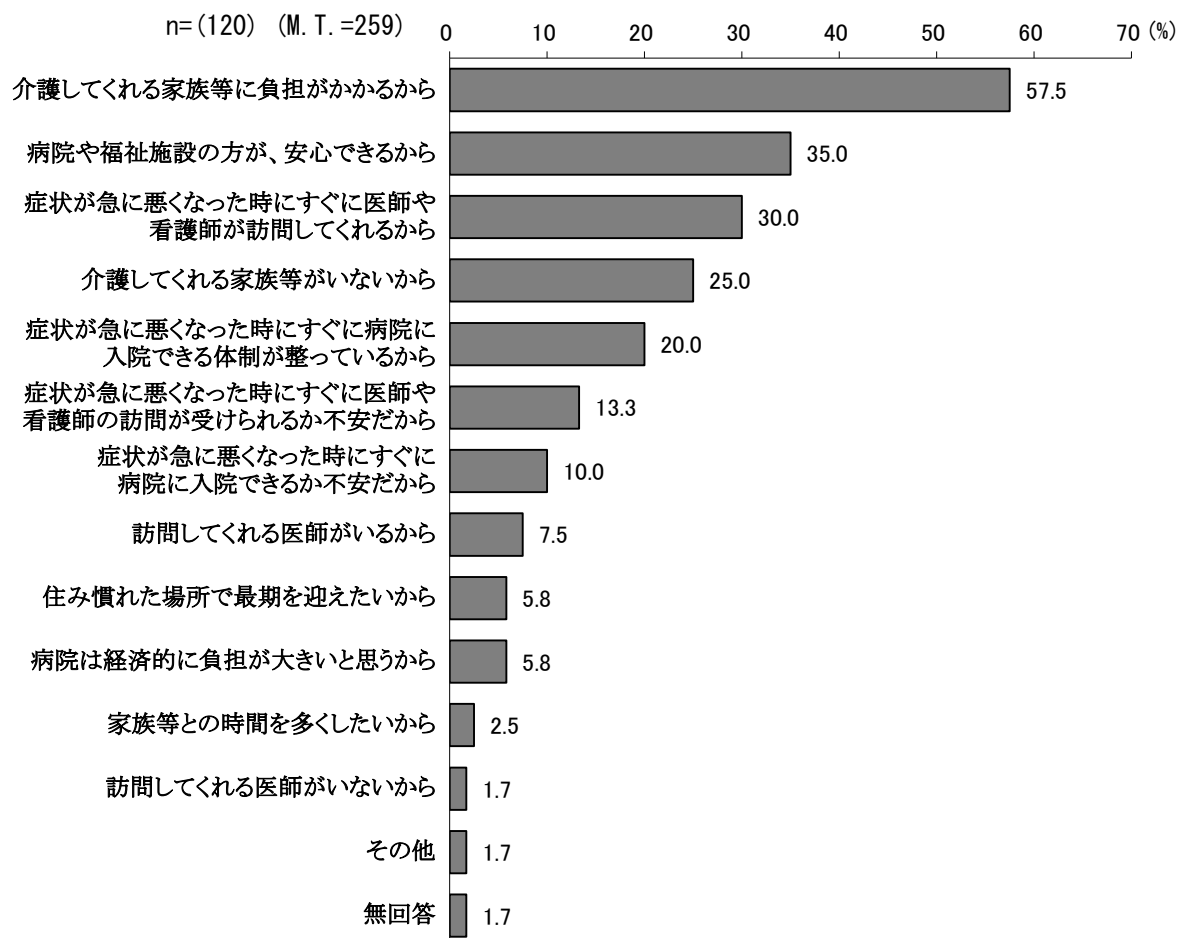
人生の最期を迎えたい場所として「自宅」を選んだ理由は、「住み慣れた場所で最期を迎えたいから」(81.4%)が8割強で最も高く、次いで「家族等との時間を多くしたいから」(51.3%)、「病院は経済的に負担が大きいと思うから」(10.6%)などとなっている。

② 病院



人生の最期を迎えたい場所として「病院」を選んだ理由は、「病院や福祉施設の方が、安心できるから」(47.1%)で4割台半ばを超えて最も高く、次いで「介護してくれる家族等に負担がかかるから」(41.4%)、「症状が急に悪くなった時にすぐに医師や看護師が訪問してくれるから」(15.9%)、「症状が急に悪くなった時にすぐに病院に入院できる体制が整っているから」(11.5%) などとなっている。

③ 高齢者向けのケア付き住宅



人生の最期を迎えたい場所として「高齢者向けのケア付き住宅」を選んだ理由は、「介護してくれる家族等に負担がかかるから」(57.5%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「病院や福祉施設の方が、安心できるから」(35.0%)、「症状が急に悪くなった時にすぐに医師や看護師が訪問してくれるから」(30.0%)、「介護してくれる家族等がないから」(25.0%)、「症状が急に悪くなった時にすぐに病院に入院できる体制が整っているから」(20.0%)などとなっている。

(13) 「生涯学習活動」の経験

◇「ある」は37.0%、「ない」は61.7%

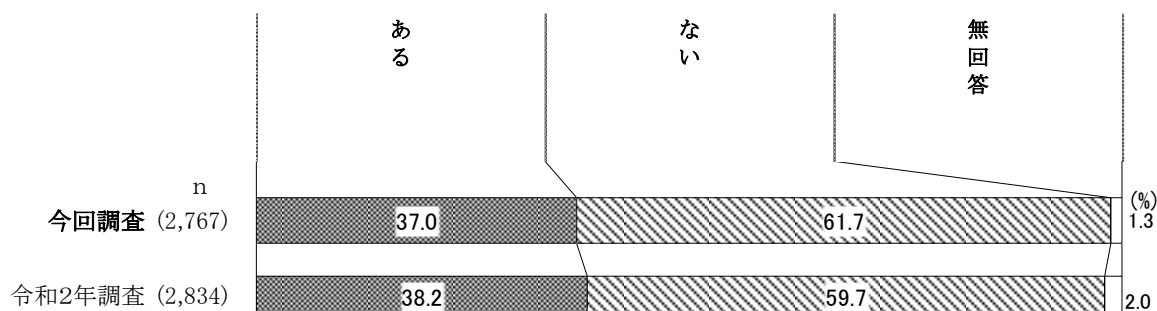
問15 あなたは、この1年くらいの間に「生涯学習活動」をしたことがありますか。

(○は1つだけ)

(クラブ・サークル活動、体験教室、習い事などのほか、個人で行う活動も含みます。)

※生涯学習活動とは、例えば以下のような分野での活動です。

- ・教養的なもの（文学、歴史、語学など）
- ・芸術・文化に関するもの
- ・ボランティアに関するもの
- ・育児・教育に関するもの
- ・就職や転職のために必要な知識・技能
- ・スポーツ・健康に関するもの（各種スポーツ、健康法など）
- ・趣味に関するもの（映画・音楽等の鑑賞、スポーツ観戦、読書など）
- ・家庭生活に関するもの（料理、編み物、園芸など）
- ・学校の正規課程での学習（学校、大学等での講義・調査・研究など）
- ・社会問題に関するもの
- ・パソコン・インターネットに関するもの
- ・自然体験や生活体験に関するもの
- ・大学や高等学校等の公開講座等での学習
- ・職業において必要な知識・技能



過去1年間の生涯学習活動経験は、「ある」(37.0%)が3割台半ばを超え、「ない」(61.7%)が6割強となっている。

【過去調査との比較】

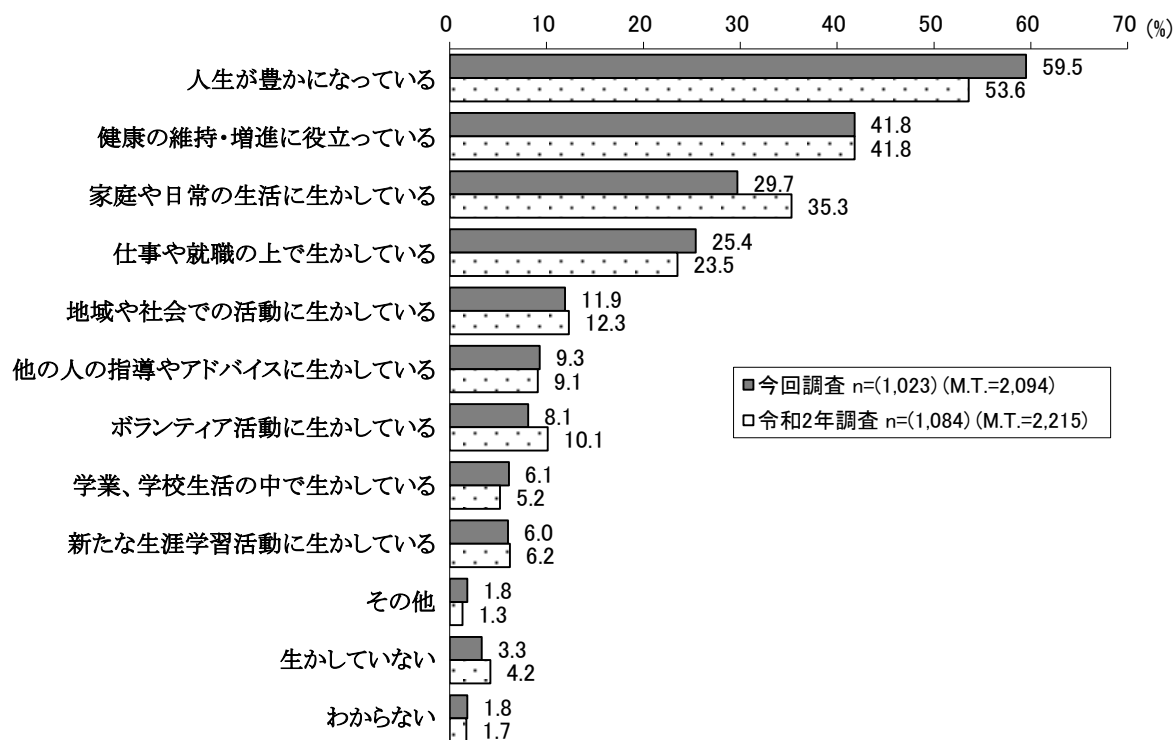
令和2年調査と比べて「ある」は1.2ポイント減少し、「ない」は2.0ポイント増加している。

(13-1) 生かしている知識・技能・経験

◇「人生が豊かになっている」が59.5%、「健康の維持・増進に役立っている」が41.8%

(問15で「1. ある」とお答えの方にお伺いします。)

問15-1 あなたは、これまでの「生涯学習活動」で学んだ知識や技能、経験等をどのように生かしていますか。あてはまるものすべてを選んでください。(〇はいくつでも)



生涯学習活動で学んだ知識や技能・経験等をどのように生かしているかについては、「人生が豊かになっている」(59.5%)が約6割で最も高く、次いで、「健康の維持・増進に役立っている」(41.8%)、「家庭や日常生活に生かしている」(29.7%)、「仕事や就職の上で生かしている」(25.4%)などとなっている。一方で、「生かしていない」は3.3%とわずかになっている。

【過去調査との比較】

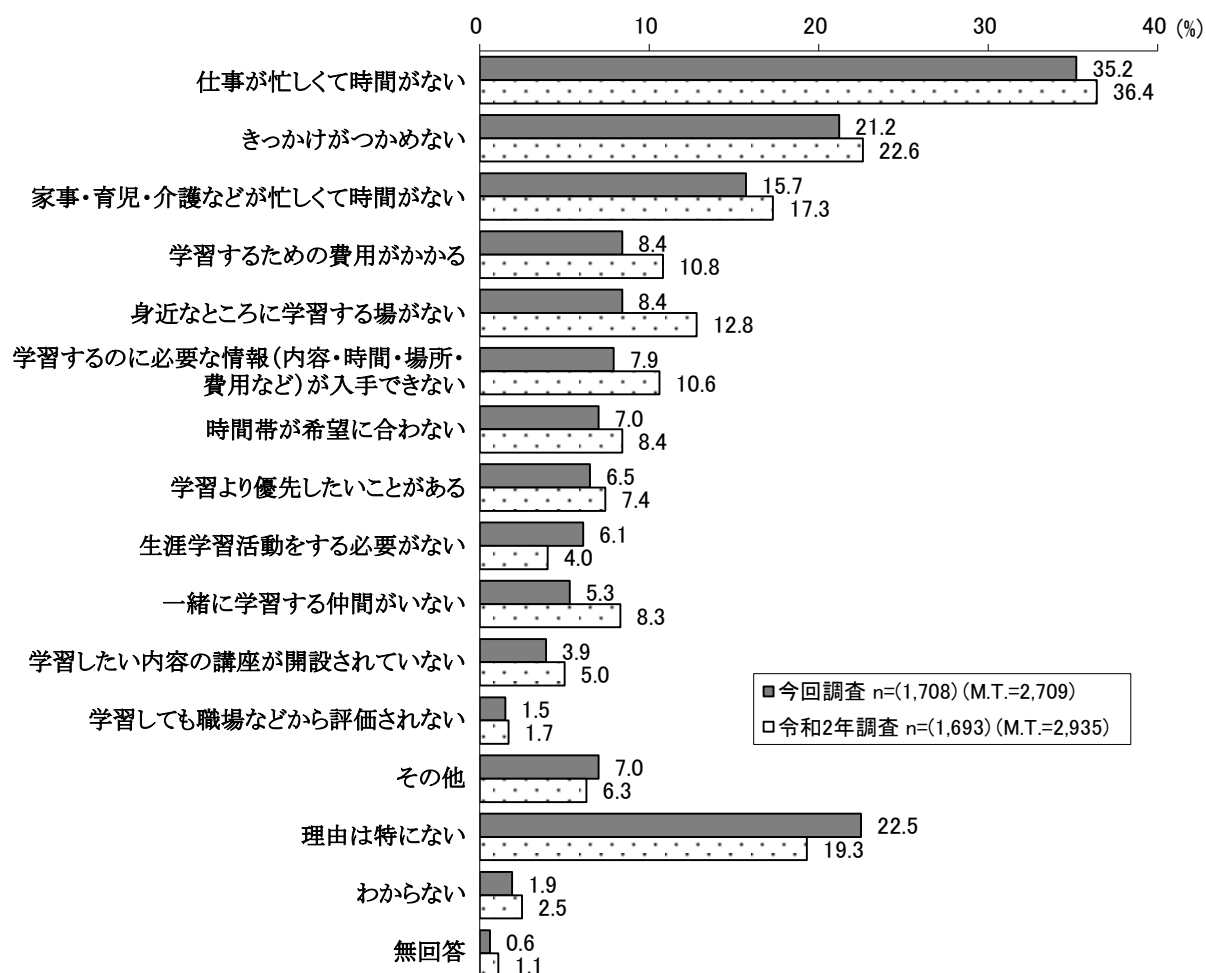
令和2年調査と比べて、「人生が豊かになっている」が5.9ポイント増加している。一方で「家庭や日常生活に生かしている」が5.6ポイント減少している。

(13-2) 生涯学習活動をしていない理由

◇「仕事が忙しくて時間がない」が35.2%、「きっかけがつかめない」が21.2%

(問15で「2. ない」とお答えの方にお伺いします。)

問15-2 あなたが、この1年くらいの間に「生涯学習活動」をしていない理由は何ですか。
あてはまるものすべてを選んでください。(〇はいくつでも)



生涯学習活動をしていない理由は、「仕事が忙しくて時間がない」(35.2%)が3割台半ばで最も高く、次いで、「きっかけがつかめない」(21.2%)、「家事・育児・介護などが忙しくて時間がない」(15.7%)などとなっている。一方で、「理由は特にない」(22.5%)は2割強となっている。

【過去調査との比較】

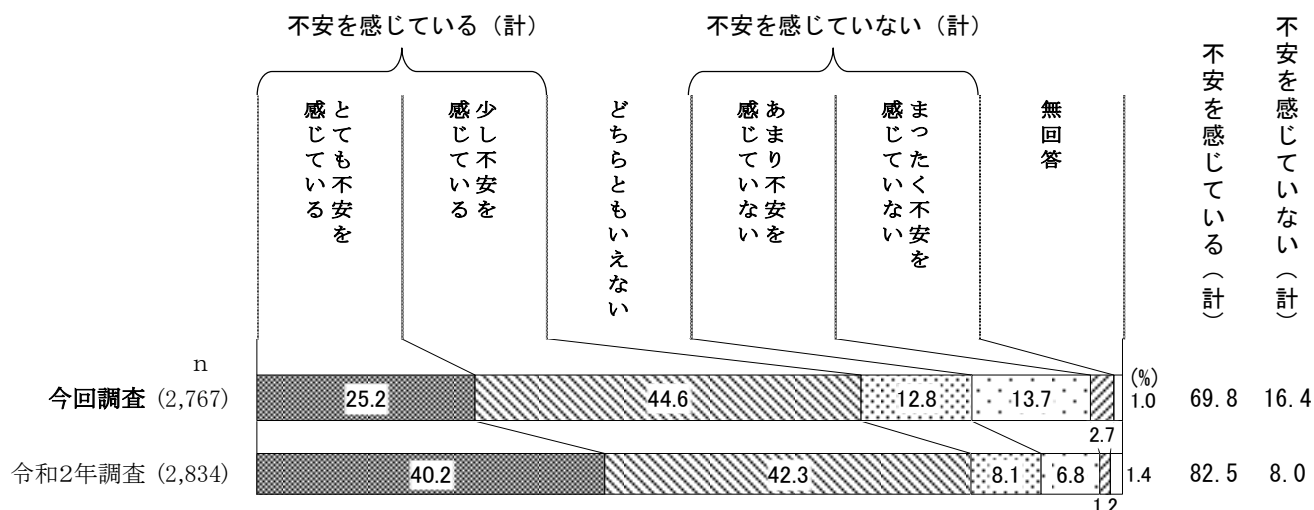
令和2年調査と比べて、ほとんどの項目が減少しており、特に「身近なところに学習する場がない」は、4.4ポイント減少している。一方、「理由は特にない」は3.2ポイント増加している。

(14-1) 新型コロナウイルス感染症への不安

◇『不安を感じている（計）』は69.8%

問16 新型コロナウイルス感染症についておたずねします。

(1) あなたは、御自分が新型コロナウイルス感染症に感染するのではないかという不安を感じていますか。(〇は1つだけ)



新型コロナウイルス感染症に感染することへの不安は、「少し不安を感じている」(44.6%)が4割台半ばで最も高く、これに「とても不安を感じている」(25.2%)を合わせた『不安を感じている(計)』(69.8%)は約7割となっている。一方で、「あまり不安を感じていない」(13.7%)と「まったく不安を感じていない」(2.7%)を合わせた『不安を感じていない(計)』(16.4%)は1割台半ばを超えている。また、「どちらともいえない」(12.8%)は1割強となっている。

【過去調査との比較】

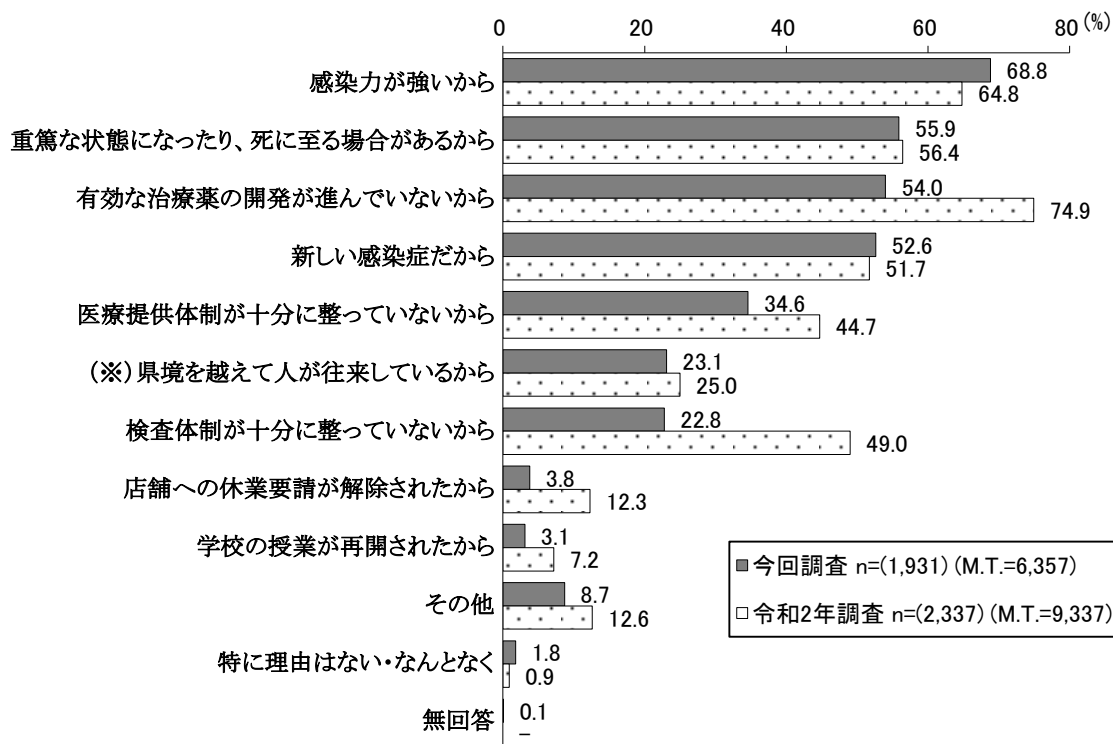
令和2年調査と比べると、『不安を感じている(計)』は12.7ポイント減少し、『不安を感じていない(計)』は8.4ポイント増加している。

(14-1-1) 不安を感じる理由

◇「感染力が強いから」が68.8%

(問16(1)で「1. とても不安を感じている」または「2. 少し不安を感じている」とお答えの方にお伺いします。)

問16(1)-1 あなたは、なぜ、不安を感じるのですか。(〇はいくつでも)



※令和2年度は、「県境を越えた人の往来が自由になったから」

新型コロナウイルス感染症に感染の不安を感じる理由は、「感染力が強いから」(68.8%)が7割弱で最も高く、次いで「重篤な状態になったり、死に至る場合があるから」(55.9%)、「有効な治療薬の開発が進んでいないから」(54.0%)、「新しい感染症だから」(52.6%)が5割台で続き、以下「医療提供体制が十分に整っていないから」(34.6%)、「県境を越えて人が往来しているから」(23.1%)などとなっている。

【過去調査との比較】

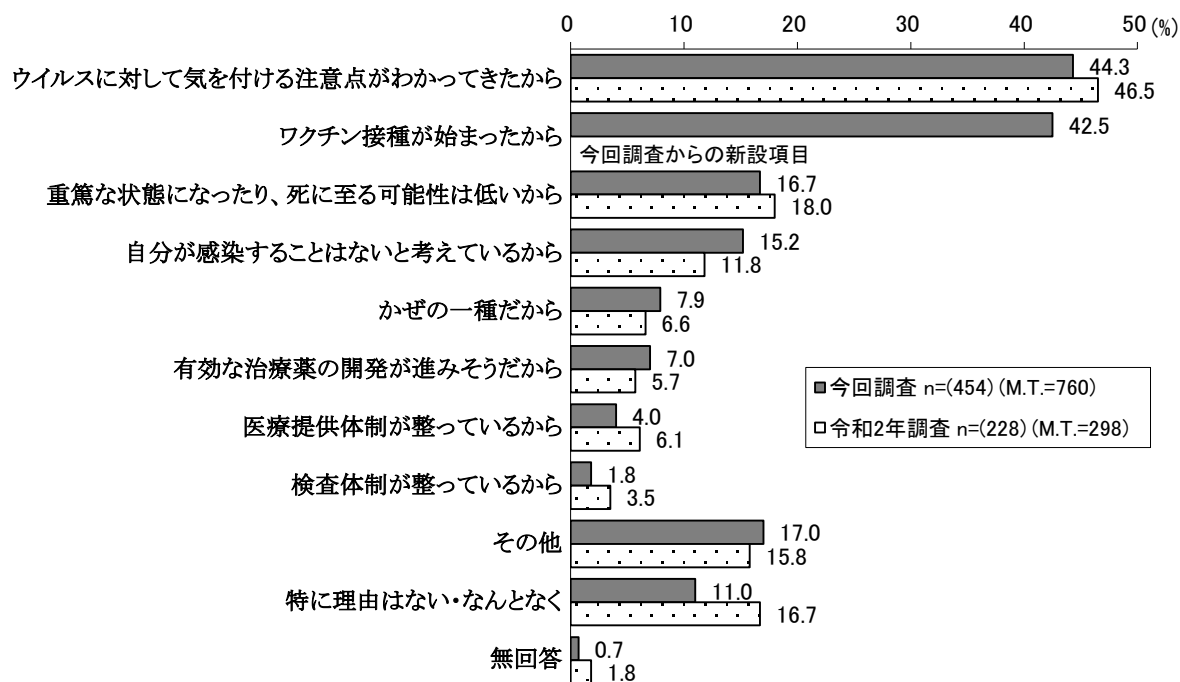
令和2年調査と比べて「感染力が強いから」は4.0ポイント増加しているが、他の項目はおおむね割合が減少しており、特に、減少の割合が大きい項目としては、「検査体制が十分に整っていないから」が26.2ポイント、「有効な治療薬の開発が進んでいないから」が20.9ポイント、「医療提供体制が十分に整っていないから」が10.1ポイントの減少となっている。

(14-1-2) 不安を感じない理由

◇「ウイルスに対して気を付ける注意点がわかってきたから」が44.3%

(問16で「4. あまり不安を感じていない」または「5. まったく不安を感じていない」とお答えの方にお伺いします。)

問16(1)-2 あなたは、なぜ、不安を感じないのですか。(〇はいくつでも)



新型コロナウイルス感染症に感染の不安を感じていない理由は、「ウイルスに対して気を付ける注意点がわかってきたから」(44.3%)と「ワクチン接種が始まったから」(42.5%)の2項目が4割台で高く、以下「重篤な状態になったり、死に至る可能性は低いから」(16.7%)、「自分が感染することはないと考えているから」(15.2%)などとなっている。一方で「特に理由はない・なんとなく」(11.0%)が1割強となっている。

【過去調査との比較】

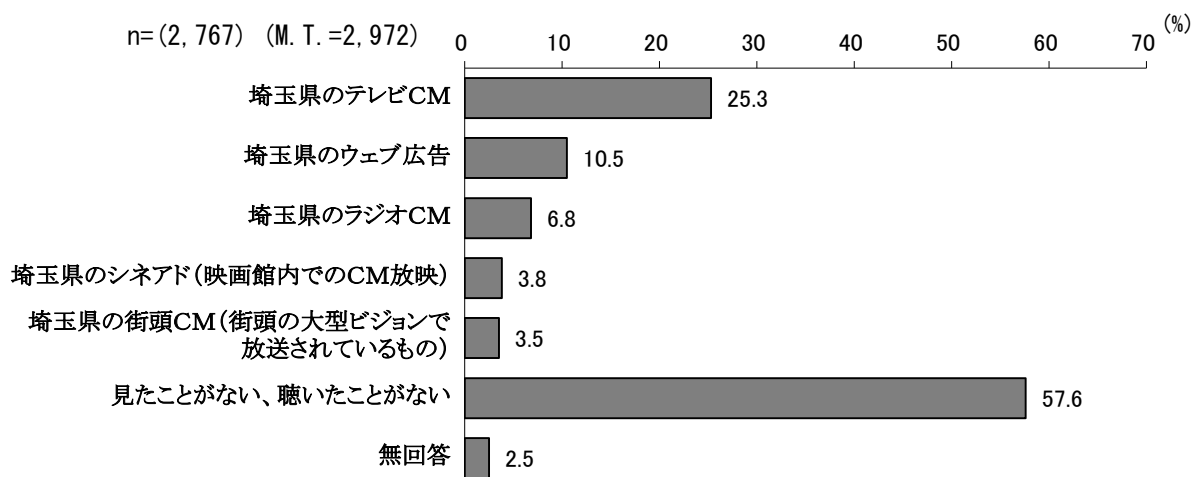
令和2年調査と比べて、「自分が感染することはないと考えているから」が3.4ポイント増加している。一方で、「特に理由はない・なんとなく」が5.7ポイント、「ウイルスに対して気を付ける注意点がわかってきたから」が2.2ポイント、「医療提供体制が整っているから」が2.1ポイント減少している。

(14-2) 新型コロナウイルス感染症に関する県の広報

◇「見たことがない、聞いたことがない」が57.6%

問16(2) 新型コロナウイルス感染症に関する県の広報についておたずねします。あなたは、新型コロナウイルス感染症に関する次の県のCM等の広報を見たり聴いたりしたことがありますか。見たり聴いたりしたことがあるものすべてを選んでください。

(〇はいくつでも)



新型コロナウイルス感染症に関する県の広報は、「見たことがない、聞いたことがない」が57.6%で5割台半ばを超えて最も高くなっている。

見たり聴いたりしたことがある広報では、「埼玉県のテレビCM」(25.3%)が2割台半ばで最も高く、次いで「埼玉県のウェブ広告」(10.5%)、「埼玉県のラジオCM」(6.8%) などとなっている。

3. 県政への要望について

◇「新型コロナウイルス感染症対策を進める」(26.8%)が前回に引き続き1位

問17 埼玉県政への要望についておたずねします。

県の行政全般の中で、現在、あなたが最も重点をおいてほしいもの、特に必要だと思うものを、次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)

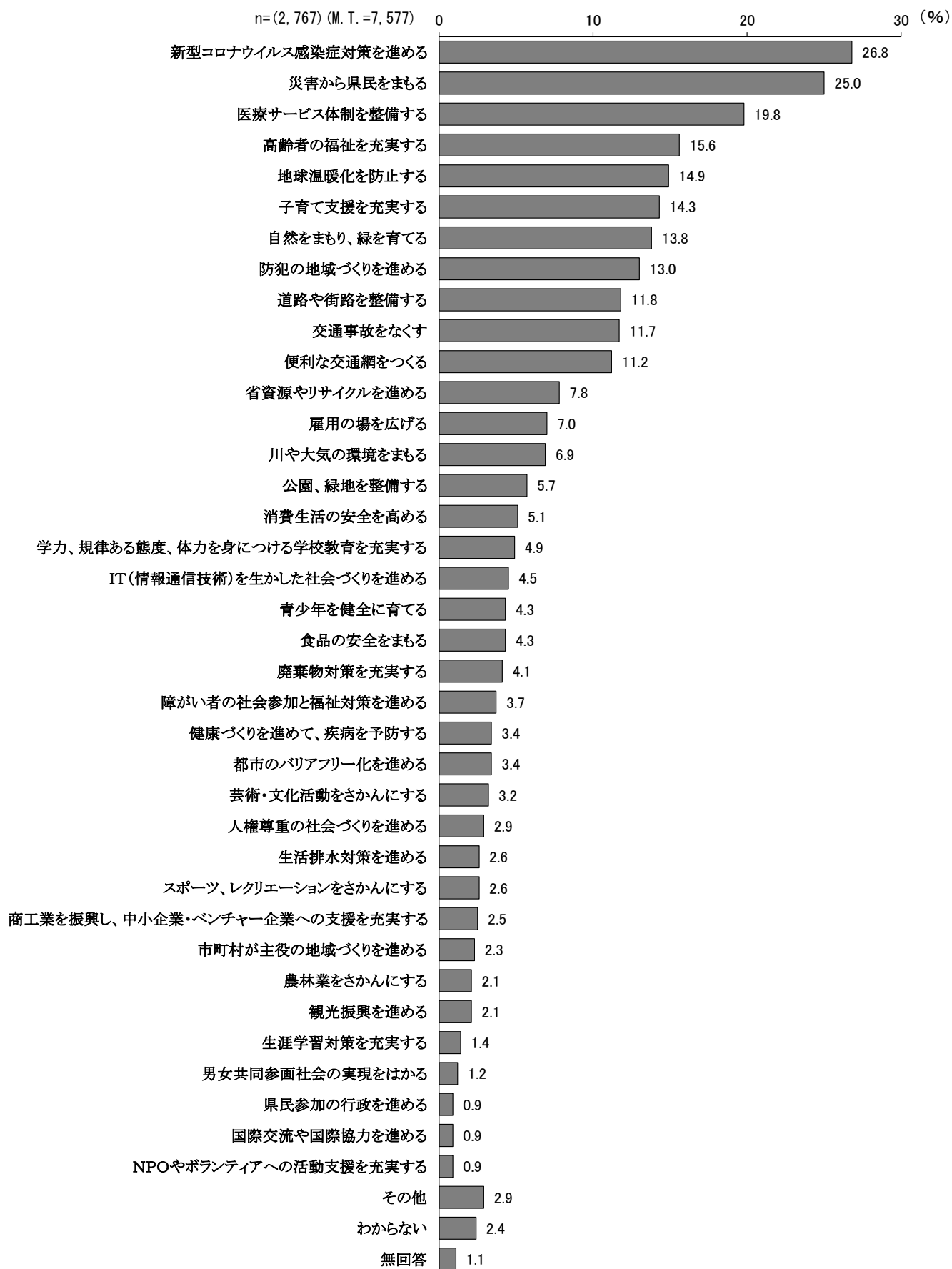
		今 回	前回 (令和2年調査)		増減差
1位	新型コロナウイルス感染症対策を進める	26.8%	37.3%	(1位)	△ 10.5
2位	災害から県民をまもる	25.0	25.5	(2位)	△ 0.5
3位	医療サービス体制を整備する	19.8	20.3	(3位)	△ 0.5
4位	高齢者の福祉を充実する	15.6	17.2	(5位)	△ 1.6
5位	地球温暖化を防止する	14.9	17.3	(4位)	△ 2.4
6位	子育て支援を充実する	14.3	12.9	(6位)	1.4
7位	自然をまもり、緑を育てる	13.8	12.9	(6位)	0.9
8位	防犯の地域づくりを進める	13.0	11.8	(8位)	1.2
9位	道路や街路を整備する	11.8	10.0	(9位)	1.8
10位	交通事故をなくす	11.7	8.8	(12位)	2.9

【過去調査との比較】

今回の上位10位と前回の令和2年調査を比べると、上位3項目は前回と同様に「新型コロナウイルス感染症対策を進める」が1位、「災害から県民をまもる」が2位、「医療サービス体制を整備する」が3位となっており、近年の社会状況を反映したものとなっている。また、「交通事故をなくす」は前回12位から順位を2つ上げて10位となっている。

前回調査との増減をみると、「新型コロナウイルス感染症対策を進める」が10.5ポイント減少、「地球温暖化を防止する」が2.4ポイント減少している。一方、「交通事故をなくす」は2.9ポイント増加している。

○「県政」への要望について



【平成29年以降の上位10位の推移】

過去5年間の上位10位の推移をみると、今回の令和3年度の1位は前回に引き続き「新型コロナウイルス感染症対策を進める」となった。2位の「災害から県民をまもる」(4位→1位→3位→2位→2位)と3位の「医療サービス体制を整備する」(2位→3位→2位→3位→3位)は前回順位を維持している。4位の「高齢者の福祉を充実する」(1位→2位→1位→5位→4位)は前回から順位を1つ上げた。5位の「地球温暖化を防止する」(12位→10位→9位→4位→5位)は順位を上げ続けていたが、今回順位を1つ下げた。6位の「子育て支援を充実する」(3位→4位→4位→6位→6位)は前回順位を維持している。7位の「自然をまもり、緑を育てる」(8位→6位→10位→6位→7位)は前回から順位を1つ下げた。8位の「防犯の地域づくりを進める」(5位→5位→5位→8位→8位)と9位の「道路や街路を整備する」(7位→7位→7位→9位→9位)は前回順位を維持している。10位の「交通事故をなくす」(6位→9位→6位→12位→10位)は前回から順位を2つ上げた。

順位	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
1	高齢者の福祉を充実する 26.0%	災害から県民をまもる 25.1%	高齢者の福祉を充実する 24.2%	新型コロナウイルス感染症対策を進める 37.3%	新型コロナウイルス感染症対策を進める 26.8%
2	医療サービス体制を整備する 22.9%	高齢者の福祉を充実する 22.9%	医療サービス体制を整備する 23.4%	災害から県民をまもる 25.5%	災害から県民をまもる 25.0%
3	子育て支援を充実する 22.5%	医療サービス体制を整備する 21.8%	災害から県民をまもる 19.4%	医療サービス体制を整備する 20.3%	医療サービス体制を整備する 19.8%
4	災害から県民をまもる 17.6%	子育て支援を充実する 21.1%	子育て支援を充実する 18.5%	地球温暖化を防止する 17.3%	高齢者の福祉を充実する 15.6%
5	防犯の地域づくりを進める 14.7%	防犯の地域づくりを進める 14.7%	防犯の地域づくりを進める 16.7%	高齢者の福祉を充実する 17.2%	地球温暖化を防止する 14.9%
6	交通事故をなくす 13.6%	自然をまもり、緑を育てる 13.4%	交通事故をなくす 16.6%	自然をまもり、緑を育てる 17.2%	子育て支援を充実する 14.3%
7	道路や街路を整備する 12.8%	道路や街路を整備する 12.7%	道路や街路を整備する 13.4%	子育て支援を充実する 12.9%	自然をまもり、緑を育てる 13.8%
8	自然をまもり、緑を育てる 12.6%	便利な交通網をつくる 12.6%	便利な交通網をつくる 12.9%	防犯の地域づくりを進める 11.8%	防犯の地域づくりを進める 13.0%
9	便利な交通網をつくる 12.0%	交通事故をなくす 12.5%	地球温暖化を防止する 12.7%	道路や街路を整備する 10.0%	道路や街路を整備する 11.8%
10	食品の安全をまもる 11.4%	地球温暖化を防止する 12.3%	自然をまもり、緑を育てる 12.3%	便利な交通網をつくる 10.0%	交通事故をなくす 11.7%

【上位2位から5位の10年間の推移】

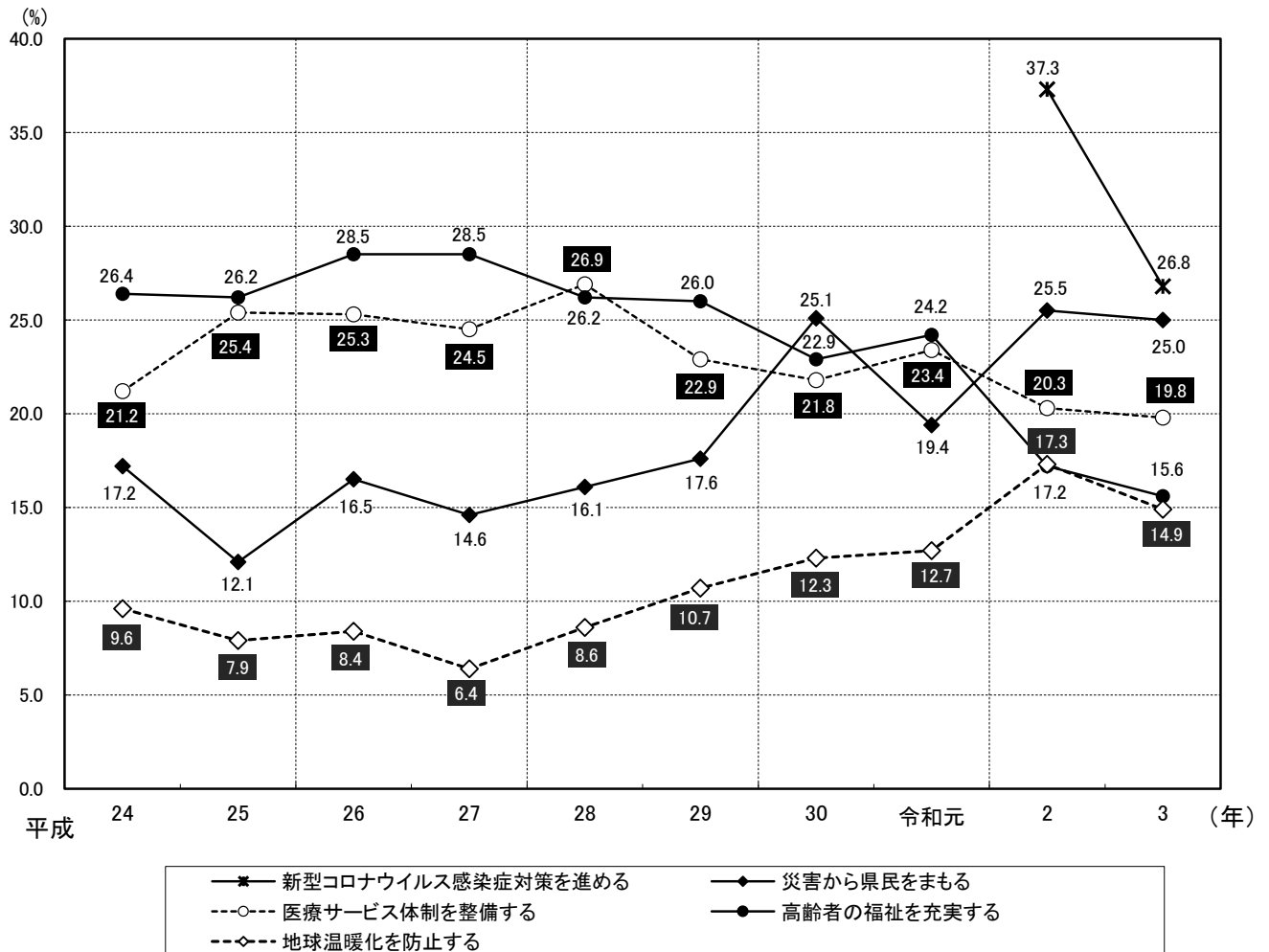
令和2年度の新設選択枝の「新型コロナウイルス感染症対策を進める」を除いて、今回調査で上位となった「災害から県民をまもる」、「医療サービス体制を整備する」、「高齢者の福祉を充実する」、「地球温暖化を防止する」の4項目について、平成24年以降の直近10年間の推移をみると次のようになっている。

まず、2位の「災害から県民をまもる」は平成29年までは10%台で推移していたが平成30年(25.1%)の2割台半ばまで増加した。令和元年(19.4%)に1割台に減少したが、その後は2割台半ばまで増加して推移している。

3位の「医療サービス体制を整備する」は平成28年(26.9%)に2割台半ばを超えたが、その後は2割台前半で推移し、今回調査(19.8%)では2割を下回った。

4位の「高齢者の福祉を充実する」は、平成24年以降2割台後半で推移してきたが、平成30年に2割台前半(22.9%)まで減少し、前回調査(17.2%)で1割台に減少して今回調査(15.6%)では1割台半ばまで減少した。

5位の「地球温暖化を防止する」は、平成24年以降1割未満で推移してきたが、平成29年(10.7%)に1割台となり前回調査(17.3%)では1割台半ばを超えるまで増加したが、今回調査(14.9%)では1割台半ばに減少した。



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

県政への要望 10年間の推移（平成24年度～令和3年度）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1	高齢者の福祉を充実する 26.4%	高齢者の福祉を充実する 26.2%	高齢者の福祉を充実する 28.5%	高齢者の福祉を充実する 28.5%	医療サービス体制を整備する 26.9%
2	医療サービス体制を整備する 21.2%	医療サービス体制を整備する 25.4%	医療サービス体制を整備する 25.3%	医療サービス体制を整備する 24.5%	高齢者の福祉を充実する 26.2%
3	自然をまもり、緑を育てる 19.7%	子育て支援を充実する 20.0%	子育て支援を充実する 17.3%	子育て支援を充実する 23.4%	子育て支援を充実する 23.0%
4	防犯の地域づくりを進める 17.6%	防犯の地域づくりを進める 16.9%	防犯の地域づくりを進める 16.7%	防犯の地域づくりを進める 17.4%	防犯の地域づくりを進める 17.9%
5	雇用の場を広げる 17.3%	雇用の場を広げる 15.7%	災害から県民をまもる 16.5%	災害から県民をまもる 14.6%	災害から県民をまもる 16.1%
6	災害から県民をまもる 17.2%	食品の安全をまもる 15.2%	雇用の場を広げる 15.3%	食品の安全をまもる 13.4%	自然をまもり、緑を育てる 13.4%
7	子育て支援を充実する 16.6%	自然をまもり、緑を育てる 15.0%	交通事故をなくす 14.2%	道路や街路を整備する 13.0%	雇用の場を広げる 12.8%
8	食品の安全をまもる 14.2%	災害から県民をまもる 12.1%	食品の安全をまもる 13.8%	雇用の場を広げる 12.8%	道路や街路を整備する 12.0%
9	交通事故をなくす 13.2%	交通事故をなくす 11.6%	自然をまもり、緑を育てる 13.0%	自然をまもり、緑を育てる 12.4%	食品の安全をまもる 11.9%
10	地球温暖化を防止する 9.6%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 11.2%	便利な交通網をつくる 11.7%	便利な交通網をつくる 12.0%	便利な交通網をつくる 11.7%
11	道路や街路を整備する 8.4%	道路や街路を整備する/ 便利な交通網をつくる 9.2%	道路や街路を整備する 11.1%	交通事故をなくす 10.5%	交通事故をなくす 9.9%
12	便利な交通網をつくる 8.2%	便利な交通網をつくる 9.2%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 9.5%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 10.4%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 8.8%
13	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 8.0%	川や大気環境をまもる 8.6%	川や大気環境をまもる 8.7%	青少年を健全に育てる 7.9%	地球温暖化を防止する 8.6%
14	省資源やリサイクルを進める/ 青少年を健全に育てる 7.8%	地球温暖化を防止する 7.9%	地球温暖化を防止する 8.4%	川や大気環境をまもる 6.6%	川や大気環境をまもる 8.0%
15	青少年を健全に育てる 7.8%	青少年を健全に育てる 6.9%	青少年を健全に育てる 7.3%	地球温暖化を防止する/ 公園、緑地を整備する 6.4%	青少年を健全に育てる 6.9%
16	川や大気環境をまもる 6.5%	省資源やリサイクルを進める 5.9%	省資源やリサイクルを進める 6.6%	公園、緑地を整備する 6.4%	公園、緑地を整備する 5.4%
17	消費生活の安全を高める 6.0%	公園、緑地を整備する 5.8%	消費生活の安全を高める 6.5%	消費生活の安全を高める 6.3%	省資源やリサイクルを進める/ 消費生活の安全を高める 5.2%
18	公園、緑地を整備する 5.3%	消費生活の安全を高める 5.1%	健康づくりを進めて、 疾病を予防する 5.9%	健康づくりを進めて、 疾病を予防する 5.6%	消費生活の安全を高める 5.2%
19	健康づくりを進めて、 疾病を予防する 4.7%	健康づくりを進めて、 疾病を予防する 4.8%	公園、緑地を整備する 5.2%	省資源やリサイクルを進める 5.1%	健康づくりを進めて、 疾病を予防する 4.8%
20	廃棄物対策を充実する 4.2%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.8%	障がい者の社会参加と 福祉対策を進める 4.2%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 4.3%	障がい者の社会参加と 福祉対策を進める 4.7%
21	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 4.1%	廃棄物対策を充実する/ 障がい者の社会参加と 福祉対策を進める 3.7%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.5%	障がい者の社会参加と 福祉対策を進める 3.7%	廃棄物対策を充実する/ 商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.4%
22	障がい者の社会参加と 福祉対策を進める 3.8%	障がい者の社会参加と 福祉対策を進める 3.7%	スポーツ、レクリエーションを さかんにする 3.1%	都市のバリアフリー化を進める 3.4%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.4%
23	都市のバリアフリー化を進める/ 人権尊重の社会づくりを進める/ 農林業をさかんにする 2.7%	都市のバリアフリー化を進める/ スポーツ、レクリエーションを さかんにする 2.4%	廃棄物対策を充実する 3.0%	生活排水対策を進める 3.2%	都市のバリアフリー化を進める 3.3%
24	人権尊重の社会づくりを進める/ 農林業をさかんにする 2.7%	人権尊重の社会づくりを進める 2.3%	都市のバリアフリー化を進める/ 市町村が主役の地域づくりを 進める 2.9%	廃棄物対策を充実する 3.1%	生活排水対策を進める/ スポーツ、レクリエーションを さかんにする 3.1%
25	生活排水対策を進める/ 市町村が主役の地域づくりを 進める 2.5%	農林業をさかんにする 2.2%	生活排水対策を進める 2.8%	市町村が主役の地域づくりを 進める/ スポーツ、レクリエーションを さかんにする 2.6%	生涯学習対策を充実する/ 芸術・文化活動をさかんにする 2.3%
26	市町村が主役の地域づくりを 進める 2.5%	芸術・文化活動をさかんにする 2.1%	人権尊重の社会づくりを進める/ 芸術・文化活動をさかんにする 2.4%	スポーツ、レクリエーションを さかんにする 2.6%	生涯学習対策を充実する/ 芸術・文化活動をさかんにする 2.3%
27	芸術・文化活動をさかんにする/ スポーツ、レクリエーションを さかんにする 2.1%	観光振興を進める 1.9%	芸術・文化活動をさかんにする 2.4%	農林業をさかんにする 2.4%	人権尊重の社会づくりを進める 2.2%
28	スポーツ、レクリエーションを さかんにする 2.1%	生活排水対策を進める/ 生涯学習対策を充実する/ 観光振興を進める 2.1%	農林業をさかんにする 2.1%	生涯学習対策を充実する 2.1%	市町村が主役の地域づくりを 進める 2.1%
29	観光振興を進める 2.1%	生涯学習対策を充実する/ 観光振興を進める 2.0%	県民参加の行政を進める 1.7%	観光振興を進める 2.0%	農林業をさかんにする/ 観光振興を進める 1.8%
30	県民参加の行政を進める 2.0%	市町村が主役の地域づくりを 進める 1.8%	観光振興を進める/ 生涯学習対策を充実する 1.6%	人権尊重の社会づくりを進める 1.6%	観光振興を進める 1.8%
31	生涯学習対策を充実する 1.8%	県民参加の行政を進める 1.4%	生涯学習対策を充実する 1.6%	男女共同参画社会の 実現をはかる/ 県民参加の行政を進める 1.0%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める 1.1%
32	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める 1.1%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める 1.3%	男女共同参画社会の 実現をはかる/ NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 1.2%	県民参加の行政を進める 1.0%	県民参加の行政を進める/ 国際交流や国際協力を進める 0.9%
33	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める 1.1%	国際交流や国際協力を進める 0.9%	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 1.2%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める/ 国際交流や国際協力を進める 0.9%	国際交流や国際協力を進める 0.9%
34	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する/ 国際交流や国際協力を進める 0.9%	国際交流や国際協力を進める 0.9%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める/ 国際交流や国際協力を進める 0.9%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める/ 国際交流や国際協力を進める 0.9%	国際交流や国際協力を進める 0.9%
35	国際交流や国際協力を進める 0.9%	男女共同参画社会の 実現をはかる/ NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 0.8%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める/ 国際交流や国際協力を進める 0.8%	国際交流や国際協力を進める 0.9%	男女共同参画社会の 実現をはかる 0.8%
36	男女共同参画社会の 実現をはかる 0.7%	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 0.8%	国際交流や国際協力を進める 0.8%	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 0.8%	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 0.7%

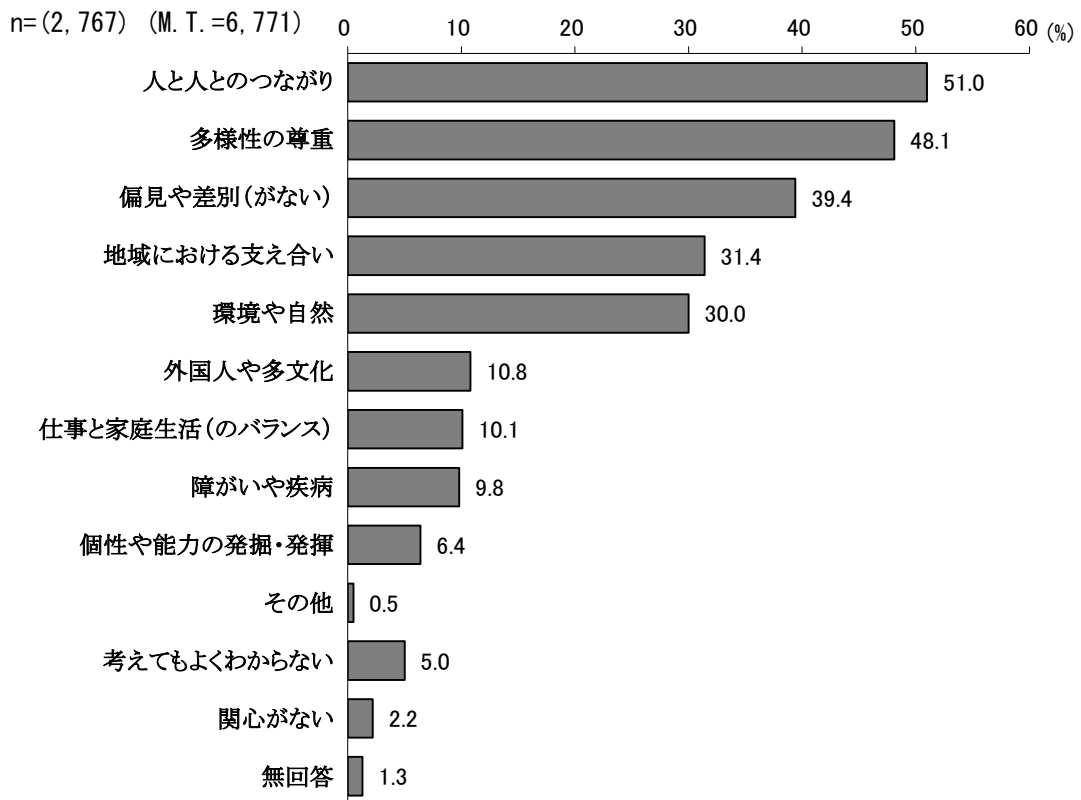
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
1	高齢者の福祉を充実する 26.0%	災害から県民をまもる 25.1%	高齢者の福祉を充実する 24.2%	新型コロナウイルス感染症対策を進める 37.3%	新型コロナウイルス感染症対策を進める 26.8%
2	医療サービス体制を整備する 22.9%	高齢者の福祉を充実する 22.9%	医療サービス体制を整備する 23.4%	災害から県民をまもる 25.5%	災害から県民をまもる 25.0%
3	子育て支援を充実する 22.5%	医療サービス体制を整備する 21.8%	災害から県民をまもる 19.4%	医療サービス体制を整備する 20.3%	医療サービス体制を整備する 19.8%
4	災害から県民をまもる 17.6%	子育て支援を充実する 21.1%	子育て支援を充実する 18.5%	地球温暖化を防止する 17.3%	高齢者の福祉を充実する 15.6%
5	防犯の地域づくりを進める 14.7%	防犯の地域づくりを進める 14.7%	防犯の地域づくりを進める 16.7%	高齢者の福祉を充実する 17.2%	地球温暖化を防止する 14.9%
6	交通事故をなくす 13.6%	自然をまもり、緑を育てる 13.4%	交通事故をなくす 16.6%	自然をまもり、緑を育てる/ 子育て支援を充実する 12.9%	子育て支援を充実する 14.3%
7	道路や街路を整備する 12.8%	道路や街路を整備する 12.7%	道路や街路を整備する 13.4%	防犯の地域づくりを進める 11.8%	自然をまもり、緑を育てる 13.8%
8	自然をまもり、緑を育てる 12.6%	便利な交通網をつくる 12.6%	便利な交通網をつくる 12.9%	道路や街路を整備する/ 交通事故をなくす 10.0%	防犯の地域づくりを進める 13.0%
9	便利な交通網をつくる 12.0%	交通事故をなくす 12.5%	地球温暖化を防止する 12.7%	道路や街路を整備する/ 交通事故をなくす 10.0%	道路や街路を整備する 11.8%
10	食品の安全をまもる 11.4%	地球温暖化を防止する 12.3%	自然をまもり、緑を育てる 12.3%	便利な交通網をつくる 9.1%	交通事故をなくす 11.7%
11	雇用の場を広げる 10.8%	食品の安全をまもる 11.9%	雇用の場を広げる 9.6%	川や大気環境をまもる 8.8%	便利な交通網をつくる 11.2%
12	地球温暖化を防止する 10.7%	雇用の場を広げる 8.6%	食品の安全をまもる 9.3%	交通事故をなくす 8.8%	省資源やリサイクルを進める 7.8%
13	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 9.2%	川や大気環境をまもる 8.4%	省資源やリサイクルを進める 8.4%	省資源やリサイクルを進める 7.7%	雇用の場を広げる 7.0%
14	川や大気環境をまもる 8.0%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 7.4%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 8.1%	雇用の場を広げる 7.2%	川や大気環境をまもる 6.9%
15	青少年を健全に育てる 6.8%	青少年を健全に育てる 6.7%	川や大気環境をまもる 7.9%	公園、緑地を整備する 6.0%	公園、緑地を整備する 5.7%
16	公園、緑地を整備する 5.8%	省資源やリサイクルを進める/ 消費生活の安全を高める/ 公園、緑地を整備する 5.6%	青少年を健全に育てる 7.2%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 5.1%	消費生活の安全を高める 5.1%
17	障がい者の社会参加と福祉対策を進める 5.5%	消費生活の安全を高める/ 公園、緑地を整備する 5.6%	公園、緑地を整備する 5.6%	消費生活の安全を高める 4.8%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 4.9%
18	消費生活の安全を高める 5.2%	公園、緑地を整備する 5.6%	消費生活の安全を高める 5.5%	青少年を健全に育てる 4.6%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりを進める 4.5%
19	省資源やリサイクルを進める/ 健康づくりを進めて、 疾病を予防する 4.6%	障がい者の社会参加と福祉対策を進める 4.7%	障がい者の社会参加と福祉対策を進める 4.9%	食品の安全をまもる 4.2%	青少年を健全に育てる 4.2%
20	健康づくりを進めて、 疾病を予防する 4.6%	廃棄物対策を充実する/ 健康づくりを進めて、 疾病を予防する 4.1%	廃棄物対策を充実する 4.7%	廃棄物対策を充実する 4.1%	食品の安全をまもる/ 廃棄物対策を充実する 4.3%
21	都市のバリアフリー化を進める 4.3%	健康づくりを進めて、 疾病を予防する 4.1%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.8%	障がい者の社会参加と福祉対策を進める 3.5%	障がい者の社会参加と福祉対策を進める 4.1%
22	廃棄物対策を充実する 3.5%	都市のバリアフリー化を進める 3.5%	健康づくりを進めて、 疾病を予防する 3.4%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりを進める 2.9%	障がい者の社会参加と福祉対策を進める 3.7%
23	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.3%	観光振興を進める/ 商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.0%	都市のバリアフリー化を進める 3.1%	農林業をさかんにする/ 芸術・文化活動をさかんにする 2.8%	健康づくりを進めて、 疾病を予防する 3.2%
24	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.9%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.0%	生活排水対策を進める 3.0%	芸術・文化活動をさかんにする 2.8%	都市のバリアフリー化を進める/ 生活排水対策を進める 3.4%
25	生活排水対策を進める 2.8%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.7%	観光振興を進める 2.9%	人権尊重の社会づくりを進める 2.6%	芸術・文化活動をさかんにする 3.2%
26	市町村が主役の地域づくりを進める/ 人権尊重の社会づくりを進める 2.6%	生活排水対策を進める 2.5%	芸術・文化活動をさかんにする 2.6%	生活排水対策を進める/ 健康づくりを進めて、 疾病を予防する 2.4%	人権尊重の社会づくりを進める 2.9%
27	人権尊重の社会づくりを進める 2.6%	農林業をさかんにする 2.3%	人権尊重の社会づくりを進める 2.5%	健康づくりを進めて、 疾病を予防する 2.4%	生活排水対策を進める/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.6%
28	芸術・文化活動をさかんにする 2.5%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりを進める 2.2%	市町村が主役の地域づくりを進める 2.1%	都市のバリアフリー化を進める/ 商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 2.3%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.6%
29	観光振興を進める 2.4%	人権尊重の社会づくりを進める/ 芸術・文化活動をさかんにする 2.0%	農林業をさかんにする 2.0%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 2.3%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 2.5%
30	農林業をさかんにする 1.9%	芸術・文化活動をさかんにする 2.0%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりを進める/ 生涯学習対策を充実する/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする 1.8%	市町村が主役の地域づくりを進める/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする 1.9%	市町村が主役の地域づくりを進める 2.3%
31	生涯学習対策を充実する 1.8%	市町村が主役の地域づくりを進める 1.9%	生涯学習対策を充実する/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする 1.8%	観光振興を進める 1.8%	農林業をさかんにする/ 観光振興を進める 2.1%
32	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりを進める 1.6%	生涯学習対策を充実する 1.6%	生涯学習対策を充実する/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする 1.8%	観光振興を進める 1.8%	観光振興を進める 2.1%
33	国際交流や国際協力を進める 1.2%	国際交流や国際協力を進める 1.4%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.1%	男女共同参画社会の実現をはかる/ 県民参加の行政を進める 1.0%	生涯学習対策を充実する 1.4%
34	県民参加の行政を進める 1.1%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.1%	国際交流や国際協力を進める 1.0%	県民参加の行政を進める 1.0%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.2%
35	男女共同参画社会の実現をはかる 0.7%	県民参加の行政を進める 0.8%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.8%	生涯学習対策を充実する 0.9%	県民参加の行政を進める/ 国際交流や国際協力を進める 0.9%
36	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.6%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.5%	県民参加の行政を進める 0.6%	国際交流や国際協力を進める 0.8%	国際交流や国際協力を進める 0.9%
37	-	-	-	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.7%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する/ 0.9%

4. 共生社会について

(1) 「共生」という言葉から思い浮べること

◇「人と人とのつながり」、「多様性の尊重」の2項目が5割前後

問18 あなたは、「共生」という言葉からどのようなことを思い浮かべますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



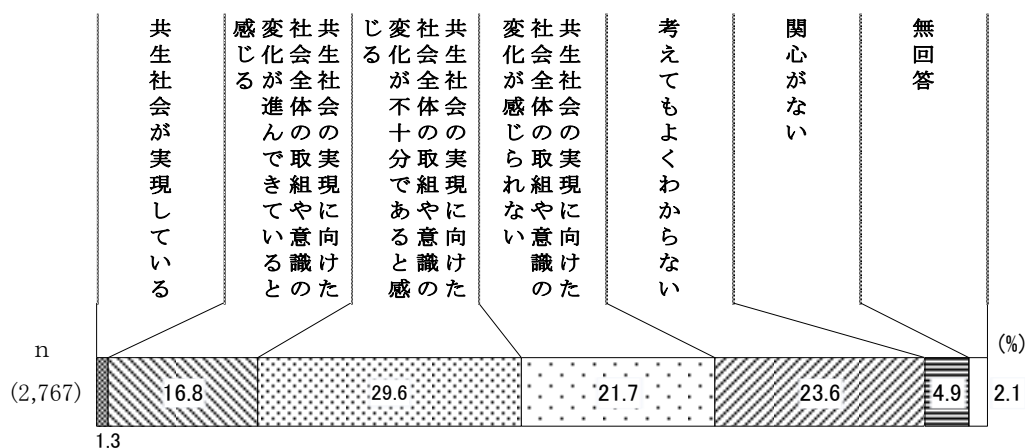
「共生」という言葉から思い浮べることは、「人と人とのつながり」(51.0%)が5割強で最も高く、次いで「多様性の尊重」(48.1%)、「偏見や差別(がない)」(39.4%)、「地域における支え合い」(31.4%)、「環境や自然」(30.0%)などとなっている。

(2) 現在の社会について感じていること

◇「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が不十分であると感じる」が29.6%

問19 埼玉県では、誰もが互いに尊重され、いきいきと活躍できる「共生社会」の実現を目指しています。あなたは、現在の社会についてどのように感じていますか。

(〇は1つだけ)

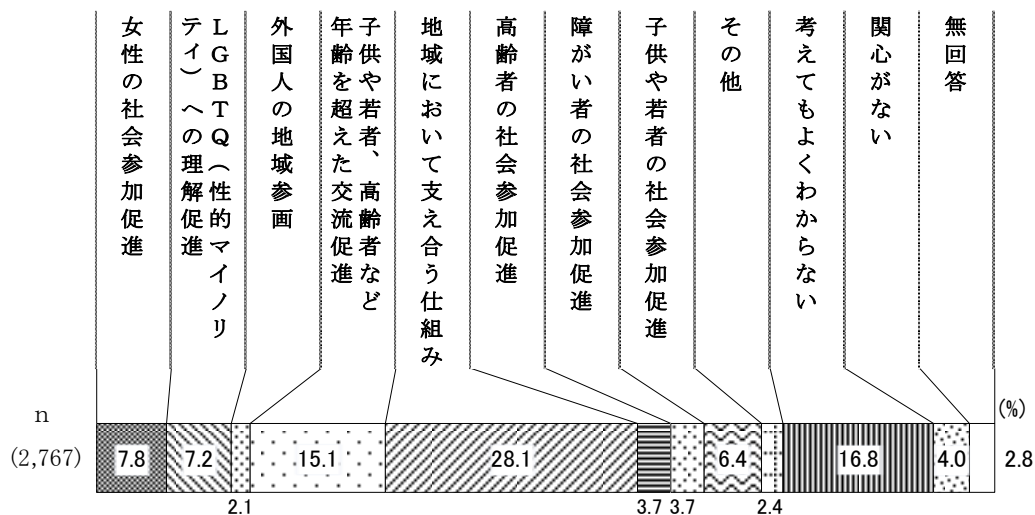


現在の社会について感じていることは、「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が不十分であると感じる」(29.6%) が約3割と最も高く、次いで「考えてもよくわからない」(23.6%)、「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が感じられない」(21.7%)、「共生社会の実現に向けた社会全体の取組や意識の変化が進んでいると感じる」(16.8%) などとなっている。

(3) 共生社会を実現するために最も重要だと思う取組

◇「地域において支え合う仕組み」が28.1%

問20 共生社会を実現するために、最も重要だと思う取組はどれですか。(〇は1つだけ)



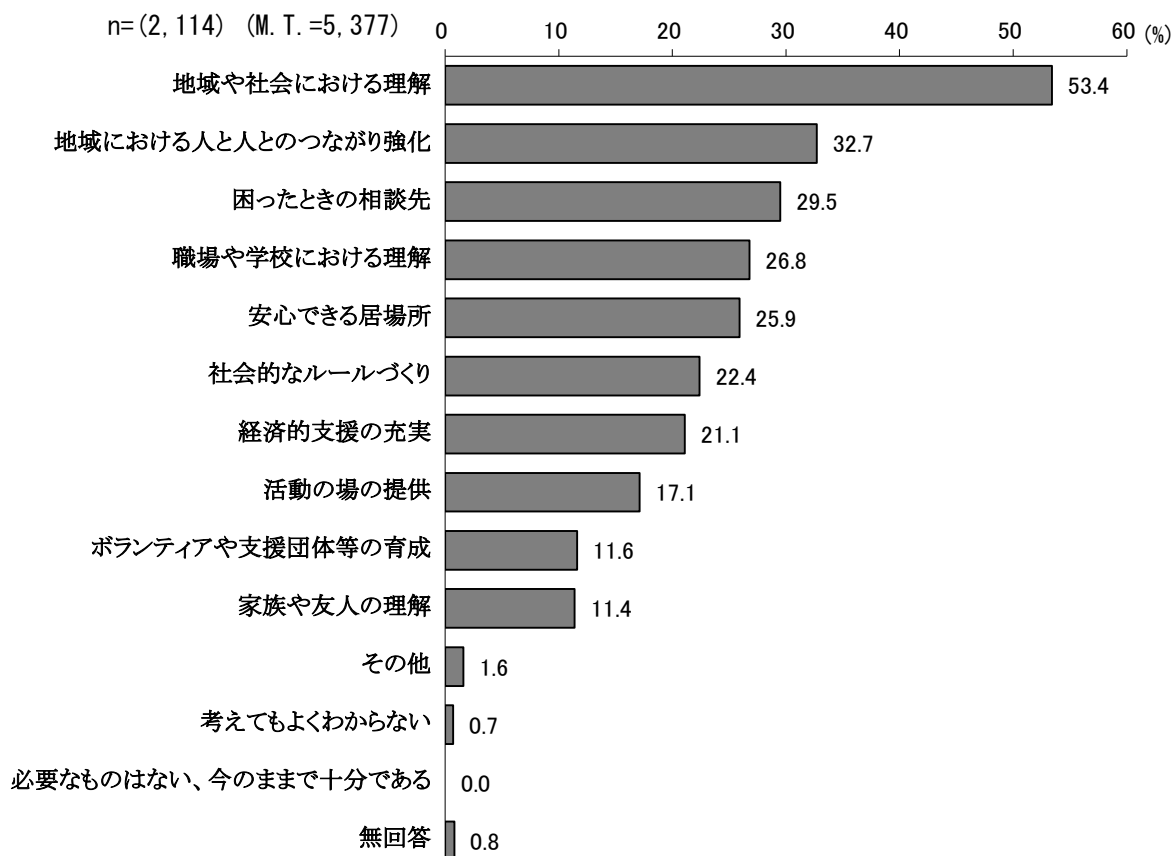
共生社会を実現するために最も重要だと思う取組は、「地域において支え合う仕組み」(28.1%)が3割弱で最も高く、次いで、「考えてもよくわからない」(16.8%)、「子供や若者、高齢者など年齢を超えた交流促進」(15.1%)、「女性の社会参加促進」(7.8%)、「LGBTQ（性的マイノリティ）への理解促進」(7.2%) などとなっている。

(3-1) 共生社会を実現する取組を進める上で具体的に必要だと思うこと

◇「地域や社会における理解」が53.4%

(問20で、何らかの取組を選んだ方(「10. 考えてもよくわからない」、「11. 関心がない」以外)にお伺いします。)

問20-1 問20で選択した取組を進める上で、具体的に必要だと思うことはどれですか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)

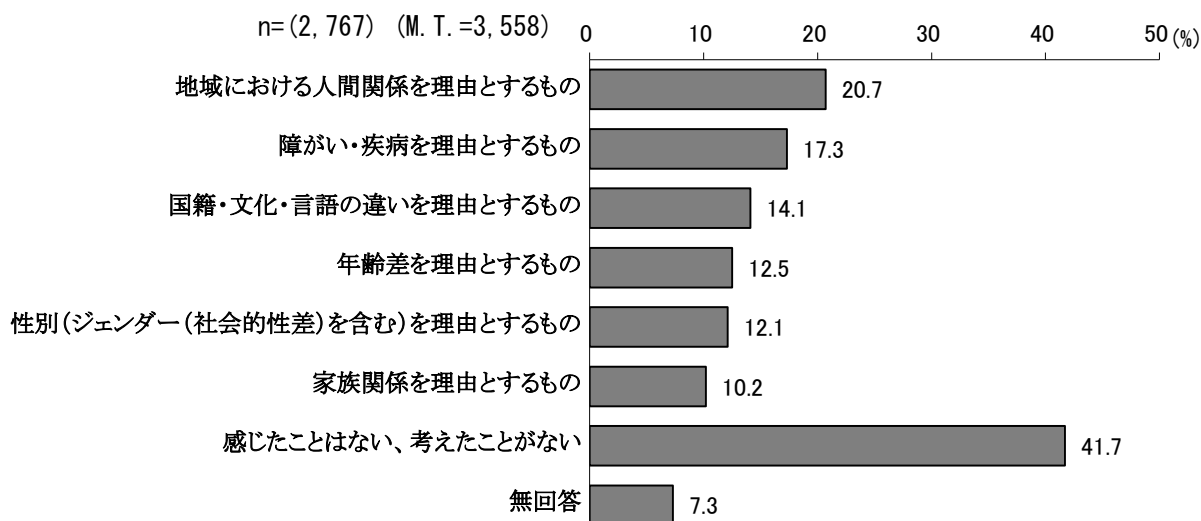


取組を進める上で具体的に必要だと思うことは、「地域や社会における理解」(53.4%)が5割強で最も高く、次いで「地域における人と人とのつながり強化」(32.7%)、「困ったときの相談先」(29.5%)、「職場や学校における理解」(26.8%)、「安心できる居場所」(25.9%)、「社会的なルールづくり」(22.4%)などとなっている。

(4) 「共生」についての悩みや困りごと

◇「地域における人間関係を理由とするもの」が20.7%

問21 「共生」に関して、あなた自身が感じたことのある悩みや困りごとはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)



「共生」についての悩みや困りごとについては、「感じたことはない、考えたことがない」(41.7%)が4割強となっている。

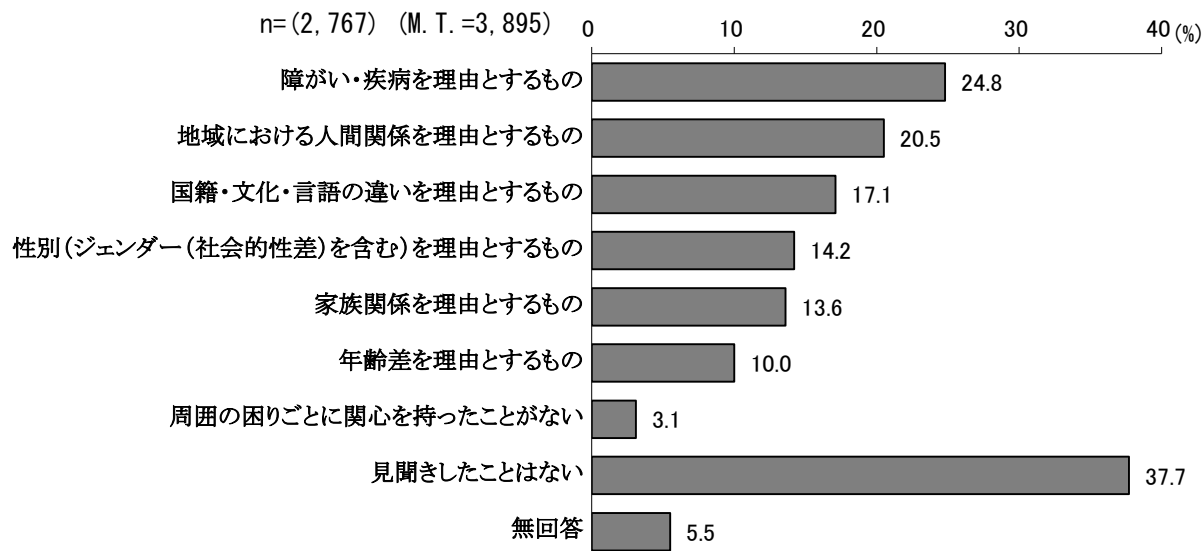
具体的な悩みや困りごとでは、「地域における人間関係を理由とするもの」(20.7%)が2割を超えて最も高く、次いで、「障がい・疾病を理由とするもの」(17.3%)、「国籍・文化・言語の違いを理由とするもの」(14.1%)などとなっている。

(5) 「共生」について周囲の人の悩みや困りごととして見聞きしたこと

◇「障がい・疾病を理由とするもの」が24.8%

問22 「共生」に関して、あなたの周囲の人の悩みや困りごととして見聞きしたことがあるものはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

(○はいくつでも)



「共生」について周囲の人の悩みや困りごととして見聞きしたことは、「見聞きしたことはない」(37.7%)が3割台半ばを超えている。

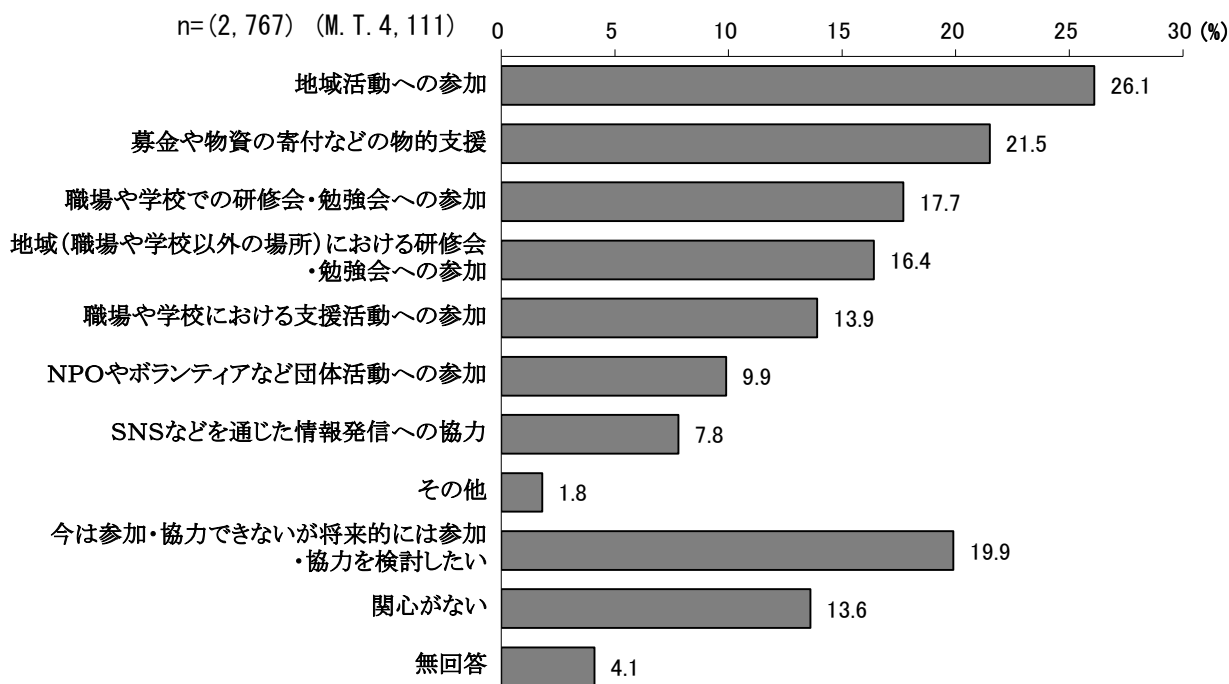
具体的に見聞きした周囲の人の悩みや困りごととしては、「障がい・疾病を理由とするもの」(24.8%)が2割台半ばで最も高く、次いで「地域における人間関係を理由とするもの」(20.5%)、「国籍・文化・言語の違いを理由とするもの」(17.1%)などとなっている。

(6) 共生社会づくりの取組で参加・協力できると思うもの

◇「地域活動への参加」が26.1%

問23 埼玉県が共生社会づくりの取組を進めて行く中で、あなたが参加・協力できると思うものはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

(○はいくつでも)



共生社会づくりの取組で参加・協力できると思うものは、「地域活動への参加」(26.1%)が2割台半ばを超えて最も高く、「募金や物資の寄付などの物的支援」(21.5%)、「職場や学校での研修会・勉強会への参加」(17.7%)、「地域(職場や学校以外の場所)における研修会・勉強会への参加」(16.4%)などとなっている。

一方で、「今は参加・協力できないが将来的には参加・協力を検討したい」(19.9%)が約2割、「関心がない」(13.6%)が1割強となっている。

5. エスカレーターの利用について

次にエスカレーターの利用についておたずねしました。

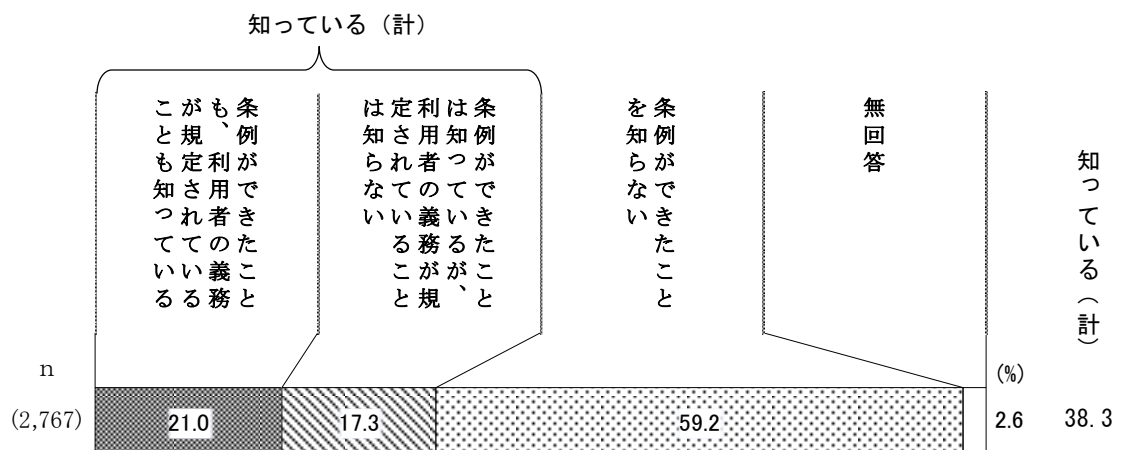
埼玉県議会令和3年2月定例会において「埼玉県エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例（以下「条例」という。）」が成立しました。施行日は、令和3年10月1日です。

条例では、エスカレーターの利用者の義務として「立ち止まった状態で利用しなければならない」と規定しています。

(1) 「埼玉県エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例」の認知度

◇「条例ができたことを知らない」が59.2%

問24 あなたは、条例ができたことを知っていますか。（○は1つだけ）



「埼玉県エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例」の認知については、「条例ができたことを知らない」（59.2%）が約6割となっている。

認知程度としては、「条例ができたことも利用者の義務が規定されていることも知っている」（21.0%）が2割強で、「条例ができたことは知っているが、利用者の義務が規定されていることは知らない」（17.3%）を上回っている。

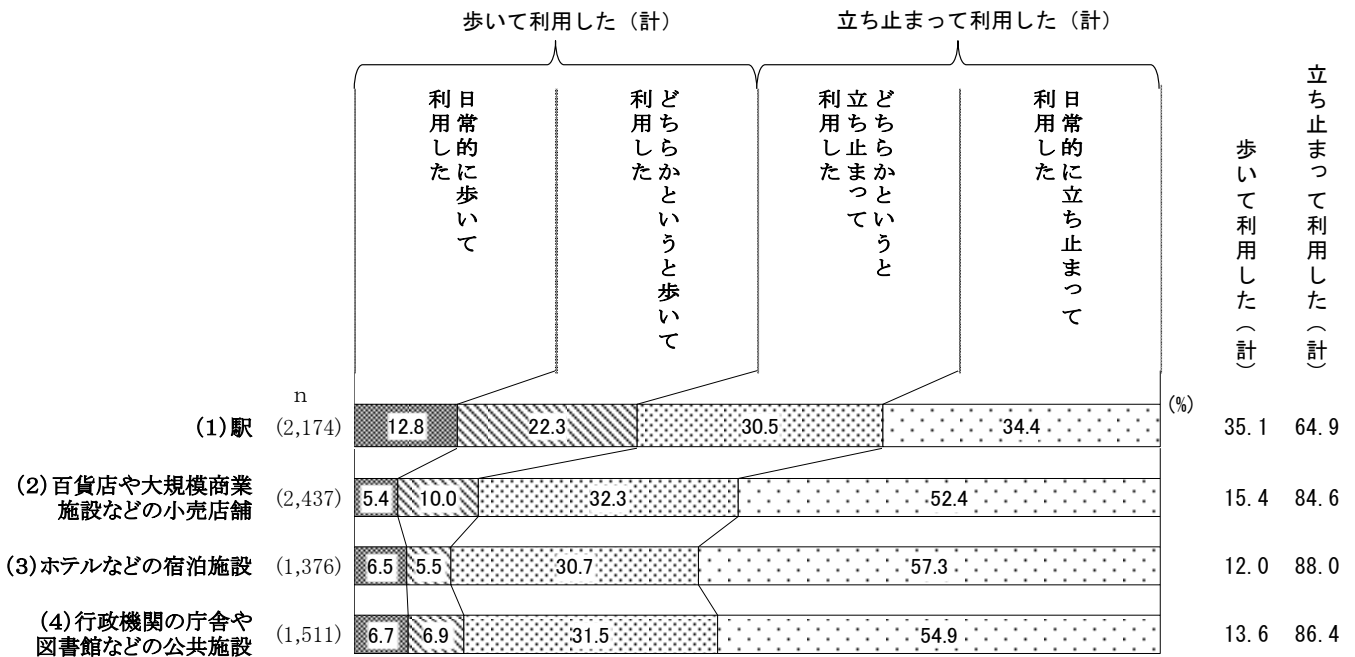
(2) エスカレーターの利用実態

◇駅での利用は、『歩いて利用した（計）』が27.6%、『立ち止まって利用した（計）』が51.0%

問25 あなたは、最近1年間、エスカレーターを利用する際、歩いて利用しましたか。それとも立ち止まって利用しましたか。エスカレーターが設置されている次の（1）から（4）までの施設それぞれについて、近いものを選んでください。

（各施設それぞれ〇は1つつ）

※本設問は、任意設問のため、「利用していない」と「無回答」を除いたものをn数（回答者）として、利用形態を比較した。

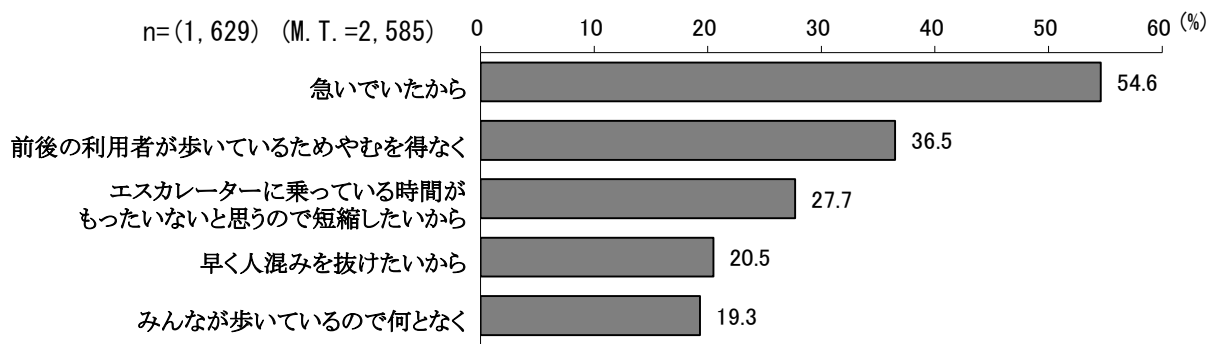


『立ち止まって利用した（計）』は（3）ホテルなどの宿泊施設（88.0%）で9割弱と最も高くなっている。次いで（4）行政機関の庁舎や図書館などの公共施設（86.4%）、（2）百貨店や大規模商業施設などの小売店舗（84.6%）となっており、（1）駅（64.9%）が6割台半ばで最も低くなっている。

(3) エスカレーターを歩いて利用した理由

◇「急いでいたから」が54.6%

問26 エスカレーターを歩いて利用したことのある方にお伺いします。
あなたがエスカレーターを歩いて利用した理由は何ですか。(〇はいくつでも)

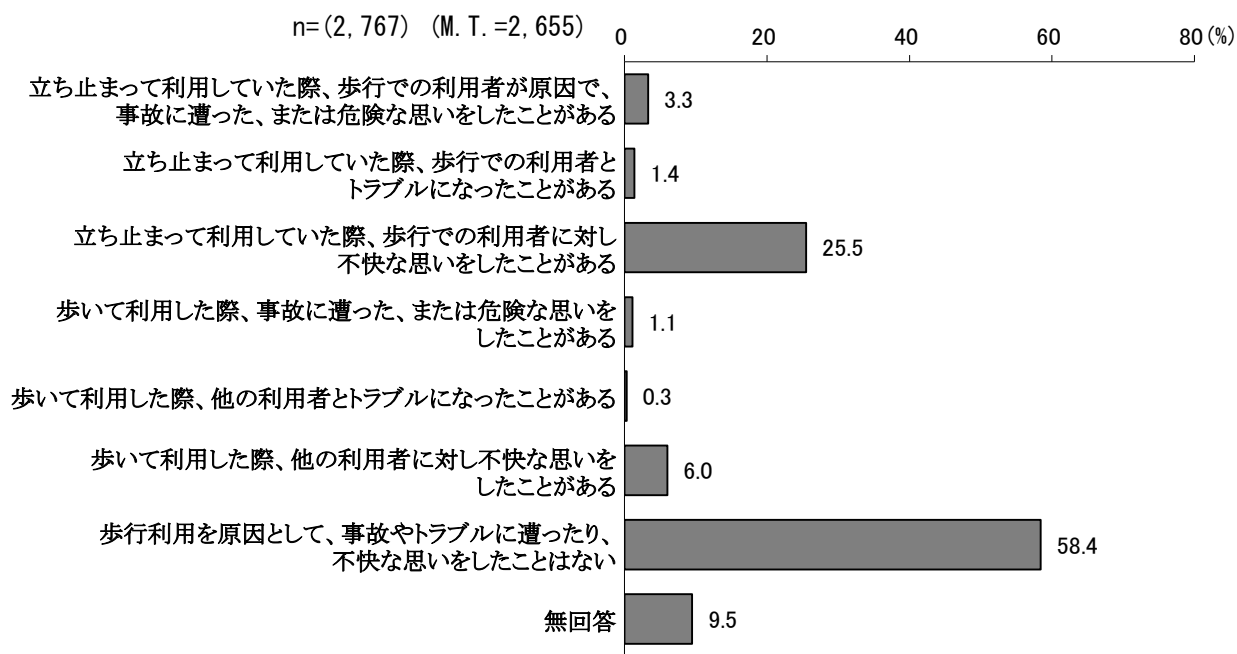


エスカレーターを歩いて利用した理由は、「急いでいたから」(54.6%)が5割台半ばと最も高く、以下、「前後の利用者が歩いているためやむを得なく」(36.5%)、「エスカレーターに乗っている時間をもったいないと思うので短縮したいから」(27.7%)、「早く人混みを抜きたいから」(20.5%)、「みんなが歩いているので何となく」(19.3%)の順となっている。

(4) エスカレーターの歩行利用を原因とする事故やトラブル等の経験

◇「立ち止まって利用していた際、歩行での利用者に対し不快な思いをしたことがある」が25.5%

問27 あなたは、エスカレーターを利用した際、歩行利用を原因として、事故やトラブルに遭ったり、不快な思いをしたりしたことはありますか。(〇はいくつでも)



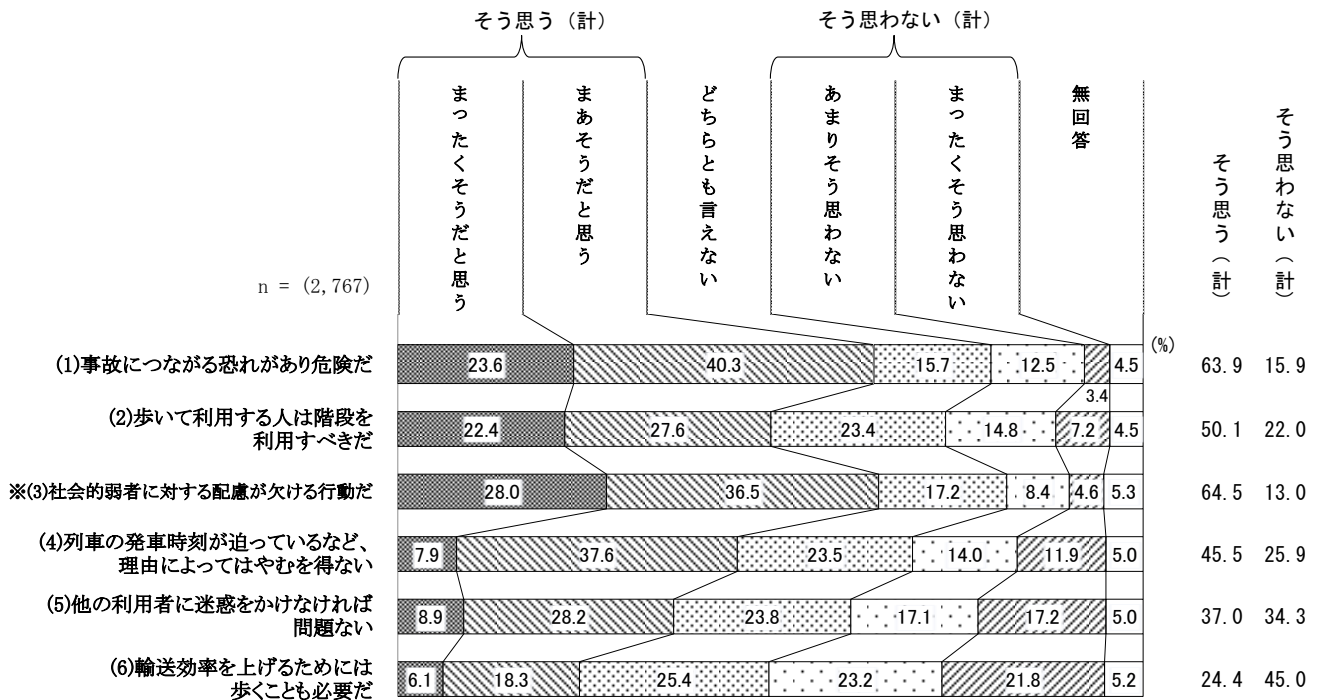
エスカレーターの歩行利用を原因とする事故やトラブルの経験については、「歩行利用を原因として、事故やトラブルに遭ったり、不快な思いをしたことはない」(58.4%)は6割弱となっている。

エスカレーターの歩行利用を原因とする事故やトラブルの内容としては、「立ち止まって利用していた際、歩行での利用者に対し不快な思いをしたことがある」(25.5%)が2割台半ばで最も高く、次いで「歩いて利用した際、他の利用者に対し不快な思いをしたことがある」(6.0%)などとなっている。

(5) エスカレーターの歩行利用について感じる事

◇「段差を登れず、右手でしか手すりにつかまれない利用者など社会的弱者に対する配慮が欠ける行動だ」、「事故につながる恐れがあり危険だ」については、『そう思う (計)』が6割以上

問28 あなたは、エスカレーターを歩いて利用することについて、どのように感じていますか。次の(1)から(6)までのそれぞれの項目について、あなたの考えに近いものを選んでください。(各項目それぞれ〇は1つずつ)



※「(3) 社会的弱者に対する配慮が欠ける行動だ」は、「段差を登れず、右手でしか手すりにつかまれない利用者など社会的弱者に対する配慮が欠ける行動だ」を指す。

【歩行利用に対する否定的な項目 (1) ~ (3)】

『そう思う (計)』は「(3) 段差を登れず、右手でしか手すりにつかまれない利用者など社会的弱者に対する配慮が欠ける行動だ」(64.5%)が6割台半ばで最も高くなっている。次いで、「(1) 事故につながる恐れがあり危険だ」(63.9%)、「(2) 歩いて利用する人は階段を利用すべきだ」(50.1%)となっている。

【歩行利用に対する容認的な項目 (4) ~ (6)】

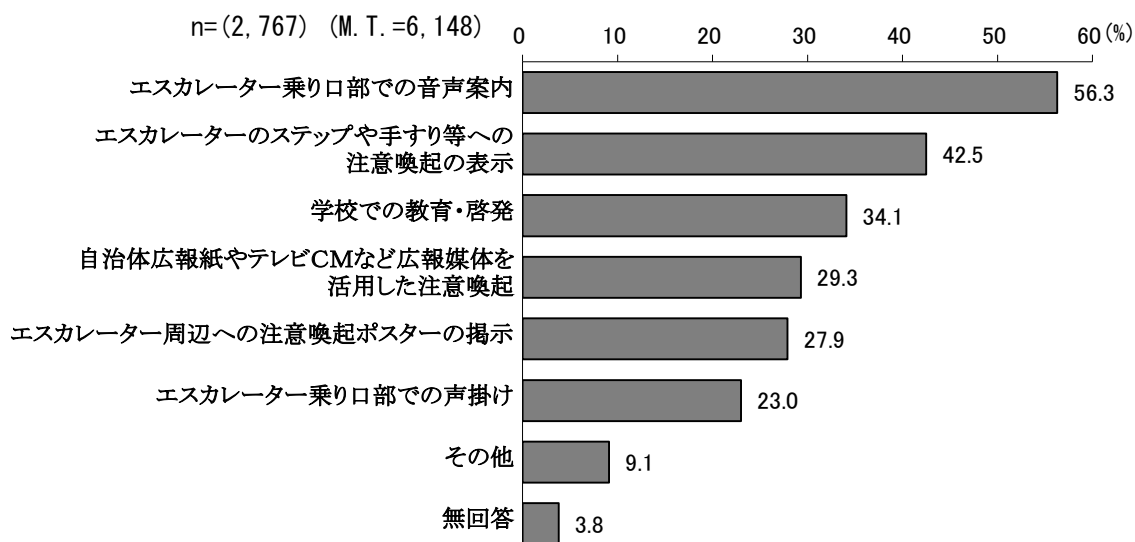
『そう思わない (計)』は「(6) 輸送効率を上げるためには歩くことも必要だ」(45.0%)が4割台半ばと最も高くなっている。次いで、「(5) 他の利用者に迷惑をかけなければ問題ない」(34.3%)、「(4) 列車の発車時刻が迫っているなど、理由によってはやむを得ない」(25.9%)となっている。

(6) エスカレーターの利用を浸透させるための効果的な取組

◇「エスカレーター乗り口部での音声案内」が56.3%

問29 あなたは、エスカレーターの立ち止まった状態での利用を浸透させるために、どのような取組が効果的だと思いますか。次の中から3つまでを選んでください。

(〇は3つまで)



エスカレーターの立ち止まり利用を浸透させるための効果的な取組は、「エスカレーター乗り口部での音声案内」(56.3%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで、「エスカレーターのステップや手すり等への注意喚起の表示」(42.5%)、「学校での教育・啓発」(34.1%)、「自治体広報紙やテレビCMなど広報媒体を活用した注意喚起」(29.3%)、「エスカレーター周辺への注意喚起ポスターの掲示」(27.9%)、「エスカレーター乗り口部での声掛け」(23.0%)などとなっている。

世論調査実施状況

(参考資料)

回	年度	調査時期	テーマ	標本数	調査方法	回収率
1	昭和43年度	8月16日～9月2日	県政全般(県政への関心、暮らし向き、青少年、教育、保健、スポーツ、社会福祉、住宅、環境等)	1,500	個別面接聴取法	84.0%
2	昭和44年度	7月15日～31日	県政全般(自治意識、暮らし向き、青少年、教育、保健、社会福祉、住宅、環境、消費生活等)	1,500	個別面接聴取法	81.3%
3	昭和45年度	9月20日～10月10日	県政全般(自治意識、青少年、教育、保健、社会福祉、住宅、公害、消費生活、農業等)	1,500	個別面接聴取法	86.5%
4		11月9日～24日	広報、具体的な広報の媒体、広聴	1,500	個別面接聴取法	89.1%
5	昭和46年度	9月20日～10月3日	近隣社会、居住環境	1,500	個別面接聴取法	90.7%
6		11月26日～12月9日	大災害に関すること(一般的関心、地震、防火、避難、近隣組織、職場・外出先での対策、地震に対する備えについて)	1,500	個別面接聴取法	86.6%
7	昭和47年度	10月26日～11月4日	県政全般(公害・交通問題、県民の健康とくらし、教育・文化・スポーツを伸ばす等)	1,500	個別面接聴取法	82.5%
8	昭和48年度	11月14日～26日	県政全般(広報、自然環境と開発、福祉、消費生活、ごみ処理、保健、商工、農林、労働、都市環境、教育等)	1,500	個別面接聴取法	84.7%
9	昭和49年度	8月15日～27日	県政全般(現在の住まい、広報、公害、交通、健康、県民のくらし、学校教育、自然保護等)	1,500	個別面接聴取法	80.9%
10	昭和50年度	8月上旬～中旬	県政全般(公害、交通安全、災害、警察、医療、福祉、教育、自然保護と開発、水、住宅、ごみ、商工、農林等)	1,500	個別面接聴取法	77.1%
11		3月9日～18日	学校教育、生活環境、自然環境	1,500	個別面接聴取法	83.0%
12	昭和51年度	7月20日～31日	水問題、福祉問題、コミュニティ問題	1,500	個別面接聴取法	83.9%
13	昭和52年度	6月15日～30日	地域社会、地域福祉、文化活動、医療、献血、暴走族、県政への満足度、県民討論会、県政全般	1,500	個別面接聴取法	83.6%
14	昭和53年度	7月14日～26日	文化の問題、婦人の問題、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	83.1%
15	昭和54年度	7月10日～26日	みどりの環境、地震災害、県政全般	1,500	個別面接聴取法	81.9%
16	昭和55年度	7月25日～8月11日	老人福祉、21世紀のまちづくり、地価及び宅地問題、県政全般	1,500	留置記入依頼法	87.5%
17	昭和56年度	7月25日～8月14日	水問題、障害者福祉、県政全般	1,500	個別面接聴取法	84.1%
18	昭和57年度	7月23日～8月12日	交通安全、行政改革、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	82.5%
19	昭和58年度	7月20日～8月14日	21世紀の県民生活、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	83.7%
20	昭和59年度	7月20日～8月12日	みどり、快適な環境、文化活動、サービス業、県税、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	80.4%
21	昭和60年度	7月18日～8月11日	高齢化社会、コミュニティ、学校教育、平和、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	78.4%
22	昭和61年度	7月9日～8月14日	国際交流、健康、快適な環境、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.1%
23	昭和62年度	6月1日～30日	住環境、景観、交通網、生涯学習、ボランティア活動、社会意識、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	80.2%
24	昭和63年度	7月1日～31日	県民生活、土地問題、ごみ処理、文化活動、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	75.7%
25	平成元年度	6月23日～7月23日	高度情報化施策、男女平等意識、青少年健全育成、埼玉コロナム・埼玉メッセ、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	76.4%
26	平成2年度	7月4日～29日	環境保全、交通安全、県税、お墓、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	78.1%
27	平成3年度	7月5日～8月4日	スポーツ・レクリエーション活動、道路整備、ペット問題、商品包装、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.5%
28	平成4年度	6月26日～7月26日	住宅問題、防災、高度情報化施策、個人情報保護、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	75.0%
29	平成5年度	7月9日～8月4日	新しくにづくり、人と環境にやさしいサイクル県づくり、国際化とまちづくり、住みよさ、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.2%

回	年度	調査時期	テーマ	標本数	調査方法	回収率
30	平成6年度	7月8日～8月10日	消費生活、ボランティア活動・福祉活動への参加について、子どもと家族、県の広報について、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	76.4%
31	平成7年度	7月1日～31日	21世紀の彩の国さいたまの将来像、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	78.3%
32	平成8年度	7月10日～8月11日	ごみ減量化について、身近な自然について、健康と医療サービスについて、高度情報化施策について、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	74.3%
33	平成9年度	8月16日～9月15日	県政情報、安全な暮らし(防災、高齢者の交通安全、犯罪)、墓地、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	77.8%
34	平成10年度	7月10日～8月9日	国民体育大会、青少年問題、公園、高齢者福祉、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	76.9%
35	平成11年度	7月9日～8月8日	埼玉県の緑、子育て支援、ボランティア活動、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.3%
36	平成12年度	7月8日～8月7日	環境全般・環境学習について、公害問題について、廃棄物問題・リサイクルについて、有害な化学物質について、地球温暖化について、環境保全活動について、今後の県の取り組み、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	76.7%
37	平成13年度	6月30日～7月30日	保健・医療、文化・芸術、国際交流・国際協力、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	77.2%
38	平成14年度	7月6日～8月5日	農林業の役割、屋外照明による生活環境への影響、日常生活、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.3%
39	平成15年度	7月15日～8月5日	防犯、水環境、食の安全、日常生活、生活意識、定住意向、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	67.3%
40	平成16年度	7月13日～8月10日	生活意識、日常生活、森林環境、地球温暖化、子どもの虐待、スポーツ振興、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.4%
41	平成17年度	7月2日～8月1日	生活意識、日常生活、子育て支援、みどりの環境税制、消費生活、まちづくり・住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.9%
42	平成18年度	7月8日～8月14日	生活意識、日常生活、生活圏とまちづくり、外国人との共生、団塊世代等の人材活用、定住意向、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	65.3%
43	平成19年度	7月13日～8月6日	生活意識、日常生活、消費生活、子どもの安全対策、県民のスポーツ振興、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.4%
44	平成20年度	7月11日～8月8日	生活意識、日常生活、住みよさ、みどりと川の再生、大学と地域の連携、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	74.8%
45	平成21年度	7月10日～8月3日	生活意識、日常生活、定住意向、スポーツ振興、水道の未来づくり、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.0%
46	平成22年度	7月9日～8月2日	生活意識、日常生活、消費生活、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.1%
47	平成23年度	7月8日～8月1日	生活意識、日常生活、住みよさ、自転車利用、生涯学習、買い物弱者、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.7%
48	平成24年度	7月6日～29日	生活意識、日常生活、定住意向、健康長寿埼玉、震災前後における省エネ・創エネに関する意識と行動の変化、県教育行政、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.1%
49	平成25年度	7月5日～28日	生活意識、日常生活、個人情報保護と活用、埼玉県ホームページの利用状況、生涯学習、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.0%
50	平成26年度	7月4日～27日	生活意識、日常生活、住みよさ、埼玉版ウーマノミクスプロジェクト、治水対策、食品ロスの削減、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	70.8%
51	平成27年度	7月3日～26日	生活意識、日常生活、定住意向、人口減少問題、大地震への備え、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.9%
52	平成28年度	7月8日～31日	生活意識、日常生活、スポーツ振興、認知症、水道の利用、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	72.5%
53	平成29年度	7月7日～31日	生活意識、日常生活、シニアの社会参加、性的少数者(LGBT)、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.3%
54	平成30年度	7月6日～31日	生活意識、日常生活、定住意向、受動喫煙防止対策、社会貢献活動における寄附、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	70.7%
55	令和元年度	7月5日～31日	生活意識、日常生活、大地震に備えた取組について、生涯現役に向けた定年後の準備、就労希望等について、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	66.5%
56	令和2年度	8月8日～28日	生活意識、日常生活、住みよさ、新型コロナウイルス感染症への不安、環境への関心と行動、川の再生、県政への要望	5,000	郵送法	56.7%
57	令和3年度	7月9日～30日	生活意識、日常生活、定住意向、新型コロナウイルス感染症への不安、共生社会、エスカレーターの利用、県政への要望	5,000	郵送法	55.3%

本報告書の調査データを引用された場合は、
掲載資料1部を下記の担当課へ送付願います。

令和3年度

埼玉県政世論調査

令和3年11月発行

埼玉県県民生活部県民広聴課

〒330-9301

埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1



埼玉県マスコット「コバトン&さいたまっち」